2-899-421-03(1)

SONY

ロケーションフリー液晶モニター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

LocationFree

NETAV

MEMORY STICK ™

LF-12MT1

SONY ロケーションフリー液晶モニター LF-12MT1

ご案内

本製品に関するお問い合わせは「ロケーションフリーカスタマーサポートセンター」へ

ロケーションフリーカスタマーサポートセンター

- **ナビダイヤル.. 0570-05-0005**
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- **携帯電話・PHS でのご利用は 0191-31-8595**
受付時間：月～金　午前 9 時～午後 8 時
土・日・祝日　午前 9 時～午後 5 時
- **よくある質問についてのページ http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/**

ケーブルモデムや ADSL モデムの設定、インターネットへの接続、メールボックスの容量など、ネットワークへの接続については、ご利用の回線事業者またはプロバイダへお問い合わせください。

万一不具合が生じた場合は
製品の品質には万全を期しておりますが、万一ご使用中に動作しない、記録できないなどの故障が生じた場合は、上記のロケーションフリーカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、当社指定宅配業者がお客様宅まで伺い、引取修理をさせていただきます。その際には、故障箇所にかかわらず、モニターと AC パワーアダプターを合わせて、お渡しください。

ロケーションフリーのホームページ
- **http://www.sony.co.jp/locationfree/**

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南 1-7-1

eco info この説明書は、古紙 70％以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

⚠警告

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5 ～ 14 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。15 ～ 17 ページの「**使用上のご注意**」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはロケーションフリー カスタマーサポートセンター（裏表紙）に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき

➡

❶ モニターの電源を切り、バッテリーを取りはずす。
コンセントに AC パワーアダプターの電源プラグが差し込まれているときは、電源プラグをコンセントから抜く。

❷ お買い上げ店またはロケーションフリー カスタマーサポートセンター（裏表紙）に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意　火災　感電

行為を禁止する記号

禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示　プラグをコンセントから抜く

本機のワイヤレス通信について

電波障害自主規制について

この機器は 2.4GHz 帯および 5GHz 帯の無線周波数帯を使用していますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。この機器と他の無線機器間との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

2.4DS·OF2

この無線機器の使用周波数は 2.4GHz 帯および 5GHz 帯を使用します。変調方式として 2.4GHz は DS-SS および OFDM 変調方式、5GHz は OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は 20m です。

IEEE802.11b/g
IEEE802.11a
J52 W52 W53

本機の 5GHz 帯無線 LAN 周波数は 5150 ～ 5350 MHz（36, 40, 44, 48, 52, 56, 60, 64ch）に対応しています。
詳細については、http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/ をご覧ください。

ワイヤレス通信に関するご注意

- 次のような環境で使用すると、ベースステーションとモニターとの間で電波が通りにくくなり、通信距離が短くなることがあります。
  - 鉄筋／コンクリート／石の壁や床や床暖房の入った床
  - 鉄製の間仕切りやドア、防火ガラス、金属などの材料を使った家具や電化製品などがベースステーションとモニターの間にある場合

＜ 2.4GHz 帯の場合＞

この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯を含んでいます。この周波数帯では電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）までお問い合わせください。

- 電子レンジ使用中に、2.4GHz 帯を使用した場合本機のワイヤレス通信が電子レンジの発する電波の干渉を受け、画像が乱れることがあります。電子レンジから離れた場所で本機を使用してください。電子レンジを使用していないときは、本機は干渉を受けません。
- 近くで 2.4GHz、IEEE802.11b、IEEE802.11g 準拠のワイヤレス LAN アクセスポイントまたは、コードレス電話、コードレスヘッドホンなどの無線機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。

＜ 5GHz 帯の場合＞

- 5GHz 帯無線 LAN の使用は、電波法により屋内使用に限定されます。
- 近くで 5GHz、IEEE802.11a 準拠のワイヤレス LAN アクセスポイントまたは、無線機器を使用しているとき、電波の干渉を受ける場合があります。

この機器には、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されており、証明ラベルは無線設備上に添付されております。

本機のワイヤレス通信について

ワイヤレス LAN のセキュリティについて

ワイヤレス LAN ではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。セキュリティ対策を施さず、あるいは、ワイヤレス LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じたあらゆる損害に対する責任を負いかねます。
詳細については、
http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/
をご覧ください。
本機のワイヤレス LAN の設定方法は、取扱説明書を参照してください。

警告 火災 感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、本機や付属品に触れない

感電の原因となります。

接触禁止

本機は国内専用です

海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

指示

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。また、取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐにモニターの電源を切って、バッテリーを取りはずし（コンセントに AC パワーアダプターの電源プラグが差し込まれているときは、電源プラグをコンセントから抜いてください）、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）に点検・修理をご依頼ください。

禁止

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクなど炎が発生しているものを置かない

火災や感電の原因となります。

禁止

内部を開けない

火災や感電、けがの原因となります。

また、本機は、電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵され、かつ（財）電気通信端末機器審査協会の技術基準適合認定を受けた製品であり、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。

内部の点検や修理は、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（裏表紙）にご依頼ください。

分解禁止

⚠警告　火災　感電　下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

ゆるいコンセントに接続しない

電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントにはつながないでください。発熱して火災の原因となることがあります。電気工事店にコンセントの交換をご依頼ください。

禁止

LAN ケーブル、電源プラグのコードの配置に注意する

本機に取り付ける LAN ケーブルや電源プラグのコードが、人が歩く場所にはみ出ていると、足をひっかけるなどして、けがの原因になったり、本機の損傷の原因になったりします。

指示

電源プラグや AC パワーアダプターのコードを振り回さない

人やガラスなどに当たってけがをすることがあります。

禁止

お子さまの手の届かない場所に設置する

タッチペンやはずれた部品を飲み込むなど、思わぬ事故の原因になり危険です。

注意

安定した場所に設置する

モニターをぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指示

モニターのスタンド部分を持って運ばない

けがの原因となることがあります。

注意

タッチペンで目などを突かない

けがの原因となります。取り扱いに注意してください。

注意

バッテリーの交換は安定した場所で行う

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

注意

⚠警告　火災　感電　下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

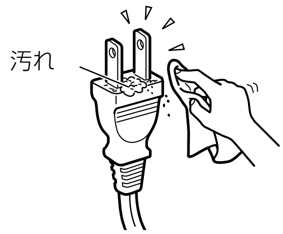
機器に近いコンセントに電源プラグを接続する

設置の際には、使用中に容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。万一、異常がおきた際には、電源プラグを抜いてください。

指示

電源プラグや充電端子は定期的にお手入れを

電源プラグとコンセントの間や、充電端子に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを取ってください。



自動車の中では使わない

本機は車載仕様ではありません。

禁止

お手入れの際、電源プラグを抜き、バッテリーを取りはずす

電源プラグを差し込んだままお手入れをしたり、バッテリーをモニターに取り付けたままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

電源スイッチを入れたまま、電源プラグ等の抜き差しをしない

電源スイッチが入った状態で電源プラグの抜き差しや他機器との接続をおこなわないでください。誤動作することがあります。また、感電の原因となることがあります。

禁止

指定の AC パワーアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを抜くときはまず壁側コンセントから抜く

壁側コンセントから抜かないと感電することがあります。抜くときは必ずコードでなくプラグを持って抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

⚠警告 火災 感電　下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

旅行などで長期間使用しないときは、電源プラグを抜く

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

本体を布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

AC パワーアダプターを誤った方法で使用しない

AC パワーアダプターを誤った方法で使用すると、熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。
以下の方法を必ず守って、本機をお使いください。

- AC パワーアダプターのまわりに物を置かない。
- AC パワーアダプターを布などでおおわない。
- 2 つ以上の AC パワーアダプターを重ねない。
- AC パワーアダプターを箱などに入れない。

禁止

移動させるときは、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。運ぶときは、衝撃を与えないようにしてください。

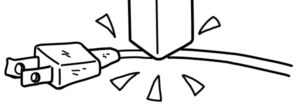
プラグをコンセントから抜く

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 電源コードに重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 電源コードを熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはロケーションフリーカスタマーサポートセンターに交換をご依頼ください。



禁止

⚠警告 火災 感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

たこ足配線をしない

火災や感電の原因となることがあります。

禁止

スタンド部の充電端子をショートさせない

スタンド部の充電端子を金属物でショートさせないでください。火災や故障の原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

注意

コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。

注意

ぬれた手で電源プラグ、AC パワーアダプター、バッテリーおよび本体にさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

⚠警告 下記の注意事項を守らないと**医療機器**などを**誤作動**させるおそれがあり事故の原因となります。

満員電車など混雑した場所ではワイヤレス機能を使用しない

付近に心臓ペースメーカーを装着されている方がいる可能性のある場所では、電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

禁止

本機を医療機関に設置しない

医療機器の誤動作の原因となることがあります。

禁止

ペースメーカーなどの近くで使用しない

ペースメーカーなどの医療電気機器を使用中に、本機を近づけないでください。医療電気機器が誤動作する可能性があります。

禁止

IEEE802.11a モードは屋外で使用しない

法令により、5GHz 帯を屋外で使用することは禁止されています。

禁止

本機を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、使用を中止する

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

禁止

⚠警告　下記の注意事項を守らないと**健康を害する**おそれがあります。

液晶画面を長時間続けて見ない

注意

液晶画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
液晶画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

目や口に液晶を入れない / ガラスの破片に触れない

禁止

液晶パネルが破損すると、破損した部分から液晶（液状）が漏れたり、ガラスの破片が飛び散ることがあります。この液晶やガラスの破片に触れるとけがをするおそれがあります。また漏れた液晶に素手で触れると中毒やかぶれの原因となります。においを嗅ぐこともやめてください。誤って、目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

タッチペンで液晶画面を強く押しすぎない

液晶画面が壊れる原因となることがあります。

注意

モニターに長時間触れない

長時間モニターをひざの上に乗せたりしないでください。温度が上がり、低温やけどの原因となることがあります。

禁止

大音量で聞かない

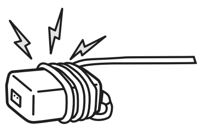
耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。また、ヘッドホンをつけたまま眠ってしまうと危険です。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



注意

AC パワーアダプターのコードや電源コードを AC パワーアダプターに巻き付けない

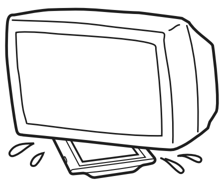
断線や故障の原因となることがあります。



禁止

本機の上にものを載せない

壊れたり、けがの原因となることがあります。



禁止

液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面（表示部）はガラスでできています。モニターをひねったり、落としたり、モニターに肘をついたり、重いものを載せたりなどすると、タッチパネルや液晶画面が割れて、けがの原因となることがあります。



禁止

硬い物質で液晶画面を操作したり､強打しない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

禁止

⚠注意　下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

禁止

モニターを設置するときはスタンドを使用する

スタンドを使用せずにモニターを設置すると、落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。

指示

モニターとモニターハンドルの間に手を挟まない

モニターハンドルを収納するとき、モニターとモニターハンドルの間に手を挟まないようにしてください。

注意

AC パワーアダプターを海外旅行者用の電子式変圧器などに接続しない

発熱や故障の原因となります。

禁止

バッテリーについての安全上のご注意

液漏、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解したりしない。電子レンジやオーブンで加熱しない。
- コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯や保管しない。ショートすることがあります。
- 本体に付属のバッテリーもしくは、別売りの専用バッテリー以外は使用しない。
- 雨がかかる場所または水気のある場所で使用しない。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリーから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談する。

⚠警告

バッテリーを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などにしたがう。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

リチウムイオン電池についてのお願い

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になった
リチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁
テープを貼って、充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店に
関する問い合わせ先：
社団法人電池工業会 TEL：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp

Li-ion

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の裏面や AC パワーアダプターが熱くなることがあります

- 本機の動作時や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。
- 本機は使用状況により熱くなることがあります。モニターは、長時間ひざの上などにおいてご使用にならないでください。

異常に熱くなったときは、本機の電源を切り、AC パワーアダプターの電源コードを抜き、バッテリーを取りはずしてください。次に、ロケーションフリーカスタマーサポートセンターに修理をご依頼ください。

使用上のご注意

落とさないでください

本機に強いショックを与えないでください。故障の原因となることがあります。また、液晶パネルのガラスが割れることがあります。

取り扱いについて

- 本機を雨または湿気にさらさないでください。モニターの隙間から内部に水が入り込み、故障の原因となります。
- 必ず、付属の AC パワーアダプターを使用して電源につないでください。
- 本機を開けたり分解しないでください。
- 電波法に基づく認証を受けた無線設備が内蔵されており、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。
- （財）電気通信端末機器審査協会より技術基準適合認定を受けており、分解および改造を行うと、法律で罰せられることがあります。

通信不良によるお客様の損害につきまして、当社は一切その責任を負いかねます。 通信内容が漏れたことに対しても、当社は一切その責任を負いかねます。

置き場所について

- 次のような場所に置かないでください。
  - 異常に高温になる場所：炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内はとくに高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
  - 直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど、温度の高い場所：変形したり、故障したりすることがあります。またバッテリーの寿命が短くなります。
  - 人が通行するような場所：電源コードや信号ケーブルは、足に引っかかると製品の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかけたりするような恐れのある場所を避け、充分に注意して接続・配置してください。
  - 風呂場など、濡れた場所や湿気の多い場所：別売りのお風呂ジャケットに入れて使用してください。お風呂ジャケットの取扱説明書をよく読んで正しくお使いください。
  - 乗り物の中や船舶の中などの振動の多い場所
    移動中の振動により、本機が転倒したり落下したりして、けがの原因となることがあります。また、塩水をかぶると発火や故障の原因となることがあります。
  - 強力な磁気のある場所
  - 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所：海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることがあります。
  - ぐらついた台の上や傾いた場所
  - 高い場所：落下してけがの原因になります。
- 暗すぎる部屋は目を疲れさせるのでよくありません。適度の明るさの中でご覧ください。また、連続して長い時間、画面を見ていることも目を疲れさせます。
- 本機の底面よりも、広くて水平で丈夫な場所に置いてください。
- 安定した場所に設置してください。不安定な場所に置くと、落下してけがの原因になります。
- 誤って足で踏んだり、上から物を落としたりすることがないような場所に設置してください。
- ゴムやプラスチック製品など、熱に弱いものの上に置いて使用しないでください。本機の熱により、変形、変色の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで使うと、映像の乱れや雑音の原因となることがあります。このような場合は、テレビやラジオから離れた場所でお使いください。
- お子さまの手の届かない場所に設置してください。タッチペンやはずれた部品を飲み込むなど、思わぬ事故の原因になり、危険です。
- 本機を医療機関に設置して使用しないでください。医療機器の誤動作の原因となることがあります。
- 本機と同じ無線周波数を使用する他の無線機器を同時に使用すると、転送速度の低下や伝送エラーが発生することがあります。
- 2.4GHz 帯を使用した場合、電子レンジ使用中は、本機のワイヤレス通信が電子レンジの発する電波の干渉を受け、画像が乱れることがあります。電子レンジから離れた場所で本機をご使用ください。電子レンジを使用していないときは本機が電子レンジの干渉を受けることはありません。

動画表示について

テレビやビデオを見ているとき、表示の一部がブロック状に見えることがありますが、画像処理によるもので、故障ではありません。

テレビの画質について

お住まいの地域によっては、テレビ受信チャンネルと本機のワイヤレスチャンネルの組み合わせにより、本機のテレビまたはご家庭のテレビ画面に、雪が降ったようなちらつき（画ノイズ）が出ることがあります。

対処のしかた

- 雪が降ったような画ノイズが本機のテレビ画像に出る場合
  ベースステーションのワイヤレス設定で、画ノイズの出ないワイヤレスチャンネルに変更してください。
- 本機を使用すると、雪が降ったような画ノイズがご家庭のテレビ画面に出る場合
  ベースステーションのワイヤレス設定で、画ノイズの出ないワイヤレスチャンネルに変更してください。
  それでも直らないときは、本機とベースステーションをご家庭のテレビおよびアンテナ接続ケーブルから離してご使用ください。

音量について

- 周辺の人の迷惑とならないよう、適度の音量でお楽しみください。特に、夜間は小さい音でも通りやすいので、窓を閉めたりヘッドホンを使用したりして、隣近所への配慮を充分し、生活環境を守りましょう。
- ヘッドホンをご使用のときは、耳をあまり刺激しないよう、適度な音量でお楽しみください。耳鳴りがするような場合は、音量を下げるか、使用を中止してください。

データのバックアップについて

修理時に本機のメモリーが壊れて、保存されていたメールのデータ、画像データ、設定データなどが再現不可能になることがあります。
修理に出される前に、本機に登録した設定内容などは、紙に控えてください。また、本機に保存した画像データは“メモリースティック”などのメモリーカードに控えとしてコピーしてください。

弊社の修理によりデータが万一消去、あるいは変更されたとしても、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

液晶画面についてのご注意

- 液晶画面を傷つけないようにしてください。液晶画面に触れるときは、付属のタッチペンを使用してください。
- 液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めます。窓際や室外などに置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上に物を置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、液晶画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に液晶画面やモニターのキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

“メモリースティック”についてのご注意

“メモリースティック”の挿入口に金属類などの異物を入れないでください。故障の原因となります。

蛍光管についてのご注意

本機は内部照明装置として専用蛍光管を使用していますが、この蛍光管には寿命があります。液晶画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しないときは、お買い上げ店またはロケーションフリー カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

ケーブルについて

本機に接続するケーブルは、電磁界妨害防止のため、3 m 以下のものをお使いください。

フェライトコアについて

本機に付属の AC パワーアダプターにはあらかじめフェライトコアが取り付けられています。取り外さないでください。

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。
液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99 % 以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

結露について

寒いときに暖房をつけた直後など、本機の内部の部品に露（水滴）がつき、正しく動作しないことがあります。バッテリーを取りはずしてから電源プラグを電源コンセントから抜いて、約 2、3 時間放置してください。正常に動作するようになります。

お手入れ

- お手入れをする前に、必ずモニターの電源を切り、電源プラグをすべてコンセントから抜いてください。
- 乾いた柔らかい布、または水をかたくしぼった布で軽く拭いてください。
- 液晶画面の汚れをふきとるときは、市販のクリーニングクロスで軽く拭き取ってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、色落ちや変色する場合がありますので、ご注意ください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 液体状の洗剤などは使用しないでください。本機の内部に入って、故障の原因となることがあります。

搬送時のご注意

- 本機を運ぶときは、本機に接続されているケーブルなどをすべてはずしてください。
  落としたりするとけがや故障の原因となることがあります。
- 修理や引っ越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱を使ってください。

廃棄するときは

- 一般の廃棄物と一緒にしないでください。
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中に本機を捨てないでください。
- 本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則にしたがってください。
- バッテリーについての安全上のご注意（☞ 14 ページ）をご覧ください。

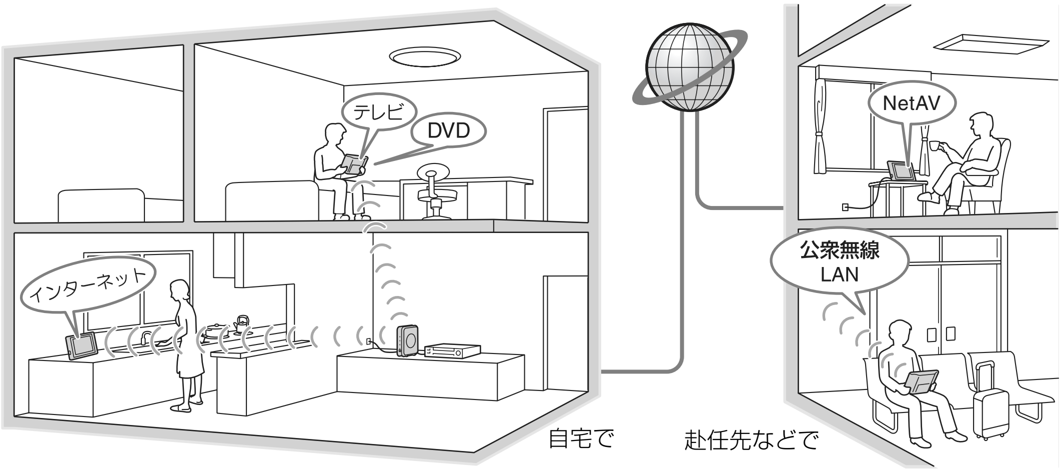
目 次

ちょっと一言

取扱説明書内の画面イラストはイメージです。

ロケーションフリーとは？

本機は、どこにいてもテレビ・ビデオや DVD、インターネット、メール、アルバムが楽しめる LocationFree™ を実現した液晶モニターです。別売りのロケーションフリーベースステーションと組み合わせることにより、家の中ではワイヤレス（無線）や家庭内 LAN で、家の外からは赴任先の公衆無線 LAN など、さまざまな場所で映像などを楽しむことができます。
家の中では、ベースステーションをリビングなどに置き、ワイヤレス通信範囲であればモニターだけを持ち歩いて、どこでもワイヤレスで利用できます。
家の外からは NetAV 機能によって、自宅に設置されたベースステーションにインターネットを介してアクセスし、自宅のテレビ・ビデオや DVD を見ることができます。また、インターネット、メール、アルバムも家の中にいるときと同じように使えます。



ちょっと一言

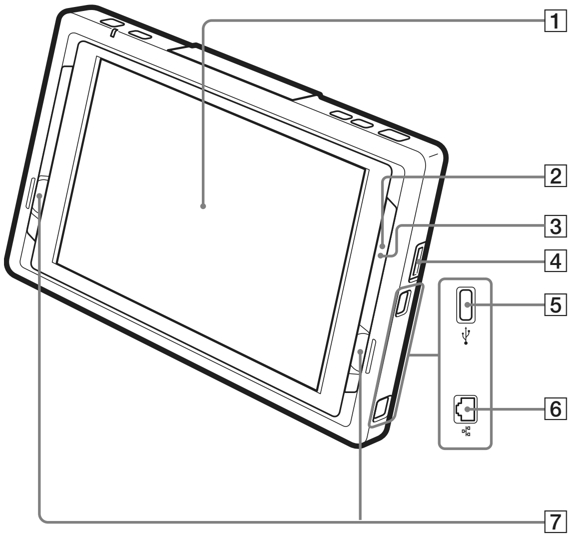
- 本機（モニター）とベースステーションは、互いにワイヤレス通信で情報をやり取りしています。
- モニターはバッテリー駆動（充電式）なので、電源コードは不要です。AC パワーアダプターをつなぐと充電し、直接電源を供給するので、時間を気にせずモニターを使用できます。

ご注意

本機は 2.4 GHz/5 GHz 帯のワイヤレス通信を使用します。通常の家庭で最大約 30 m（使用環境により異なります）の到達距離がありますが、ワイヤレス LAN 機器や電子レンジのように周囲に電波を出す機器があったり、壁や床などの材質によっては、通信が不安定になることもあります。また、医療機器などのそばでは利用しないようにしてください。詳しくは、「安全のために」の「ワイヤレス通信に関するご注意」（☞ 3 ページ）をご覧ください。

各部の名前とはたらき

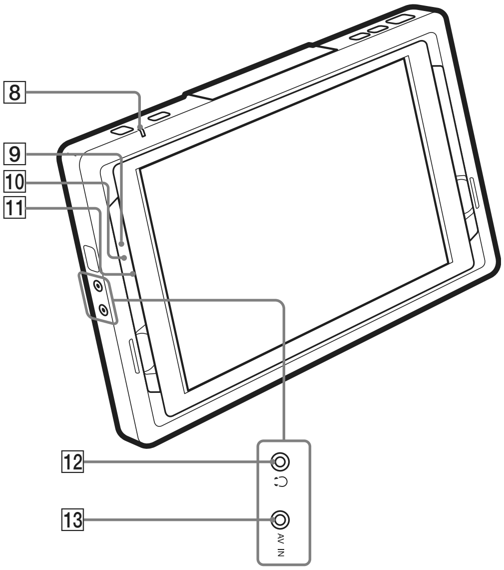
モニター右側



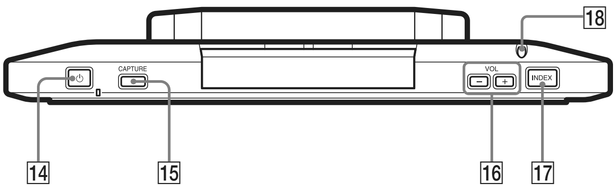
1 液晶画面 / タッチパネル
2 “メモリースティック”用ランプ（☞ 105 ページ）
本機と“メモリースティック”の間で情報のやりとりがあるときに、オレンジ色に点灯します。
3 ワイヤレスランプ
ワイヤレス通信の状態を示します。
青色点灯：5 GHz で通信しています。
緑色点灯：2.4 GHz で通信しています。
青色または緑色一瞬点灯、3 秒消灯：
ワイヤレスは有効に設定されていますが、ベースステーションまたはワイヤレス LAN のアクセスポイントと通信していません（電波は出ています）。
消灯：電波は出ていません。
4 “メモリースティック”スロット（☞ 105 ページ）
“メモリースティック”を挿入します。
5 USB 端子（☞ 104 ページ）
市販の USB キーボードをつなぎます。
6 LAN 端子（☞ 124 ページ、127 ページ）
LAN ケーブルをつなぎます。
7 スピーカー

モニター左側

8 電源ランプ（☞ 34 ページ）
緑色点灯：電源オン。
赤色点滅：異常が発生しています。
9 充電ランプ（☞ 28 ページ）
充電の状態を示します。
赤色点灯：バッテリーを充電中。
消灯：充電完了、または充電していません。
10 メール定期受信ランプ（☞ 80 ページ）
定期受信により新着メールがあるときに、赤色に点灯します。
ただし、メール画面で定期受信したときは点灯しません。
11 学習リモコン用リモコン受光部（☞ 135 ページ）
12 （ヘッドホン端子）（ステレオミニジャック）
市販のヘッドホンをつなぎます。
13 AV IN 端子
AV ケーブル（別売り：VMC-20FF、VMC-20FR）を使って、デジタルビデオカメラなどをつなぎます。



モニター上部



14 ⏻（モニター用電源）スイッチ（☞ 35 ページ）
モニターの電源の入 / 切を行います。

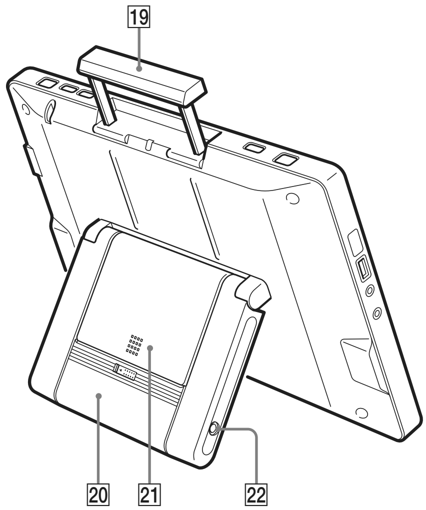
15 CAPTURE（画面保存）ボタン（☞ 49 ページ）
現在表示している画面を静止画としてアルバムに保存します。

16 VOL（音量＋ / －）ボタン（☞ 45 ページ）
スピーカーの音量を調節します。

17 INDEX（インデックス）ボタン（☞ 41 ページ）
インデックス画面を表示します。

18 タッチペン / タッチペン収納部（☞ 29 ページ）

モニター裏面



19 モニターハンドル（☞ 29 ページ）
モニターを持ち運ぶときに引き出して使います。

20 モニタースタンド（☞ 28 ページ）

21 バッテリー（☞ 27 ページ）

22 DC IN 端子（☞ 27 ページ）
モニター用 AC パワーアダプター（付属）をつなぎます。

接続と準備の流れ

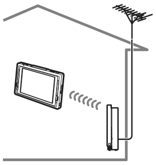
本機の使いかたによって、必要な接続や設定が異なります。
以下の図にしたがって準備を行ってください。

はじめに必ずすること

- ■ 箱の中身を確かめる（☞ 26 ページ）
- ■ モニターの準備をする（☞ 27 ページ）
- ■ ベースステーションの準備をする（☞ 30 ページ）

使いかたに応じた接続と準備

家の中でテレビを見るとき

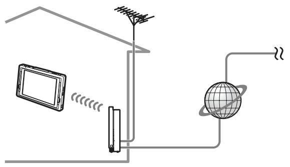


→ テレビを見るためのベースステーションの接続・設定は済んでいますか？

- はい → ベースステーションLF-PK20*を、ワイヤレスでルーターとつないでいますか？
  - いいえ
  - はい
- いいえ

＊ LF-PK1をお使いの方は、「いいえ」に進んでください。

家の中でインターネットやメールを使うとき

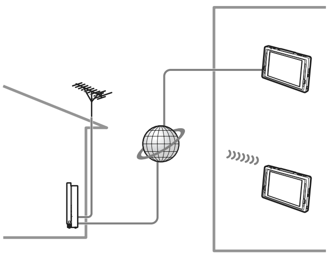


→ テレビを見るためとインターネットを使うためのベースステーションの接続・設定は済んでいますか？

- はい → ベースステーションLF-PK20*を、ワイヤレスでルーターとつないでいますか？
  - いいえ
  - はい
- いいえ

＊ LF-PK1をお使いの方は、「いいえ」に進んでください。

赴任先などで使うとき



→ 家（日本）でのベースステーションの接続・設定は済んでいますか？

- はい → ベースステーションLF-PK20*を、ワイヤレスでルーターとつないでいますか？
  - いいえ
  - はい
- いいえ

＊ LF-PK1をお使いの方は、「いいえ」に進んでください。

接続と準備

初期設定を行う**（☞ 34 ページ）

1 ベースステーションをアクセスポイントモードにする（☞ 33 ページ）
2 初期設定を行う**（☞ 34 ページ）

1 ベースステーションにアンテナや他の機器をつなぐ（☞ 30 ページ）
2 初期設定を行う**（☞ 34 ページ）

** メール機能を使わないときは、初期設定の「メール設定」をスキップしてください。

初期設定を行う（☞ 34 ページ）

1 ベースステーションをアクセスポイントモードにする（☞ 33 ページ）
2 初期設定を行う（☞ 34 ページ）

1 ベースステーションにアンテナや他の機器をつなぐ（☞ 30 ページ）
2 ベースステーションをインターネットにつなぐ（☞ 32 ページ）
3 初期設定を行う（☞ 34 ページ）

<家での接続・設定>
初期設定を行う（☞ 34 ページ）

<家での接続・設定>
1 ベースステーションをアクセスポイントモードにする（☞ 33 ページ）
2 初期設定を行う（☞ 34 ページ）

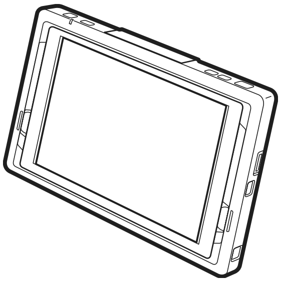
<家での接続・設定>
1 ベースステーションにアンテナや他の機器をつなぐ（☞ 30 ページ）
2 ベースステーションをインターネットにつなぐ（☞ 32 ページ）
3 初期設定を行う（☞ 34 ページ）
4 初期設定（ベースステーション設定）を行う（LF-PK1をお使いの方のみ）（☞ 111 ページ）

<赴任先などでの設定>
1 モニターの接続タイプを「外モード（ワイヤレス）」または「外モード(有線LAN)」にする（☞ 109 ページ）
2 使いかたに応じて設定する
・赴任先などでテレビを見る（☞ 110 ページ）
・公衆無線LANで使う（☞ 115 ページ）
・有線LANに接続して使う（☞ 123 ページ）
3 赴任先での準備と操作をする（☞ 113 ページ）

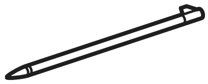
箱の中身を確かめる

箱を開けたら、次の物がそろっているか確認してください。
（　）内は個数を表わします。

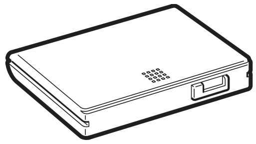
● モニター（1）



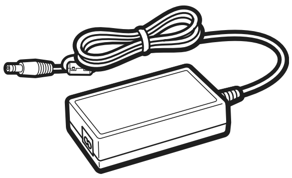
● タッチペン（1）



● バッテリー BP-LX11A（1）

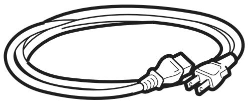


● AC パワーアダプター
AC-LX1M（1）



フェライトコアを取り外さないでください

● 電源コード（1）

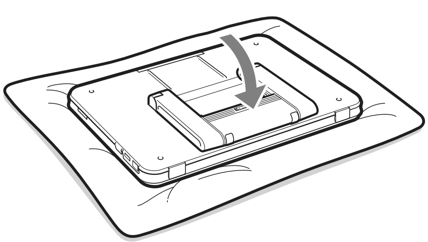


● 取扱説明書（1）
● かんたん準備ガイド（1）
●「使用上のご注意」シール（1）
● 保証書（1）

モニターの準備をする

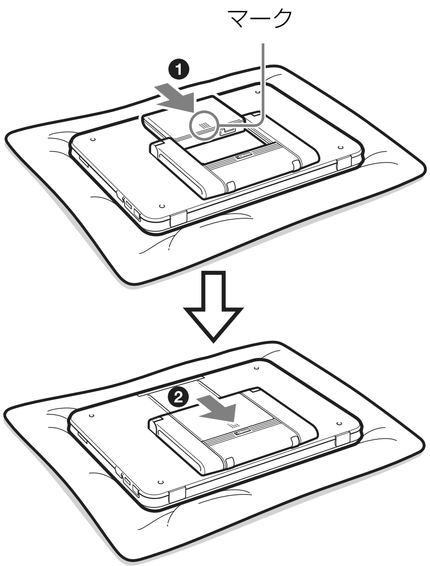
モニターにバッテリーを取り付ける

1 柔らかい布の上に、液晶画面を下にしてモニターを置く。



2 モニター裏面のバッテリー収納部の上部からバッテリーをスライドさせ(❶)、きちんと奥まで入れる(❷)。

バッテリー取り付け時はモニタースタンドはたたんだままにしてください。

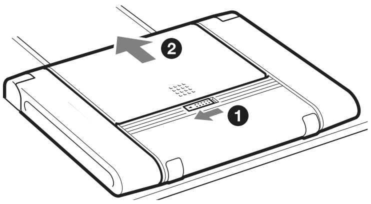


ご注意

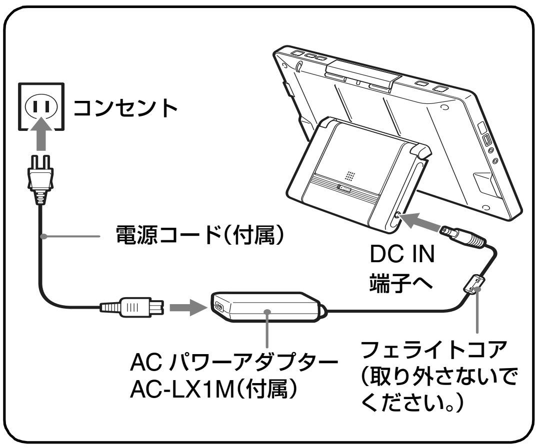
- カチッと音がするまできちんと奥まで入れてください。
- バッテリーは、マーク側を表面に向けて取り付けてください。

バッテリーを取り外すには

取り外しレバーを矢印の方向に押しながらスライドさせ（❶)、バッテリーを上方向にスライドさせて取り外す（❷)。

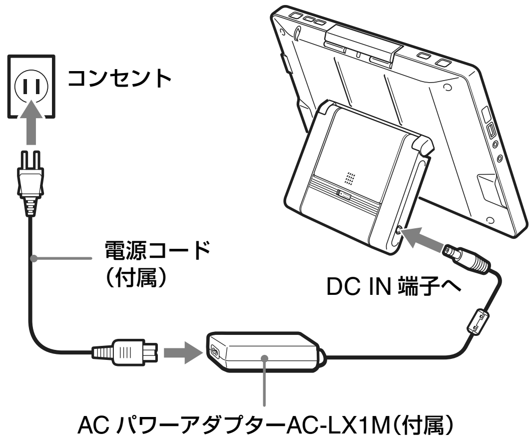


モニターに電源コードをつなぐ



モニターのバッテリーを充電する

付属の AC パワーアダプターをモニターにつないでバッテリーを充電します。
充電中はモニター左側にある （充電）ランプが赤色に点灯します。充電が終わるとランプが消灯します。



バッテリー充電時間

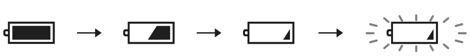
モニター電源 ON のとき：約 3 時間
モニター電源 OFF のとき：約 2 時間

バッテリー使用可能時間

約 4 時間（バックライトの明るさが最小時）
約 3 時間（バックライトの明るさが中のとき）
約 2 時間（バックライトの明るさが最大時）

上記の時間は、連続してテレビを見ているときの時間です。実際の使用可能時間は使いかたによって異なります。

いずれの場合も、バッテリーが切れるおよそ 1 分前にモニター画面にお知らせが出ます。
また、モニター画面上部にバッテリー残量が表示されます。



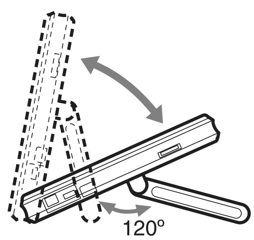
（満充電～残り 3 割）（残り 3 割）（残り 1 割）（まもなく電池切れ）

ご注意

- バッテリーを長時間使用しないときは、本機で使い切ってから、取り外して保存してください。また、1 年に 1 回程度は満充電にして、本機で使い切ってから、再び涼しい場所で保存してください。
- 本機のバッテリーは消耗品です。バッテリーにはリチウムイオンバッテリーを採用しています。リチウムイオンバッテリーは、充電と放電を繰り返すことで容量が次第に減っていく特性があります。バッテリーを使用できる時間が大幅に短くなった場合は、バッテリーの寿命です（充電放電 300 回程度が目安）。新しいバッテリーをお買い求めください。
- バッテリーの特性によって、「 （まもなく電池切れ）」のお知らせが出ずにバッテリーが切れて電源が切れることがあります。

モニタースタンドの使いかた

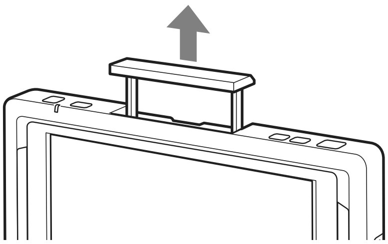
図のように、モニタースタンドの角度を 120 度以内で自由に調節して使います。



モニターハンドルの使いかた

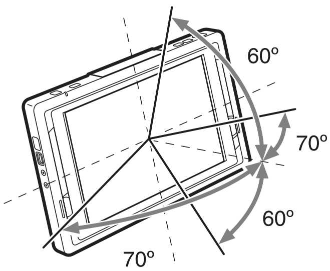
下図のように、モニター上部のハンドル部を引き出して使います。
モニターを運ぶときは、このハンドル部を持って運んでください。

ハンドル部を引き出す



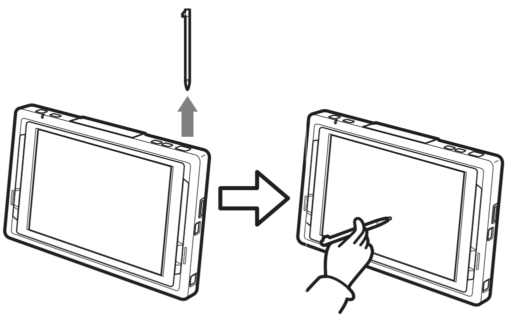
適視角度について

モニターは真正面より左右 70 度以内、上下 60 度以内で見てください。



タッチペンの使いかた

タッチペンは、画面上のボタンなどを選択するときに使います。



ベースステーションの準備をする

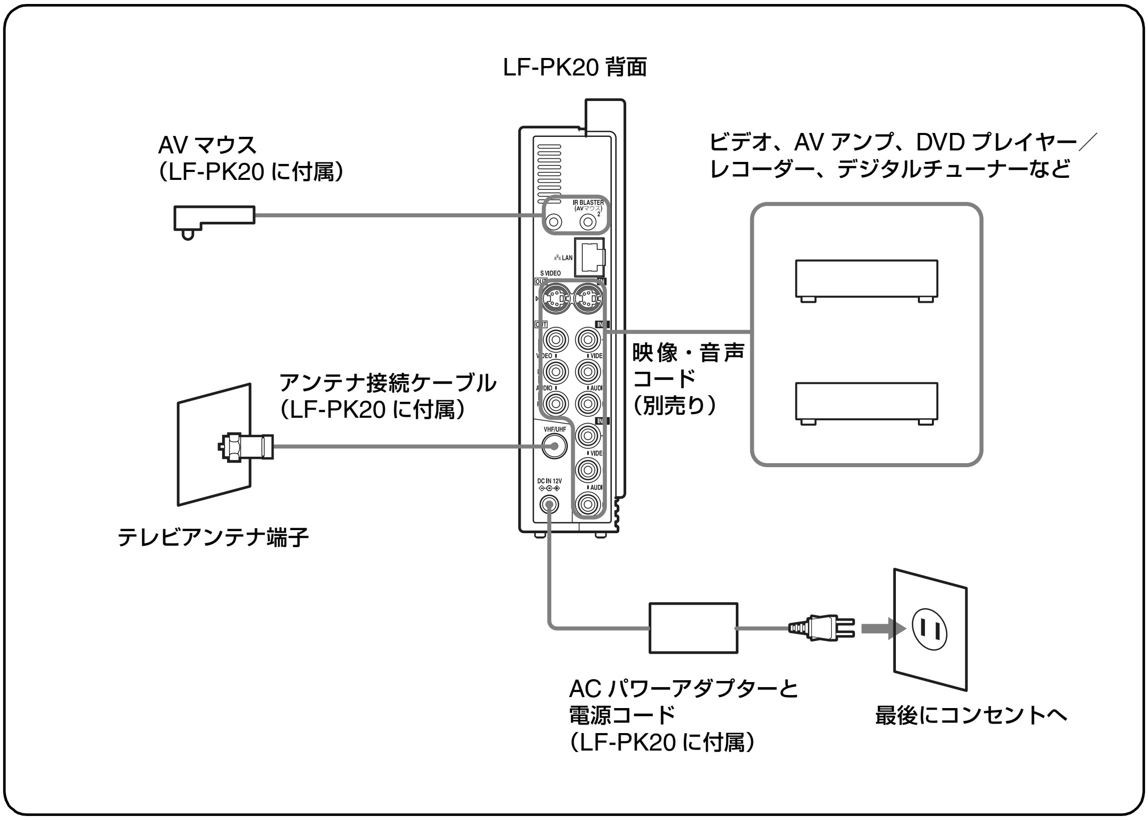
ベースステーションにアンテナやビデオ機器をつなぐ

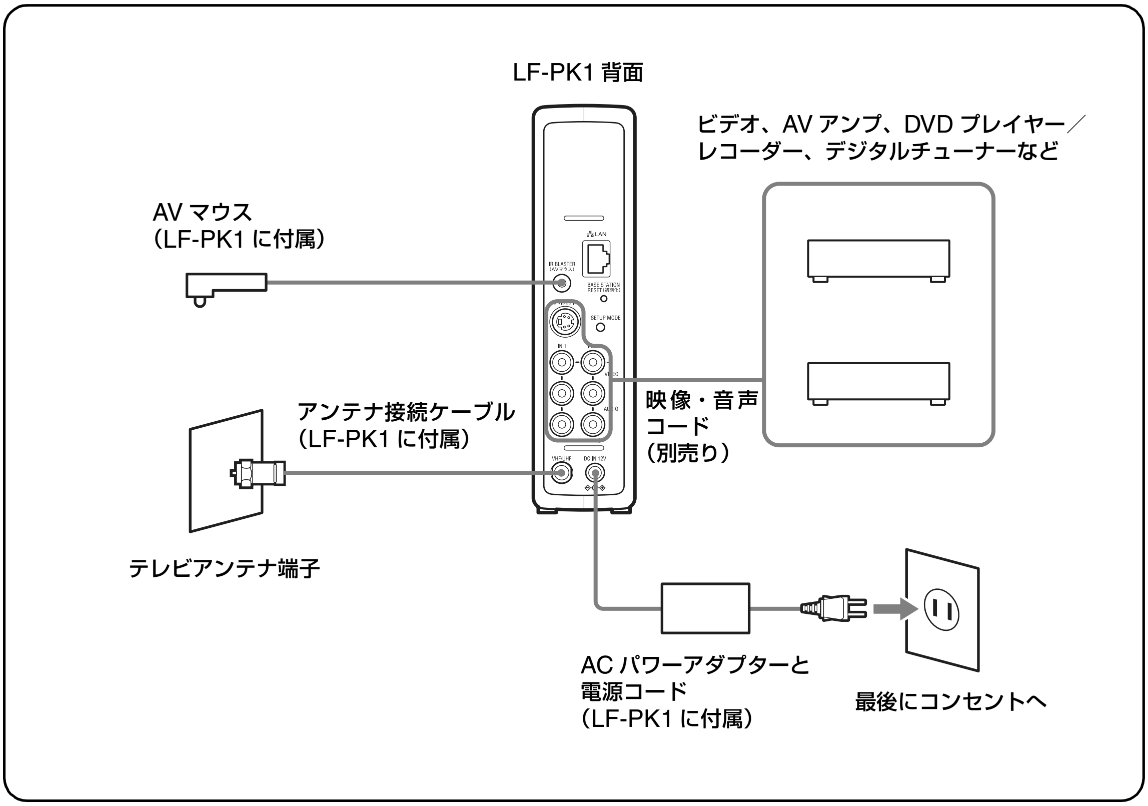
本機でテレビやビデオを見るには、別売りのベースステーション LF-PK20 または LF-PK1 に、テレビアンテナやビデオ機器をつなぎます。
また、ベースステーションにつないだ機器をモニターの画面上に表示されるリモコンで操作できるように AV マウスを接続し、取り付けます。

接続のしかたについて詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 必ず、ベースステーションに付属の AC パワーアダプターを使用してください。
- 電源コードはすべての配線が終わったあとでコンセントに接続してください。
- LF-PK1 をお使いの場合は、最新版のソフトウェアにバージョンアップが必要です。
  バージョンアップの方法は LF-PK1 の取扱説明書をご覧ください。
  またバージョンアップについて詳しくは、http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/ をご覧ください。





LF-PK1 背面
ビデオ、AV アンプ、DVD プレイヤー／
レコーダー、デジタルチューナーなど
AV マウス
（LF-PK1 に付属）
映像・音声
コード
（別売り）
アンテナ接続ケーブル
（LF-PK1 に付属）
テレビアンテナ端子
AC パワーアダプターと
電源コード
（LF-PK1 に付属）
最後にコンセントへ

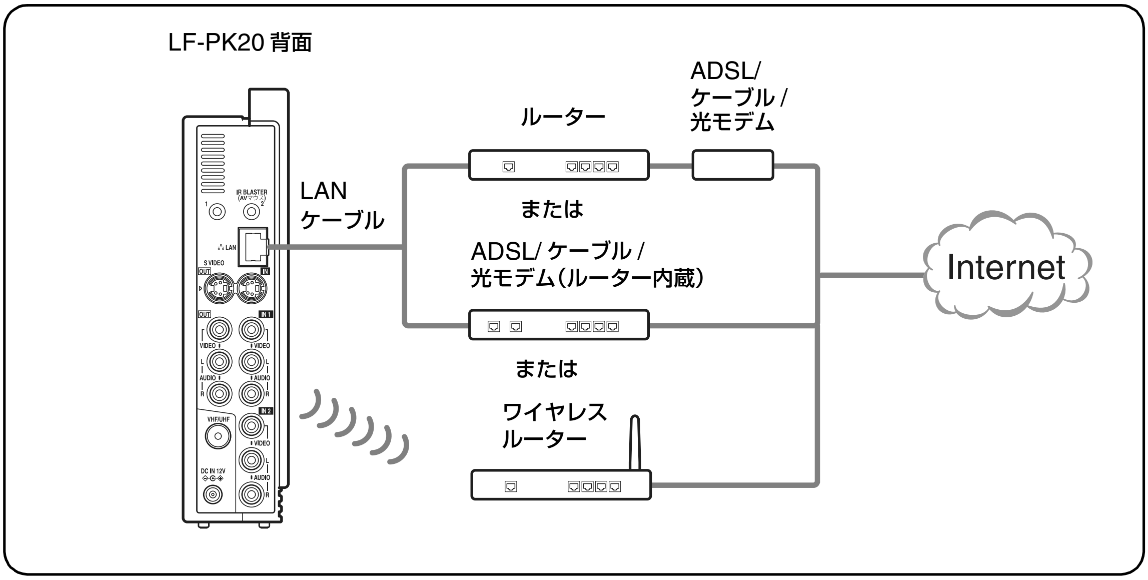
ベースステーションをインターネットにつなぐ

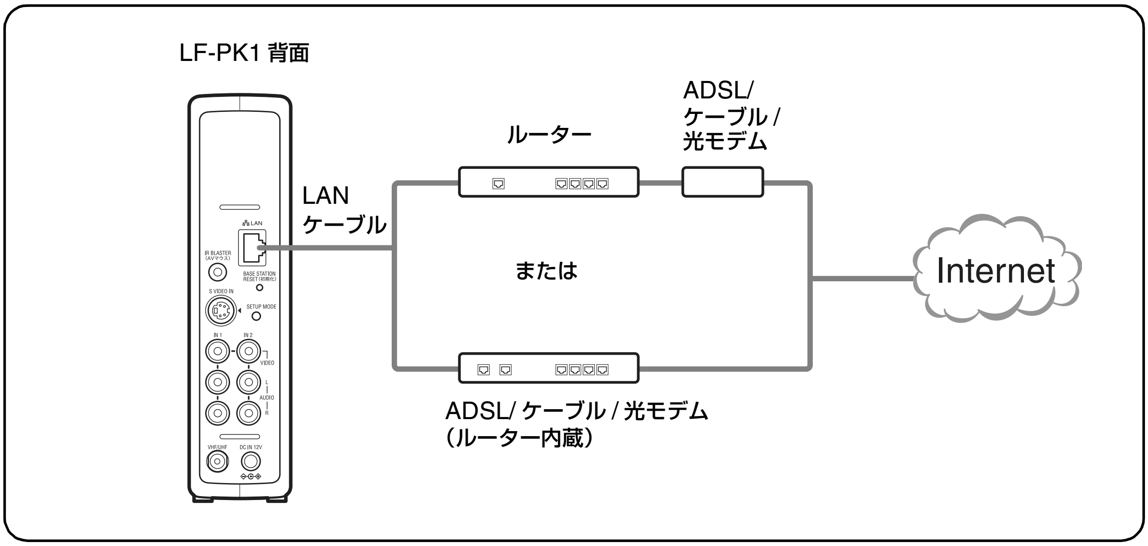
本機でインターネットやメールを利用するためには、ベースステーション LF-PK20 または LF-PK1 をルーターや ADSL/ ケーブル / 光モデムに接続し、接続に応じてベースステーションを設定し、インターネット回線と通信できるように準備します。

次の図は接続の一例です。接続・設定のしかたについて詳しくは、ベースステーションの「かんたん準備ガイド」や取扱説明書をご覧ください。

ご注意

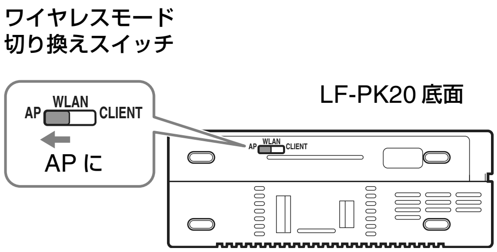
LF-PK1 をお使いの場合は、最新版のソフトウェアにバージョンアップが必要です。
バージョンアップの方法は LF-PK1 の取扱説明書をご覧ください。
またバージョンアップについて詳しくは、http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/ をご覧ください。





ベースステーション LF-PK20 をアクセスポイントモードにする（ワイヤレス通信でルーターと接続しているときのみ）

ベースステーション LF-PK20 をすでにルーターとワイヤレス通信で使用している場合、ベースステーションの底面の WLAN（ワイヤレスモード）切り換えスイッチは、CLIENT（クライアント）に設定されています。
本機の初期設定を行う前に、WLAN スイッチを AP（アクセスポイント）に切り換えてください。
初期設定が終わったら CLIENT に戻してください。



ご注意

- ワイヤレスモード切り換えスイッチが CLIENT のままでは、初期設定時にベースステーションへの機器登録ができません。
- ベースステーション LF-PK20 をクライアントモードで使用している場合は、モニターを家モードで使用できません。モニターは外モードに切り換えてから使用してください。詳しくは、「家モードと外モードを切り換える」（☞ 109 ページ）をご覧ください。
  また、モニターをワイヤレスで使用する場合は「公衆無線 LAN で使う・ワイヤレスルーターに接続する」（☞ 115 ページ）を、有線 LAN で使用する場合は「赴任先などで有線 LAN に接続する」（☞ 123 ページ）をご覧ください。

初期設定をする

お買い上げ後、初めてモニターの電源を入れると、「初期設定」画面が表示されます。画面にしたがって初期設定を行うと、家で使うために必要な以下の設定を順番に行うことができます。
－ベースステーションへのモニターの登録
－テレビチャンネルの自動設定
－ビデオを見るためのリモコンの設定
－メールの基本設定
－時計設定
初期設定が終了すれば、テレビやビデオを見たり、メールを利用したりすることができます。

ちょっと一言

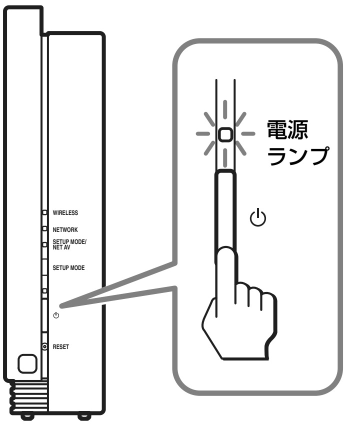
- メールを使用しない場合は、メール設定をスキップしてください。
- 初期設定で設定した内容は、あとで「設定一覧」画面から変更することができます。

ベースステーションの電源を入れ、セットアップモードにする

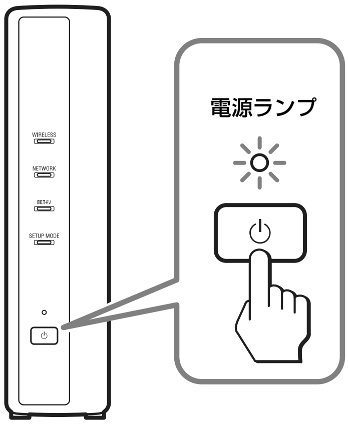
1 ベースステーション正面の ⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。

電源ランプが緑色に点灯します。

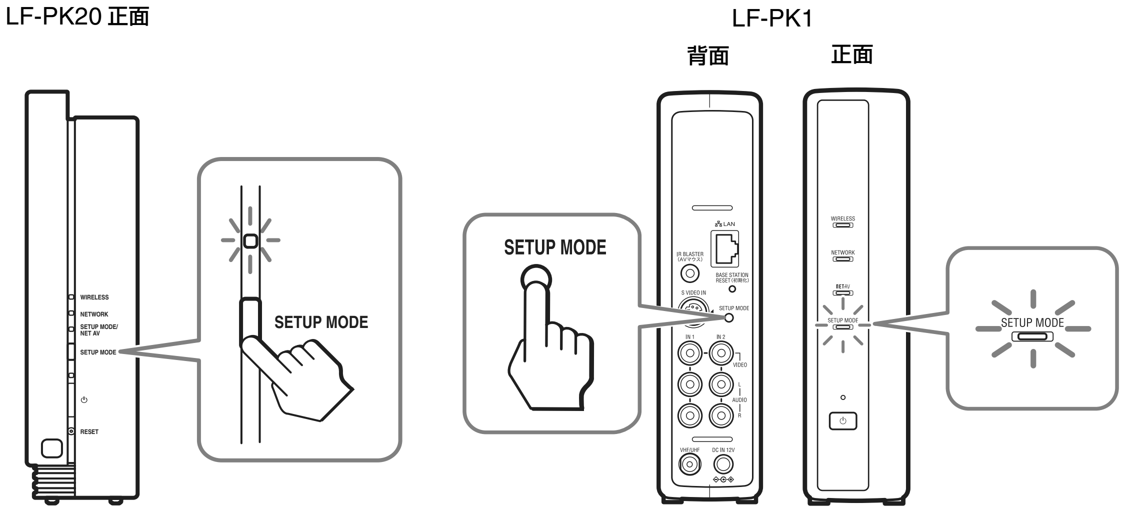
LF-PK20 正面



LF-PK1 正面



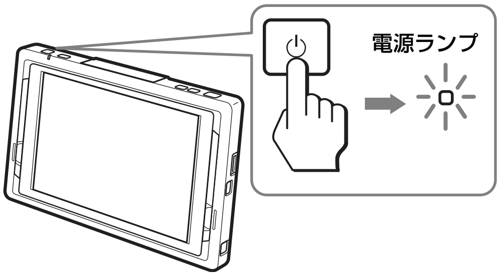
2 ベースステーションの SETUP MODE（セットアップモード）ボタンを押す。
SETUP MODE ランプがオレンジ色で点滅します。



ご注意
LF-PK1 をお使いの場合は、SETUP MODE ランプが点滅するまで SETUP MODE ボタンを押し続けてください。

モニターの電源を入れる

モニター上部の ⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。
電源ランプが緑色に点灯します。



お買い上げ後、初めて電源を入れたときは「初期設定」画面が表示されます。

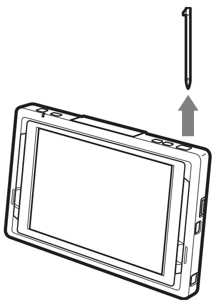
初期設定をする

初期設定をはじめるには

ちょっと一言

初期設定はベースステーションの近くで行ってください。

1 モニター上部からタッチペンを取り出す。



2 [開始]を選ぶ。



「初期設定」画面が表示されます。

3 [次へ]を選ぶ。



「モニターをベースステーションに登録します。」画面が表示されます。

4 [次へ]を選ぶ。



登録が完了すると、「ベースステーションの登録が完了しました。」画面が表示されます。



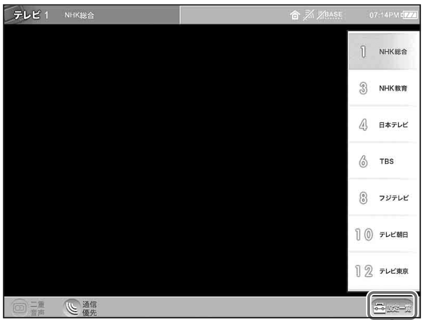
以下、画面にしたがって、テレビの自動チャンネル設定、ビデオを見るためのリモコンの設定、メールの基本設定、時計設定（☞ 37 ページ）を行います。

「初期設定」画面が表示されないときは

次の手順で「初期設定」画面を表示してください。

1 タッチペンでモニター画面のどこかに触れる。

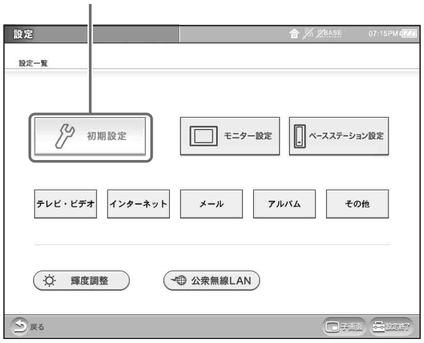
2 モニター画面右下の［設定一覧］を選ぶ。



設定一覧

3 「設定一覧」画面で［初期設定］を選ぶ。

初期設定



4 「初期設定」の［開始］を選ぶ。

開始



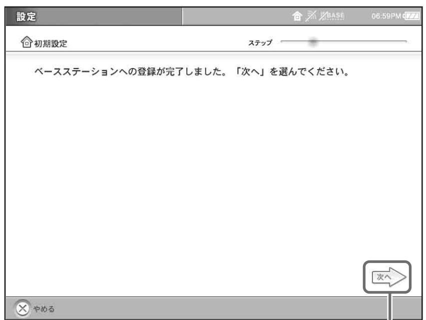
5 36ページの手順3、4を行い、モニターをベースステーションに登録する。

テレビの自動チャンネル設定／ビデオを見るためのリモコンの設定／メールの基本設定／時計設定

ちょっと一言

メールを使わないときは、メール画面の設定をしないで［次へ］を選んでください。

1 登録完了画面で［次へ］を選ぶ。

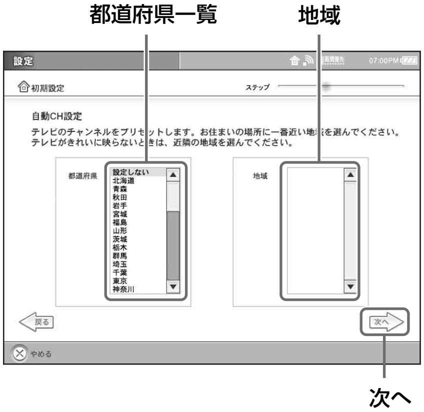


次へ

「テレビ（自動CH設定）」画面が表示されます。

2 お住まいの都道府県と、お住まいの場所に一番近い地域を選び、[次へ] を選ぶ。

左側の都道府県一覧から都道府県を選ぶと、右側に地域一覧が表示されます。



一覧の右側のスクロールバーを上下にスクロールして選びます。スクロールのしかたには 3 通りあります。

- 上下の ▲ ▼ を押し続ける。
- スクロールバー内のスクロールノブを押したまま上下に動かす。
- ▲ または ▼ とスクロールノブの間のスペースを押す。

チャンネルが自動設定され、「ビデオ（リモコン設定）」画面が表示されます。

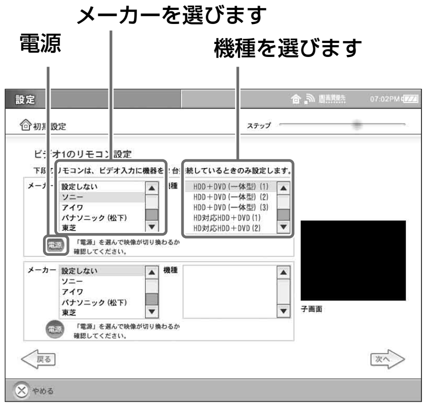
3 [次へ] を選ぶ。



「ビデオ 1 （リモコン設定）」画面が表示されます。

4 ベースステーションのビデオ入力 1 端子へつないだ機器のメーカー名と機種を選び、[電源] を選ぶ。

メーカー名を選ぶと、機種が表示されます。



正しく設定されていると、［電源］を触るたびに、つないだ機器の電源が入 / 切されます。電源入 / 切の動作は、子画面で確認できます。

［電源］を何回か触ってもつないだ機器の電源が入／切されない場合は、メーカーまたは機種が正しく選ばれているか確認してください。

1 つの端子に外部入力機器を 2 台つなぐときは

本機に直接接続した機器を 1 台目として設定してください。

ちょっと一言

アイワ製の DVD プレーヤー、DVD+VHS（一体型）、ビデオデッキの一部の機種については、メーカー名をソニーまたはその他に設定するものもあります。

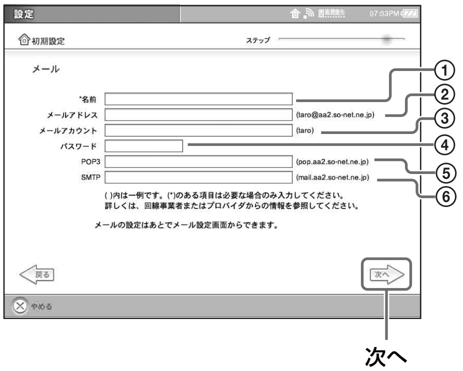
5 [次へ] を選ぶ。

「ビデオ 2 （リモコン設定）」画面が表示されます。

6 ベースステーションのビデオ入力2端子へつないだ機器があるときは、手順4と同様にメーカー名と機種を選び、[次へ]を選ぶ。

「メール」画面が表示されます。

7 メールを送受信するための情報を入力し、[次へ]を選ぶ。



① **名前を入力する。**
ご自分が送るメールの差出人の欄に、ここに入力した名前が表示されます。
通常はご自分の名前を入力します。

② **メールアドレスを入力する。**
受取人がメールを開いたときに、メールの差出人のアドレスとして表示されます。

③ **メールアカウント＊を入力する。**
メールの送信者が利用者本人であることを確認するための設定です。

④ **プロバイダから指定されたメール用パスワード＊を入力する。**
メールの送信者が利用者本人であることを確認するための設定です。
入力した文字は、秘密保持のため「＊」で表示されます。

⑤ **POP3 サーバー＊を入力する。**
メール受信用のサーバーを指定します。

⑥ **SMTP サーバー＊を入力する。**
メール送信用のサーバーを指定します。

ちょっと一言

- 文字入力のしかたについて詳しくは、「文字を入力する」（☞ 91 ページ）をご覧ください。
- 設定した内容は、画面をキャプチャー（画面保存）して、残しておくこともできます。（☞ 49 ページ）

それぞれの用語は次のように呼ばれることがあります。詳しくは、お使いのプロバイダからの資料などをご覧ください。

＊ **「メールアカウント」の別の呼びかた**
「ユーザー名」、「POP アカウント」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POP サーバーアカウント」、「POP サーバーログイン名」

＊ **「メール用パスワード」の別の呼びかた**
「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」

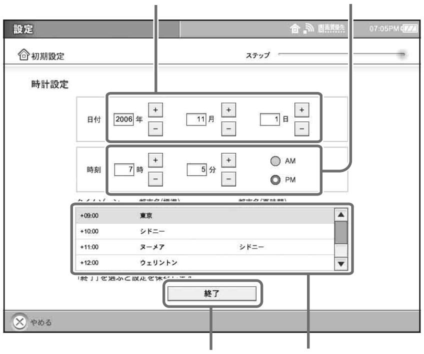
＊ **「POP3 サーバー」の別の呼びかた**
「POP サーバー」、「メール受信サーバー」

＊ **「SMTP サーバー」の別の呼びかた**
「メール送信サーバー」

「日時設定」画面が表示されます。

8 日付、時刻、タイムゾーンを設定し、[終了]を選ぶ。

「日付」、「時刻」は、[−] または [+] を使って設定します。
「タイムゾーン」では、モニターを使用する都市名を選びます。（工場出荷時には「東京」に設定されています。日本国内で使用する場合は変更する必要はありません。）



9 確認画面で[OK]を選ぶ。

「初期設定」画面へ戻ります。
タイムゾーンを変更したときは、本機が再起動します。
これで初期設定は終了です。

10 画面右下の[設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

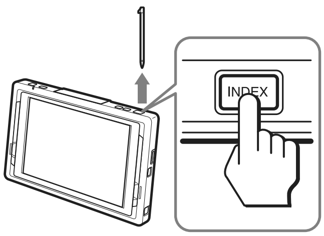
ご注意

ベースステーション LF-PK20 をお使いの方で、初期設定の前にワイヤレスモード切り換えスイッチを AP（アクセスポイント）に切り換えた場合は、スイッチを CLIENT（クライアント）に戻してください。
（☞ 33 ページ）
ベースステーションがクライアントモードのときは、モニターは［外モード］でのみ使用できます。

インデックス(メニュー)を表示する

テレビ、ビデオ入力、インターネット、メール、アルバムのそれぞれの画面の切り換えは、インデックス画面から行います。

1 [INDEX]ボタンを押して、タッチペンを取り出す。



インデックス画面が表示されます。

ちょっと一言

各種設定画面を表示するときは、画面右下の［設定一覧］を選びます。テレビ・ビデオの画面が表示されているときは、画面に軽く触れると右下に［設定一覧］が表示されます。

2 見たい項目を選ぶ。



ちょっと一言

- 再度インデックス画面を表示するには、再度［INDEX］ボタンを押します。
- インデックス画面を消すには、再度［INDEX］ボタンを押します。
- インデックス画面が表示されているときは、インデックス画面の背景にあるボタンと［CAPTURE］ボタンは無効になります。

手順 2 で選んだ画面が表示されます。

テレビ／ビデオ

アルバム



インターネット

モニターの接続タイプについて

本機は、さまざまな場所で使用できるように、以下の接続タイプが用意されています。本機を使用するときは、それぞれの場所の環境に応じた接続タイプに切り換える必要があります。

ちょっと一言

- お買い上げ時の接続タイプは、家モード（ワイヤレス）になっています。自宅でワイヤレスでテレビを見るときは、接続タイプを切り換える必要はありません。
- 接続タイプを家モード（有線 LAN）、外モード（有線 LAN）で使用するときは、LAN ケーブル（別売り）が必要です。

モニターの接続タイプ		説明	参照ページ
家モード	ワイヤレス	自宅で、モニターをベースステーションにワイヤレスで接続し、テレビやビデオ、インターネット、メールを使うときに選びます。	109 ページ
	有線 LAN	自宅の家庭内 LAN にモニターを LAN ケーブル（別売り）で接続し、インターネットやメールで使うときに選びます。 テレビやビデオを見るときは、家庭内 LAN 上のベースステーションに有線 LAN で接続します。 例）家モード（ワイヤレス）ではテレビの映りがよくない場合や、画面上に BASE と表示されるときに選びます。	126 ページ
外モード	ワイヤレス	赴任先などでモニターを公衆無線 LAN やワイヤレスルーターに接続し、インターネットやメールを使うときに選びます。 テレビやビデオを見るときは、インターネット経由で自宅のベースステーションに接続します（NetAV 機能）。	115 ページ
	有線 LAN	赴任先などでモニターを LAN ケーブル（別売り）で接続し、インターネットやメールを使うときに選びます。 テレビやビデオを見るときは、インターネット経由で自宅のベースステーションに接続します（NetAV 機能）。 例）赴任先など、LAN 回線の接続環境が利用できる場所で使うときに選びます。	123 ページ

ご注意

- 接続タイプが家モード（ワイヤレス）、外モード（ワイヤレス）の場合、モニターに電源が入っており、LAN ケーブルが接続されていないときは、常に電波が出ています。電車の中や病院など、電波を出すことが禁止されているところでは、モニターのワイヤレス通信を停止してください。（☞ 138 ページ）
- ベースステーション LF-PK20 のワイヤレスモード切り換えスイッチを CLIENT（クライアント）モードでお使いのときは、モニターは外モードでのみ使用できます。家モードでは使用できません。
- 外モードでテレビを見るには、あらかじめ準備が必要です。詳しくは、「赴任先などでテレビを見る」（☞ 110 ページ）をご覧ください。
- 自宅でモニターをワイヤレスルーターに接続する場合は、接続タイプは外モード（ワイヤレス）を選択してください。詳しくは、「家モードと外モードを切り換える」（☞ 109 ページ）をご覧ください。また、モニターをワイヤレスで使用する場合は「公衆無線 LAN で使う・ワイヤレスルーターに接続する」（☞ 115 ページ）を、有線 LAN で使用する場合は「赴任先などで有線 LAN に接続する」（☞ 123 ページ）をご覧ください。

画面右上に表示されるアイコンの見かた

画面右上には、本機の接続状態を示す以下のアイコンが表示されます。アイコンの内容は、接続タイプやそのときの接続状態によって異なります。

自宅でワイヤレスで接続しているときの例



アイコン	意味
	モニター設定が家モードのときに表示されます。
	モニター設定が外モードのときに表示されます。
	ワイヤレスでネットワークに接続しているときに表示されます。 ワイヤレス信号の強さが 3 段階で表示されます。 また、DHCP サーバーから IP アドレスを取得中は、点滅します。
	圏外のため、ワイヤレス通信ができない場合など、ワイヤレスでネットワークに接続できないときに表示されます。
	有線 LAN でネットワークに接続しているときに表示されます。 また、DHCP サーバーから IP アドレスを取得中は、点滅します。
	有線 LAN でネットワークに接続できないときに表示されます。
	モニター設定が家モード（ワイヤレス）で、ベースステーションとモニターが通信できていないときに表示されます（圏外）。
	モニター設定が家モードのときに表示されます。映像表示中（子画面も含みます）は画質優先で映像が送信されます。
	通信優先に切り換えたときに表示されます。 詳しくは、「画質優先 / 通信優先を切り換える」（☞ 49 ページ）をご覧ください。
	モニター設定が外モードで、インターネットを経由してベースステーションに接続し、テレビや外部入力機器の映像を見ているときに表示されます。

アイコンは、接続状態に応じて、次のように組み合わされて表示されます。

モニターが外モード（ワイヤレス）でネットワークと接続されているとき：



モニターが家モード（有線 LAN）で、モニターとベースステーションが通信できているとき：



テレビ / ビデオを見る

インデックス画面を表示し（☞ 41 ページ）、見たいチャンネルやビデオ入力を選ぶ。

ちょっと一言

- モニターの電源を入れると、まずテレビまたはビデオ（電源を切る直前に見ていたテレビのチャンネルまたはビデオ入力）が映ります。
- 外モードでテレビ / ビデオを見るとき、家モードと同じチャンネルを選ぶことができますが、チャンネルを選ぶ前に NetAV 接続が必要になります。詳しくは、「赴任先などでテレビを見る」（☞ 110 ページ）をご覧ください。
- テレビやビデオの画面に触れると、テレビ画面のときはテレビチャンネル一覧が、リモコン設定されているビデオ画面のときは、設定されたリモコンが画面上に表示されます。

テレビチャンネル一覧からチャンネルを選ぶには

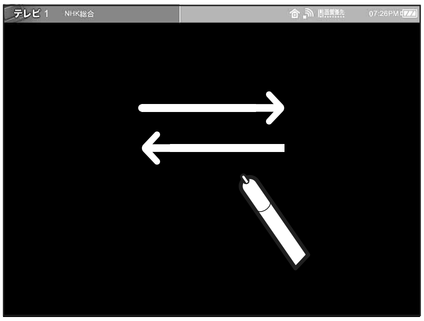
画面に触れてテレビチャンネル一覧を表示し、見たいチャンネルを選ぶ。
テレビチャンネル一覧は、画面操作後 5 秒で自動的に消えます。

テレビチャンネル一覧



画面をなぞってチャンネルを選ぶには［チャンネルスライド］

左から右になぞると次のチャンネルが表示され､右から左になぞると前のチャンネルが表示されます。画面をなぞってそのまま押しつづけると、チャンネルが次々と変わります。



ちょっと一言

ビデオ入力画面のときは、接続した外部入力機器のチューナーのチャンネル送りをします（チューナーのある外部入力機器を接続し、リモコン設定（☞ 38 ページ）をしているときのみ有効です）。

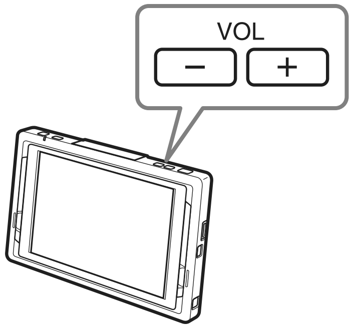
ビデオ入力のリモコンを操作するには

ビデオ入力 1 または 2 を選び、画面に触れるとリモコンが表示されます。
リモコンでビデオ機器を操作できます。
リモコンを消すには、映像が表示されている部分に触れます。



音量を調節するには

音量を調節するときは、モニター上部の［VOL ＋ / －］ボタンを押します。

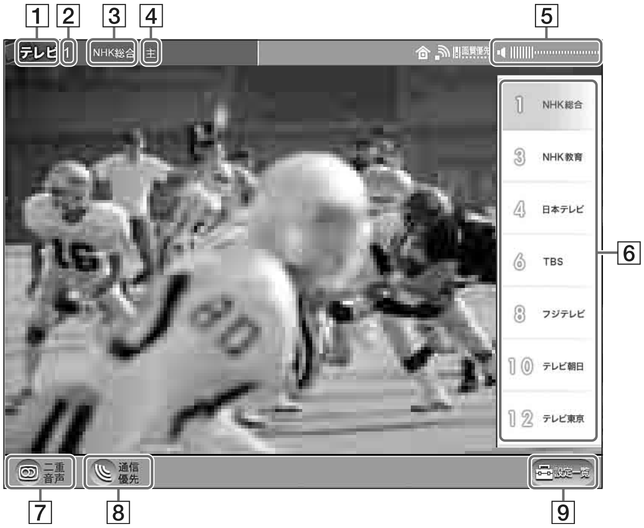


ちょっと一言

［VOL －］を 2 秒押しつづけると、音量をすばやくゼロにすることができます。

テレビ / ビデオの基本画面

テレビ / ビデオ画面の各部の名前とはたらき



1 **テレビ / ビデオ表示**

2 **テレビのチャンネル番号**

3 **放送局名**

4 **二重音声表示（☞ 48 ページ）**
二重音声放送のとき、「主」、「副」、「主／副」のいずれかが表示されます。
ステレオ放送のときは「ステレオ」と表示されます。

5 **音量表示**
音量表示は、操作後約 5 秒で自動的に消えます。

6 **テレビチャンネル一覧**
テレビを表示しているとき、画面に触れると表示され、テレビのチャンネルが選べます。
テレビチャンネル一覧は、画面操作後 5 秒で自動的に消えます。

7 **二重音声（☞ 48 ページ）**
二重音声放送時、音声を切り換えます。

8 **通信優先（☞ 49 ページ）**
ワイヤレス通信時の画質を「通信優先」に切り換えます。（「通信優先」に切り換えるとボタンが「画質優先」に切り換わります。）

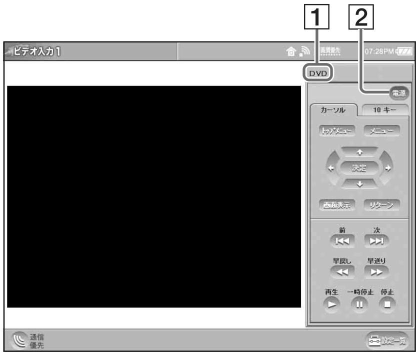
9 **設定一覧**
各種設定をするための「設定一覧」画面を表示します。
「設定一覧」画面にある［テレビ・ビデオ］を選ぶと、画質や音質の調整やチャンネルの手動設定などができます。

外モードでテレビを見るときのボタン操作については、「赴任先などでテレビを見る」の「赴任先での準備と操作」（☞ 113 ページ）をご覧ください。

ご注意
パソコンのモニターなどに使用されているノンインターレース信号は、本機では表示できません。

画面上のリモコンの各部の名前とはたらき

設定によって表示されるリモコンが異なりますが、ここでは各リモコン共通の機能について説明します。



1 **リモコン名表示**

2 **[電源]**
つないだ機器の電源の入 / 切を行います。

ご注意

- つないだ機器に付属のリモコンと同じ使いかたをしてください。ただし、画面上のリモコンに表示されているボタンでも、つないだ機器にない機能については操作できません
- つないだ機器に付属のリモコンのボタン名と画面リモコンのボタン名が異なることがあります。
- 一体型機器のリモコンをお使いの場合、［デッキ切換］ボタンを押すと、一体型機器に入っている 2 つのデッキの映像とリモコンを同時に切り換えますが、［デッキ切換］ボタンを押して表示されるデッキの映像と画面上のリモコンが一致しないときは ボタンを押すと映像が切り換わります。
- １つのビデオ入力に対し、2つのリモコンを設定したときは、 ボタンを押すと表示されるリモコンが切り換わります。

テレビを子画面で見る[子画面]

インターネットやメールを見ているとき、テレビやビデオを子画面に表示できます。

ちょっと一言

子画面は、家モードのときのみ表示できます。

画面右下の[子画面]を選ぶ。

画面右下に、テレビまたはビデオで最後に見ていたチャンネルが子画面表示されます。



最後に見ていたチャンネルが子画面表示されます

子画面に触れると、子画面を操作するためのボタンが表示されます。



- 子画面のチャンネルを変えるには、［－］または［＋］で選ぶ。
- 全画面で見るには、［全画面］を選ぶ。
- 子画面の音だけを聞くには、［音のみ］を選ぶ。
再び子画面を出すには、［子画面］を選ぶ。

- 子画面を消すときは、［×］を選ぶ。

ちょっと一言

子画面を任意の場所に移動できます。子画面に軽く触れたまま移動したい場所まで動かして離すと、その場所に子画面が移動します。
ただし、次の画面が表示されている場合は、子画面を動かすことはできません。

- インデックス画面
- キャプチャーリスト
- ダイアログ（画面の中央に表示されるメッセージの画面など）
- キーボード表示中

ご注意

外部入力機器がつながっていなかったり、外部入力機器の電源が入っていなかったりしたときに子画面にビデオチャンネルを選ぶと、子画面には黒い画面が表示されます。

音声を切り換える [二重音声]

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

画面左下の[二重音声]をくり返し押す。

押すたびに、「主」→「副」→「主／副」→「主」の順に切り換わります。

ちょっと一言

ビデオ入力につないだ機器の二重音声切り換えは、つないでいる機器に付属のリモコンで行ってください。

画質優先 / 通信優先を切り換える

家モード（ワイヤレス）のときは、ワイヤレス通信の状態に合わせて映像の送信方法を切り換えることができます。
通常は画質優先で映像が送信されます。
画像が映らなかったり、映像がひんぱんに止まってしまうときは、通信優先に切り換えてください。

ちょっと一言

- 子画面を表示しているときは、切り換えできません。
- 画質優先のときは、MPEG2 形式で、標準テレビ信号（SD）と同等の画質で映像が表示されます。

画面下部の［通信優先］を選ぶ。



通信優先

モニターとベースステーションの距離が離れているときや、障害物があるとき、またはコードレス電話や電子レンジを近くで使っているときなど、ワイヤレス通信が電波の干渉を受けて、画像が映らなかったり、映像がひんぱんに止まってしまうことがあります。その場合は、［通信優先］を選ぶと、ワイヤレス通信の状態が良くなり、映像が見やすくなることがあります。

再び画質優先に切り換えるには

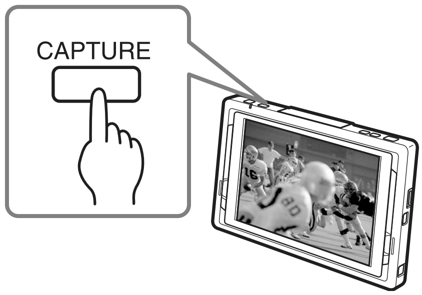
画面下部の [画質優先] を選ぶ。

キャプチャー（画面保存）する

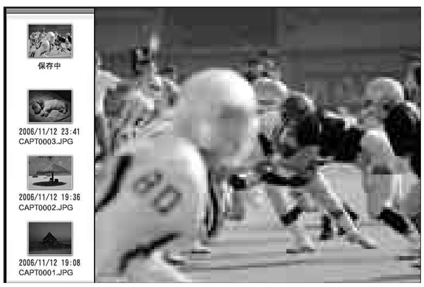
［CAPTURE］ボタンを使って、モニターに表示されているテレビやビデオ入力、ホームページなどの画面を見たままキャプチャー（画面保存）できます。キャプチャー（画面保存）された画像は、静止画としてアルバムに保存されますので、好きなときにゆっくりと見ることができます。

- 個人として楽しむほかは、著作権上権利者に無断で使用できません。

とっておきたい画面が表示されているときに、[CAPTURE] ボタンを押す。



キャプチャー（画面保存）した画面がキャプチャーリストに表示され、アルバムに保存されます。



ご注意

キャプチャーリストに表示された後、すぐにモニターの電源を切ったり、バッテリーが切れてしまった場合には、キャプチャーされた画像はアルバムに保存されないことがあります。

ちょっと一言

- ホームページの画面をキャプチャー（画面保存）したときは、画像を指定して保存することもできます。（☞ 58 ページ）
- 次のときはキャプチャー（画面保存）できません。
  – インデックス画面が表示されているとき
  – キャプチャーした直後
  – スライドショーの実行時
  – テレビのチャンネル切り換えや、ビデオ入力 1/2 の切り換えをしているとき
  – 画面にメッセージ（ダイアログボックス）が表示されているとき
  –「ペン位置調整」画面が表示されているとき
  – アルバム画像を拡大表示しているとき
  – 映像にコピーガード信号が含まれているとき
  – MPEG1 方式の動画を再生しているとき

ホームページを見る

インターネット画面に切り換えて、ホームページを表示してみましょう。
ここでは例として、ソニードライブのホームページ（アドレス「http://www.sony.jp/」）を表示させます。

ちょっと一言

文字入力について詳しくは、「文字入力」（☞ 91ページ）をご覧ください。

1 インデックス画面を表示し（☞ 41ページ）、[インターネット]を選ぶ。

インターネット画面が表示されます。

2 アドレス入力欄を選ぶ。



画面上に英数キーボードが表示されます。

3 キーボードを使って「http://www.sony.jp/」と入力し、[入力終了]を選ぶ。

キーボードが消え、ソニードライブのホームページの読み込み（ダウンロード）が始まります。読み込み中は画面左上のインターネットアイコンが動きます。完了するとソニードライブのホームページが表示され、インターネットアイコンは止まります。

ご注意

- 漢字やかな、スペースが使用されているアドレスは、表示できないことがあります。
- お使いの回線事業者やプロバイダにより、契約上、同時に１つの端末しかインターネットに接続できないことがあります。詳しくは回線事業者またはプロバイダに確認してください。

インターネットの基本画面

インターネット画面の各部の名前とはたらき



1 **インターネットアイコン**
ホームページなどを読み込んでいる（ダウンロードしている）ときは、このアイコンが動きます。

2 **インターネット表示**

3 **ページタイトル**
現在選ばれているタブに表示されているホームページのタイトルを表示します。

4 **アドレス入力・表示欄（☞ 51 ページ）**
現在見ているホームページのアドレスが表示されます。他のホームページを表示させるときは、この欄を選び、アドレスを入力します。

5 **（SSL）マーク**
SSL 対応のホームページのとき、このマークが表示されます。

6 **マーク（☞ 54 ページ）**
すでに登録されているお気に入りのホームページなどのマーク（アドレス）を表示します。また、マークを登録することもできます。

7 **履歴（☞ 56 ページ）**
過去に表示したホームページのアドレスの一覧を表示します。また、履歴を削除することもできます。

8 **保存（☞ 56 ページ）**
保存されたホームページの一覧を表示します。また、現在表示されているホームページを保存することもできます。ホームページを保存しておくと、インターネットに接続しなくても、保存したページを見ることができます。

9 **タブを閉じる**
現在表示されているタブ（☞10 タブ）のページを閉じ、空白ページを表示します。ページを閉じてもタブの表示だけは残ります。

10 **タブ**
本機はタブブラウザ機能を搭載し、最大 6 つまでのページを読み込んで切り換え表示できます。

- タブを選ぶと、そのタブに読み込まれたページが表示されます。
- モニターの電源を入れ、インターネット画面を表示すると、一番左側のタブが選ばれ、

「ホーム」に設定されているページが表示されます。

- 別のウィンドウが開くように作られているリンクを選んだときは、ページが読み込まれていないタブにリンク先のページが表示されます。
- 6 個のタブがすべて埋まっている場合に、別のウィンドウが開くリンクを選んだときは、上バーに「タブがいっぱいです。別ページが開けません」と表示されます。その場合は、[タブを閉じる]（☞ 9 タブを閉じる）を選んで不要なページを閉じてから、再度リンクを選んでください。

11 **戻る**
1 つ前のページに戻ります。

12 **進む**
次のページに進みます。

13 **ホーム**
「設定一覧」画面にある［インターネット］の［ホームページ］の［ホームの設定］に登録したホームページを表示します。

14 **更新**
現在表示しているアドレスのホームページを読み込んで、最新の情報を表示します。
（停止：ホームページの読み込みをやめます。）

15 **ページ内検索（☞ 59 ページ）**
現在表示している画面の中にある文字列を検索します。
（コピー：反転表示された文字（テキスト）をコピーします。）

16 **文字サイズ**
画面上の文字の大きさを変えます。

17 **子画面（☞ 47 ページ）**
テレビ / ビデオを子画面で表示します。

18 **設定一覧（☞ 61 ページ）**
各種設定をするための「設定一覧」画面を表示します。
「設定一覧」画面にある［インターネット］を選ぶと、ホームページを見るための設定などができます。

セキュリティ上のご注意

- 個人認証のために名前やパスワードなどの個人情報を入力、または登録する場合は、信頼できるサイトであることを確認してから行ってください。また、そのような入力操作を行う場合は、他のタブを閉じることをおすすめします。
- 本機は、インターネットのセキュリティを強化するために情報を暗号化する SSL に対応しています。SSL に対応しているホームページはアドレス入力欄の右側にが表示されます。

ホームページを見るときの便利な機能

よく見るホームページのアドレスを登録する[マーク]

よく見るホームページやお気に入りのホームページのアドレスを登録（マーク）しておくと、毎回アドレスを入力したり、検索サービスで探さなくても、すぐに表示できます。本機には最大 100 件のホームページのアドレスを登録できます。

好みのホームページのアドレスを登録する

1 登録したいホームページを表示し、[マーク]を選ぶ。

画面右側に「マーク」リストのパネルが表示されます。

ちょっと一言

- 登録したホームページのタイトルやアドレスを変更できます。（☞ 55 ページ）
- ホームページのアドレスは、“メモリースティック”にも登録できます。また、“メモリースティック”に登録したアドレスを本機にコピーしたり、本機に登録したアドレスをメモリースティック”にコピーすることもできます。

2 [追加]を選ぶ。

本体が選ばれているときは ▢ が、“メモリースティック”が選ばれているときは ▢ が表示されます



追加

このボタンは“メモリースティック”が挿入されているときのみ表示されます

ちょっと一言

“メモリースティック”にマークを追加したい場合は、[切換] を選び、“メモリースティック”に切り換えてから [追加] を選びます。

今見ているホームページのアドレスがリストの先頭に追加されます。
「マーク」リストのパネルを閉じるには、パネル右上にある ✕ を選んでください。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は登録できません。登録できないときは、手順 2 の画面で [追加] が薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから再度 [追加] を選んでください。

マークに登録したホームページを見る

画面右上の [マーク] を選び、表示される「マーク」リストのパネルから、見たいホームページのタイトルを選びます。
選んだホームページが表示されます。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は、マークに登録されているホームページを選ぶことはできません。読み込み中は、「マーク」リストにあるタ

イトルが薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから、ホームページを選んでください。

ちょっと一言

- ［▶］を選ぶと次の「マーク」リストが表示され、［◀］を選ぶと前のリストが表示されます。
- “メモリースティック”に登録したホームページを見るには、「マーク」リストのパネル下部にある［切換］を選びます。

マークに登録したホームページのタイトルとアドレスを変更する

1 「マーク」リストのパネルで、［編集］を選ぶ。

「マーク編集」画面が表示されます。

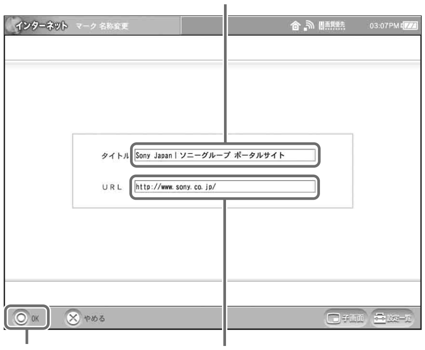
2 タイトルまたは、アドレスを変えたいマークをチェックし、画面下部にある［名称変更］を選ぶ。

タイトルは 1 つずつ変更できます。



「マーク名称変更」画面が表示されます。

3 ［タイトル］、［URL］の欄に新しいタイトルとアドレスを入力し、［OK］を選ぶ。



ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

登録したマークを本体から“メモリースティック”（または“メモリースティック”から本体）にコピーする

「マーク編集」画面で本体から“メモリースティック”（または“メモリースティック”から本体）にコピーしたいマークをチェックし、「コピー」を選びます。
マークをすべてコピーしたいときは、［すべてをチェックする］を選び、［コピー］を選びます。

登録したマークを削除する

「マーク編集」画面で削除したいマークをチェックし、［削除］を選びます。
マークをすべて削除したいときは、［すべてをチェックする］を選び、［削除］を選びます。

過去に表示したホームページを見る[履歴]

過去に表示したホームページのアドレスは、最新の 100 件までが履歴として自動的に記録されます。「履歴」リストからホームページのタイトルを選ぶだけでホームページを見ることができます。アドレスを入力する必要がなく便利です。

[履歴]を選び、画面右側に表示される「履歴」リストのパネルから、見たいホームページを選ぶ。

見たいホームページを選びます



選んだホームページが表示されます。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は、過去に表示したホームページを選ぶことはできません。読み込み中は、「履歴」リストにあるタイトルが薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから、ホームページを選んでください。

ちょっと一言

- [▶] を選ぶと次の「履歴」リストが表示され、[◀] を選ぶと前のリストが表示されます。
- 履歴が 100 件を超えた場合、古いものから順に削除されます。

過去に表示した履歴のホームページを削除する

1 「履歴」リストのパネルで[編集]を選ぶ。

「履歴編集」画面が表示されます。

2 削除したい履歴をチェックし、画面下部にある[削除]を選ぶ。

すべての履歴を削除したいときは、[すべてをチェックする] を選び、[削除] を選びます。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は、履歴を削除できません。削除できないときは、[編集] が薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから、再度 [編集] を選んでください。

ホームページを保存する[保存]

ホームページを保存する

表示しているホームページの内容を、そのまま保存できます。一度保存しておくと、回線につなぐことなく、見たいときにゆっくり見ることができます。

1 ホームページを表示しているときに、[保存]を選ぶ。

画面右側に「保存」リストのパネルが表示されます。

2 ［追加］を選ぶ。

本体が選ばれているときは が、“メモリースティック”が選ばれているときは が表示されます



追加

このボタンは“メモリースティック”が挿入されているときのみ表示されます

ちょっと一言

“メモリースティック”にホームページを保存したい場合は、［切換］を選び、“メモリースティック”に切り換えてから［追加］を選びます。

今見ているホームページのアドレスが「保存」リストの先頭に追加されます。

「保存」リストのパネルを閉じるには、パネル右上にある を選んでください。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は保存できません。保存できないときは、手順2の画面で［追加］が薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから再度［追加］を選んでください。

ちょっと一言

「保存編集」画面に表示される保存日時は、「保存」リストのパネルにある［追加］を選択したときの日時が反映されます。

保存したホームページを見る

「保存」を選び、画面右側に表示される「保存」リストのパネルから、見たいホームページのタイトルを選ぶとそのホームページが表示されます。

ご注意

ホームページの読み込みが完了していない場合は、保存したホームページを選ぶことはできません。読み込み中は、「保存」リストにあるタイトルが薄く表示されます。読み込みが完全に終わってから、ホームページを選んでください。

ちょっと一言

“メモリースティック”に保存したホームページを見るには「保存」リストのパネル下部にある［切換］を選びます。

保存したホームページのタイトルを変更する

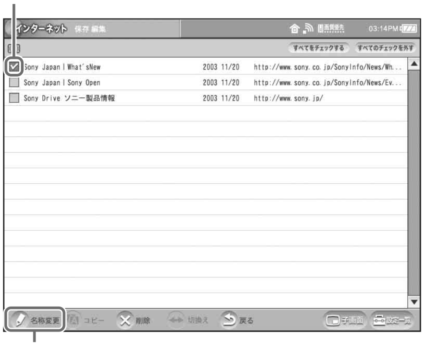
1 「保存」リストのパネルから［編集］を選ぶ。

「保存編集」画面が表示されます。

2 「保存編集」画面の中からタイトルを変えたいホームページをチェックし、［名称変更］を選ぶ。

タイトルは 1 つずつ変更できます。

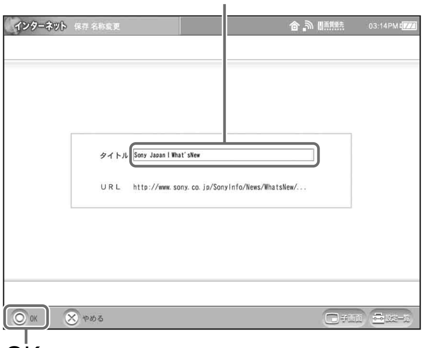
ここにチェックをつけます



名称変更

3 ［タイトル］の欄に新しいタイトルを入力し、［OK］を選ぶ。

タイトルを入力します



OK

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

保存したホームページを本体から"メモリースティック"（または"メモリースティック"から本体）にコピーする

「保存編集」画面で本体から"メモリースティック"（または"メモリースティック"から本体）にコピーしたいホームページをチェックし、「コピー」を選びます。
保存したホームページをすべてコピーしたいときは、［すべてをチェックする］を選び、［コピー］を選びます。

保存したホームページを削除する

「保存編集」画面で削除したいホームページをチェックし、［削除］を選びます。
保存ページをすべて削除したいときは、［すべてをチェックする］を選び、［削除］を選びます。

ホームページをキャプチャー（画面保存）する

今見ている画面をアルバムに保存できます（今見ている画面を写真に撮るように取り込むことを「キャプチャー」（画面保存）といいます）。
画像が含まれているホームページをキャプチャーするときは、今見ている画面全体をキャプチャーすることも、画像を選んでキャプチャーすることもできます。

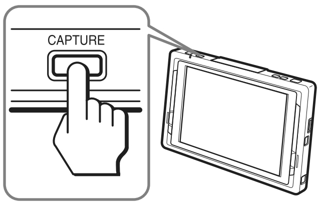
ご注意

ホームページによっては、キャプチャーできない画像もあります。

ちょっと一言

ホームページだけでなく、テレビやビデオ入力、メール、アルバムなどの画面もキャプチャーできます。詳しくは、「キャプチャー（画面保存）する」（☞ 49 ページ）をご覧ください。

1 ホームページを表示しているときに、モニター上部の［CAPTURE］ボタンを押す。



キャプチャー確認画面が表示されます。

2 [画像を選んでキャプチャー]または[画面全体をキャプチャー]を選ぶ。

［画像を選んでキャプチャー］を選んだときは、画面上部（「インターネット」表示の右側）に「キャプチャーしたい画像を選んでください」と表示されます。手順 3 に進んでください。
［画面全体をキャプチャー］を選んだときは、画面全体がキャプチャーされます。



ご注意
Flash によって作成された画像や PDF ファイルにある画像は、画像を選んでキャプチャーすることができません。

3 保存したい画像を選ぶ。

選択した画像がキャプチャーされます。

ちょっと一言
キャプチャーを中止する場合は、画像を選ぶ前に［戻る］を選んでください。

キャプチャーされた画像は、確認のため、いったんここに表示されます



キャプチャーされた画像は、アルバムに保存されます。

ホームページ内で文字を検索する

今見ているホームページ内の文字（テキスト）を検索できます。

ちょっと一言
- この機能を使って検索できるのはテキスト（タッチペンでなぞって反転できる文字）だけです。文字として読めても、Flash や画像になっているものは検索対象になりません。
- PDF ファイルの検索はできません。［ページ内検索］が薄く表示されます。

1 ホームページを表示しているときに、[ページ内検索]を選ぶ。

画面下に検索のための画面が表示されます。

2 入力欄に検索したい文字列を入力し、キーボードにある[入力終了]を選ぶ。

このとき、［次を検索］、［前を検索］を選んでも検索されます。
該当する文字列が検索されます。

検索された文字列



ここに検索したい文字列を入力します

ちょっと一言
- 検索を続けたいときは［次を検索］を選びます。前に戻って検索したいときは、［前を検索］を選びます。
- 文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

3　検索が終了したら、[検索終了]を選ぶ。

ホームページ内の文字をコピーし、貼り付ける

今見ているホームページ内の文字（テキスト）をコピーして、メールなどの他の画面に貼り付けできます。

ちょっと一言

この機能を使ってコピーできるのはテキスト（タッチペンでなぞって反転できる文字）だけです。文字として読めても、Flash や PDF ファイル、画像になっているものはコピーの対象になりません。

1　タッチペンでコピーしたい文字列をなぞって反転させ、[コピー]を選ぶ。

コピーしたい文字列をなぞると［ページ内検索］が［コピー］に変わり、［コピー］を選ぶと［ページ内検索］に戻ります。

文字をなぞって反転させます



コピー

2　コピーした文字列を貼り付けたい画面を表示し、貼り付ける位置を選ぶ。

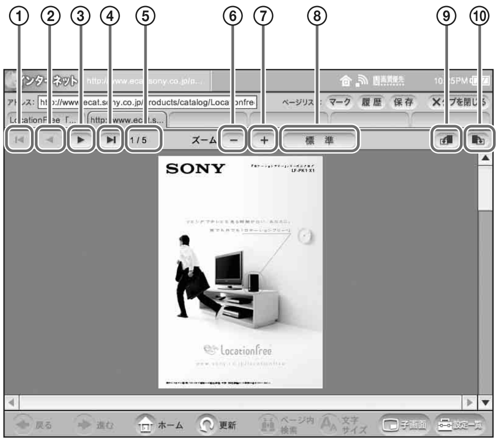
3　キーボードの[貼付]を選ぶ。

文字列が貼り付けられます。
キーボードの表示方法について詳しくは、「文字を入力する」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

PDF ファイルを見る

ホームページにリンクされている PDF ファイルを選ぶと、ファイルがダウンロードされた後、新しいタブに PDF ファイルの内容が表示されます。

以下のツールボタンを使って、PDF ファイルを閲覧します。



① PDF ファイルの最初のページを表示します。
② 前のページに戻ります。
③ 次のページに進みます。
④ PDF ファイルの最終ページを表示します。
⑤ 現在のページ / 全ページを表示します。
⑥ 選ぶたびに、縮小表示します。
⑦ 選ぶたびに、拡大表示します。
⑧ 標準サイズ（最初に表示したときのサイズ）に戻ります。
⑨ 反時計回りに 90°回転します。
⑩ 時計回りに 90°回転します。

また、表示されている PDF ファイルの画面にタッチしたまま動かすと、表示位置を移動できます。

ご注意

PDF ファイルによっては、本機で表示できないものもあります。

その他の設定をする

必要に応じて、ホームページを見るための設定やプロキシの設定を行います。
ほとんどの場合は、プロキシの設定は必要ありません。

1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。

「設定一覧」画面が表示されます。

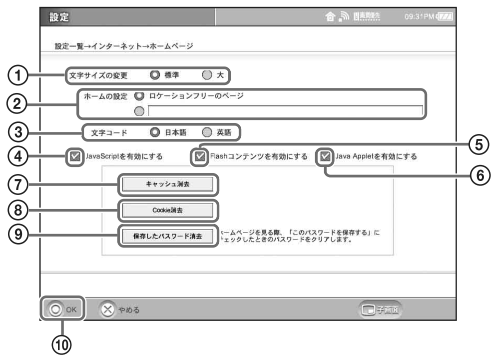
2 [インターネット]を選ぶ。

「インターネット」の設定画面が表示されます。

3 ホームページを見るための設定を行うときは、[ホームページ]を選ぶ。

「ホームページ」画面が表示されます。

4 必要に応じて各項目を設定し、[OK]を選ぶ。



① 文字を大きく表示したいときは［大］を選びます。
② 「ホーム」に登録するホームページのアドレスを入力します。
インターネットの［ホーム］ボタンを選ぶと、ここに登録されているホームページが表示されます。お買い上げ時

は、ロケーションフリーのホームページが「ホーム」に設定されています。

③ ほとんどのホームページには、そのページで使用する言語のエンコード（言語と文字セット）の情報が含まれています。この情報がページに含まれていない場合に、文字化けして表示されます。その場合には、文字コードを変更してみてください。お買い上げ時は、［日本語］に設定されています。文字コードの変更は、モニターを再起動した後に有効になります。

④ JavaScript を使ったホームページが正常に表示されない場合や、表示したくないときはチェックをはずします。

⑤ Flashを使ったホームページを表示したくないときはチェックをはずします。

⑥ JavaApplet を使ったホームページが正常に表示されない場合や、表示したくないときはチェックをはずします。

⑦ キャッシュを消去するときに選びます。表示したホームページの内容は、いったん本機に取り込まれます。キャッシュの中身は、一定量になると自動的に消去されますが、ここを選ぶと、すべてのキャッシュを消去できます。

⑧ Cookie を消去するときに選びます。Cookie は、一部のホームページが作成するファイルで、そのホームページにアクセスしたときの設定などの情報が保存されています。

⑨ ホームページを見る際、ユーザ名とパスワードを入力するダイアログメッセージ内にある「このパスワードを保存する。」をチェックしたときに保存されたパスワードを消去する場合に選びます。

⑩ ［OK］を選びます。

［OK］を選ぶと、手順３の「インターネット」画面に戻ります。
③ の文字コードを変更したときは、「文字コードの設定を有効にするには電源を入れ直す必要があります。今すぐ電源を入れ直しますか？」というメッセージが表示されます。［OK］を選ぶと、自動的にモニターが再起動します。

5 プロキシの設定をするときは、［プロキシ］を選ぶ。

「プロキシ」画面が表示されます。

6 各項目を設定し、［OK］を選ぶ。

プロキシサーバーを経由しないで直接インターネットに接続するときは、［設定しない］を選びます。
プロキシサーバーを経由してインターネットに接続するときは、［自分で設定］を選び、［ホスト］と［ポート］を入力します。



［OK］を選ぶと、「インターネット」の設定画面に戻ります。

ちょっと一言

お使いのプロバイダによって入力の要、不要が異なります。詳しくは、お使いのプロバイダからの資料などをご覧ください。

7 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

メールを使う

メール画面に切り換えると、メールを書いたり送受信したりできます。

インデックス画面を表示し（☞ 41 ページ）、メールを選ぶ。



メール画面が表示されます。

メールの基本画面

送受信箱画面



1 **メール表示**

2 **受信箱タブ（☞ 71 ページ）**
受信メール（送られてきたメール）の一覧を表示します。
下の領域には、青い背景で選択されたメールの内容が、常にプレビュー表示されます。

3 **送信箱タブ**
送信済みメール・途中保存メールの一覧を表示します。
下の領域には、青い背景で選択されたメールの内容が、常にプレビュー表示されます。

4 **整理箱タブ（☞ 76 ページ）**
“メモリースティック”を挿入したときに表示されます。受信、送信したメールを整理できます。

5 **ソートボタン**
マーク、アドレス、日時または件名の各項目ごとにメールを並べ替えできます。ソートボタンを選ぶたびに昇順降順に並べ替えできます。

6 **すべてをチェックする/すべてのチェックを外す**
［すべてをチェックする］を選ぶと、表示されているタブ内ですべてのメールがチェックされ、［すべてのチェックを外す］を選ぶと、チェックがすべてはずれます。

7 **検索（☞ 77 ページ）**
キーワードを指定して、受信箱や送信箱、整理箱のメールを検索できます。

8 **添付画像アイコン（☞ 71 ページ）**
メールに画像ファイルが添付されている場合に表示されます。画像以外が添付されているときは、クリップアイコンが表示されます。

9 **プレビュー表示**
受信箱タブや送信箱タブ、整理箱タブで青い背景で選択されたメールの内容を表示します。

10 **チェックボックス**
選ぶたびにチェックマークがついたり、はずれたりします。

11 **マーク欄**
メールの状態に応じて、（未開封）、（返信）、（転送）、（途中保存）、（送信失敗）のマークを表示します。

12 **受信（☞ 71 ページ）**
メールを受信します。

13 **新規作成（☞ 66 ページ）**
メールを作成します。

14 **返信（再送信、編集）**
プレビュー表示されているメールの内容に応じて、［返信］、［再送信］、［編集］が表示されます。
返信：　メールを返信するための画面を表示します。（☞ 72 ページ）
再送信：送信済みのメールを再び送信するための編集画面を表示します。
編集：　メールの内容を編集するための画面を表示します。

15 **移動（チェックを移動）（☞ 76 ページ）**
青い背景で選択されたメール（［チェックを移動］のときはチェックしたメール）を整理箱などへ移動します。

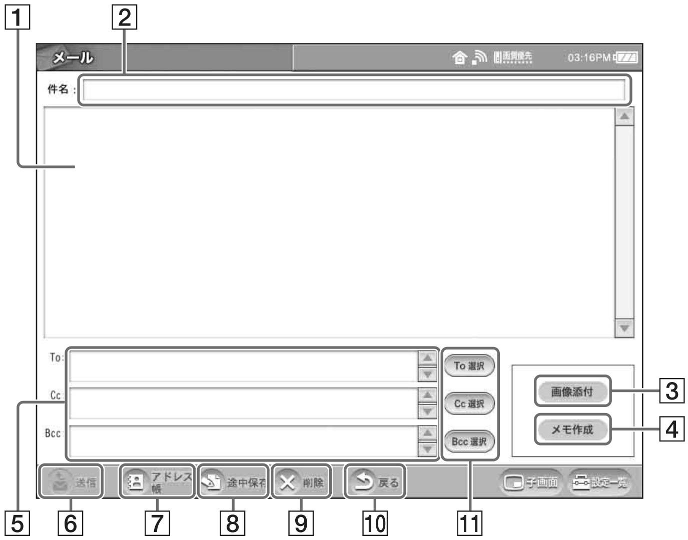
16 **削除（チェックを削除）（☞ 71 ページ）**
青い背景で選択されたメール（［チェックを削除］のときはチェックしたメール）とそのメールに添付されているファイルを削除します。

17 **全画面表示**
メールの本文を画面いっぱいに表示します。

18 **子画面**
テレビやビデオを子画面で表示します。

19 **設定一覧**
各種設定をするための「設定一覧」画面を表示します。
「設定一覧」画面にある［メール］を選ぶと、画面上の文字の大きさなどを設定できます。

メール作成画面



1 **本文入力欄**
メールの本文を入力します。

2 **件名**
メールのタイトルを入力します。

3 **画像添付（☞ 67 ページ）**
メールに画像を添付します。

4 **メモ作成（☞ 69 ページ）**
手書きの絵や文字をメールに添付します。

5 **宛先入力欄**
メールの宛先（メールアドレス）を入力します。

6 **送信（☞ 66 ページ）**
作成したメールをすぐ送信します。

7 **アドレス帳（☞ 74 ページ）**
アドレス帳を表示します。

8 **途中保存（☞ 67 ページ）**
作成途中のメールを送信箱に保存します。

9 **削除（☞ 67 ページ）**
表示しているメールを削除します。

10 **戻る**
メールの作成を中止し、送信箱または受信箱に戻ります（作成していたメールや送信に失敗したメールは途中保存されます）。

11 **To 選択、Cc 選択、Bcc 選択（☞ 66 ページ）**
宛先を選ぶためにアドレス帳を表示します。

セキュリティ上のご注意

受信したメール本文中の URL リンク（青色で表示されているホームページのアドレス）、または添付された HTML メールを選んで開くことで、個人情報を傍受したり、迷惑メールを発信したりするような悪意のあるサイトに誘導される可能性があります。URL リンクや HTML メールの内容が信頼できることを確認してから選ぶことをおすすめします。

メールを書く

メールを書いて送信する

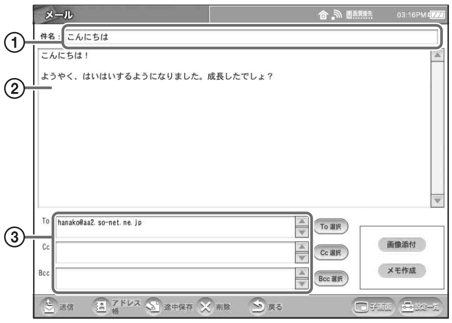
ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

1 **メール画面を表示し、[送信箱]または[受信箱]タブを選んで、[新規作成]を選ぶ。**

メール作成画面が表示されます。

2 **メールを書く。**



① 件名にメールのタイトルを入力します。
② メールの本文を入力します。
本機は、メールの本文の文字入力を終了したとき、一定の文字数を超えると、自動的に改行を入れます。
（署名を設定（☞ 77 ページ）すると、本文と署名の間は改行されます。）
③ 宛先（メールアドレス）を入力します。
1 文字まちがえても相手には届かないので、正確に入力してください。

ちょっと一言

- 送信元（自分）の名前やメールアドレスなどの情報を「署名」として保存し、メールの文末に入れることができます。詳しくは、「署名をつける」（☞ 77 ページ）をご覧ください。
- あらかじめアドレス帳にメールアドレスを登録しておくと（☞ 74 ページ）、メールアドレスを簡単に入力できます。

3 **メールの内容と宛先のメールアドレスを確認する。**

メールは一度送信してしまうと、取り消せません。送信する前に、もう一度メールの内容にまちがいがないか確認しましょう。

4 **[送信]を選ぶ。**

メールが送信されます。

ご注意

メールアドレスを入力しないと、［送信］は選べません。

ちょっと一言

自分のメールアドレス宛てに送ると、本機でメールを正しく送受信できるかどうか確認できます。メールの受信については、「受信したメールを読む」（☞ 71 ページ）をご覧ください。

1通のメールを複数の相手に同時に送りたいときは？

［To］や［Cc］、［Bcc］など宛先の欄で、メールアドレスとメールアドレスの間に、半角の「,」（コンマ）を入れて、メールアドレスを入力します。

[To]と[Cc]、[Bcc]の違いって何？

［To］：　メールを送りたい相手先（宛先）です。
［Cc］：　カーボンコピー（Carbon copy：カーボン紙で複写する）の意味で、メールのコピーを送りたい相手先（「To」以外の人）です。
［Bcc］：ブラインドカーボンコピー（Blind carbon copy：隠れたカーボンコピー）の意味です。「To」や「Cc」に入力したメールアドレスは、メールを受け取った全員に表示されますが、「Bcc」に入力したメールアドレスは、メールを受け取った全員からは見えません。

どの宛先に入力してもメールは届きますが、「To」、「Cc」、「Bcc」のどれで受け取るかで、相手の受けとめかたが異なることがあります。うまく使い分けましょう。

メールの送信が失敗したときは

送信箱のメールのマーク欄に ✕ が表示されますので、［編集］を選び、メール作成画面で宛先を確認してから［送信］を選んでください。

作成途中のメールを保存するには［途中保存］

［途中保存］を選びます。
送信箱が表示され、途中保存したメールのマーク欄に が表示されます。

ちょっと一言

メールを作成途中にキーボードを表示した状態でモニターの電源を切った場合、作成途中のメールは途中保存されます。

途中保存したメールを再び作成するには、再び作成するメールをプレビュー表示して［編集］を選び、文章を編集します。元の文章に戻すには、画面下部にある［やめる］を選んでください。

作成途中のメールや途中保存したメールを消すには

- **メールの作成中は**
  作成途中のメール作成画面下部にある［削除］を選びます。
- **送信箱から消すには**
  送信箱リストの中から消したいメールをプレビュー表示し、［削除］を選びます。または、消したいメールをチェックし、［チェックを削除］を選びます。

画像を添付する［画像添付］

ふつうの手紙に写真や絵を同封するように、メールでも、デジタルスチルカメラで撮影した画像を同封（添付）して送れます。

送りたい画像は、本機の「アルバム」や“メモリースティック”に保存されている画像から選べます。

ご注意

メールの本文と画像の合計サイズが約 5MB を超えると送信できません。添付した画像の合計サイズは、添付した画像の一覧画面で確認できます。（☞ 68 ページ）

---

1 メールの件名と本文、宛先を入力する。

---

2 ［画像添付］を選ぶ。



画像添付

画像の選択画面が表示されます。

---

3 送りたい画像をチェックし、［添付］を選ぶ。

今回は「こんにちは！」という名前の画像を送ってみましょう。

“メモリースティック”が挿入されているときはタブが表示されます。



添付

2 枚以上の画像を添付したいときは、添付したい画像すべてにチェックマークをつけてください。
“メモリースティック”の画像を添付したいときは、“メモリースティック”の保存箱・整理箱タブを選びます。

ちょっと一言

画像に触れると、画像を拡大表示できます。
拡大表示をやめるには、もう 1 回画像に触れます。

ご注意

画像のファイルサイズが 4MB を超える場合は、画像名の右側に （メール静止画画像送信不可） （メール動画画像送信不可）マークがつきます。なお、画像のファイルサイズが合計 4MB を超える場合は［添付］を選んだ際にエラーメッセージが表示されますので、画像の枚数を減らしてください。

メール作成画面に、選んだ画像が表示されます。

4 ［送信］を選んで送信する。



送信

ちょっと一言

複数の画像を添付するときは、最初に選んだ画像がメール作成画面に表示されます。

ご注意

- 添付画像のファイルサイズが合計 4MB 以下でも、To や Cc、Bcc にたくさんのアドレスを入力した場合は、送信できない場合があります。
- 相手が受け取ったメールに表示される名前は、画像の名前ではなくファイル名です。
- 画像ファイルが添付されているメールを送受信する場合、画像ファイルのサイズにより、送受信にしばらく時間がかかることがあります。

送る画像を確認するには

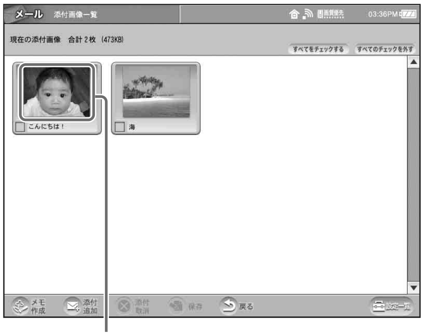
1 メール作成画面で添付画像に触れる。



ここを選びます

添付した画像の一覧画面が表示されます。

2 確認したい画像に触れる。



画像を選びます

画像が拡大表示されます。
送る画像が複数の場合は、「次画像」「前画像」を選ぶと、他の画像を確認できます。

3 ［戻る］を選ぶ。
添付した画像の一覧画面に戻ります。

4 ［戻る］を選ぶ。
メール作成画面に戻ります。

送る画像を追加するには

一度に複数の画像を送れます。

1 添付した画像の一覧画面を表示する。

2 ［添付追加］を選ぶ。
画像の選択画面が表示されます。

3 追加したい画像をチェックする。

4 ［添付］を選ぶ。
添付した画像の一覧画面の末尾に、追加した画像が表示されます。

5 ［戻る］を選ぶ。
メール作成画面に戻ります。

画像添付を取り消すには

1 添付した画像の一覧画面を表示する。

2 添付を取り消したい画像をチェックする。

3 ［添付取消］を選ぶ。
「この画像の添付を取り消します。よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

4 ［OK］を選ぶ。
選んだ画像が消えた添付した画像の一覧画面に戻ります。

5 ［戻る］を選ぶ。
メール作成画面に戻ります。

手書きの絵を送る［メモ作成］

写真などの画像だけではなく、手書きの絵や文字もメールで送れます。

1 **メールの件名と本文、宛先を入力する。**

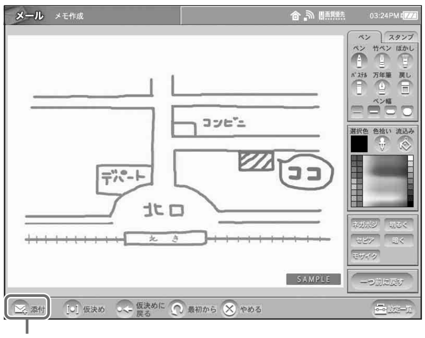
2 **［メモ作成］を選ぶ。**



メモ作成

添付のメモの作成画面が表示されます。

3 **絵や文字を描き、［添付］を選ぶ。**



添付

絵の描きかたについては、「お絵かきパレットの使いかた」（☞ 86 ページ）をご覧ください。

描いた絵がメール作成画面のメモ作成欄に表示されます。

4 ［送信］を選んで送信する。



送信

ちょっと一言

手書きのメモも、添付画像と同じ操作で拡大表示して確認したり、送るメモを追加したり、添付を取り消すことができます。（☞ 69 ページ）

複数のメモを一度に送るには

複数のメモを作成して一度に送ることができます。添付画像を選んだあとでメモを作成することもできます。

1 １枚目のメモを作成する､または画像を添付する。

2 添付した画像の一覧画面を表示する。

3 ［メモ作成］を選ぶ。
添付メモの作成画面が表示されます。

4 送りたいメモを作成し､［添付］を選ぶ。
添付した画像の一覧画面の末尾に、作成したメモが表示されます。

5 ［戻る］を選ぶ。
メール作成画面に戻ります。

作成したメモをアルバムに保存するには

1 添付した画像の一覧画面を表示する。

2 保存したいメモ画像をチェックする。

3 ［保存］を選ぶ。
アルバムに保存されます。

ちょっと一言

“メモリースティック”が入っていると、［保存］を選んだとき、「どちらのアルバムに保存しますか？」と表示されます。保存先を選んでから［OK］を選びます。

メールを読む

受信したメールを読む

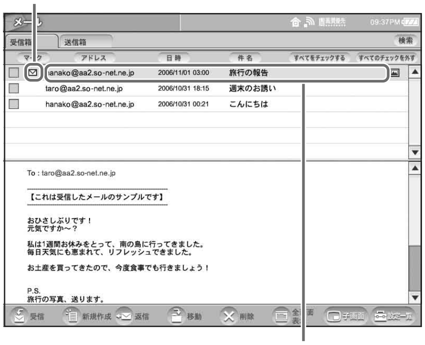
送られてきたメールがあるかどうか受信箱で確認します。

1 **［受信］を選ぶ。**

受信箱の画面に切り換わり、新たに届いたメールには、受信箱のメールのマーク欄に ✉（未開封）が表示されます。

2 **✉（未開封）マークのついているメールを選ぶ。**

未開封マーク



ここを選びます

メールの内容がプレビュー表示されます。

ご注意

- 受信メールに画像などの添付ファイルがある場合、受信にしばらく時間がかかることがあります。
- 以下のとき、リストの横に 📎 が表示されます。
  – 受信したメールに、本機では表示できないファイルが添付されているとき
    →メールをパソコンなどに転送し、添付ファイルをご覧ください。
  – 受信したメールが HTML 形式のとき
    →添付されているファイルを選ぶと、インターネット画面で HTML メールを表示します。
    信頼できないメールに添付された HTML メールは選ばないでください。

メールの本文を全画面で表示するには

プレビュー表示時に［全画面表示］を選びます。

受信したメールを削除するには

削除したいメールをプレビュー表示し、［削除］を選びます。または、受信箱を表示し、削除したいメールをチェックしてから、［チェックを削除］を選びます。

受信したメールの文中にホームページのアドレスが青色で表示されているときは

ホームページのアドレスを選ぶと、インターネット画面に切り換わり、そのホームページが表示されます。

ご注意

信頼できないメールの文中にあるホームページのアドレスは選ばないでください。

メールで送られてきた画像を拡大するには

メールに添付された画像を選ぶと拡大表示されます。［戻る］を選ぶと、元の画面に戻ります。



ここを選びます



ご注意

動画が添付されたメールを受け取ったときは、メール画面に画像ではなくムービーマークが表示されます。ムービーマークを選ぶと、動画が再生されます。

メールで送られてきた画像をアルバムに保存するには

添付された画像を選んで拡大表示し、［保存］を選びます。
アルバムに保存されます。

ちょっと一言

“メモリースティック”が入っていると、［保存］を選んだとき、「どちらのアルバムに保存しますか？」と表示されます。保存先を選んでから［OK］を選びます。

返信する

1 **受信箱を表示し、返事を書きたいメールを選ぶ。**

ここを選びます



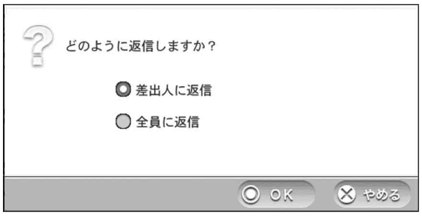
受信したメールの内容がプレビュー表示されます。

2 **［返信］を選ぶ。**

返信先のメールアドレスがすでに自動的に入力されたメール作成画面が表示されます。題名の先頭には返信を表す「RE：」が、本文の行頭には引用を表す「>」（引用符）が自動的につきます。

複数のあて先に返信するには

宛先が自分だけではなく、複数の人にも送られたメールに返事を書く場合、「どのように返信しますか？」というメッセージが表示されます。［全員に返信］を選び、［OK］を選びます。
（この画面は、返信するメールの宛先が複数の場合に表示されます。）



ちょっと一言

元のメールの差出人にだけ返信したいときは
［全員に返信］の代わりに、［差出人に返信］を選びます。
特定の方には返信したくないときは
［全員に返信］を選んだ後、「To」または「Cc」の欄で返信したくない方のメールアドレスをなぞって黒く反転させ、キーボードの［削除］を選びます。
さらに返信したい方を追加したいときは
「To」や「Cc」、「Bcc」に追加したい方のメールアドレスを入力します。

3 **返信する文章を入力する。**

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

4 **メールの内容と返信先のメールアドレスを確認する。**

5 **［送信］を選ぶ。**

転送する

1 **受信箱を表示し、転送したいメールを選ぶ。**

ここを選びます



受信したメールのプレビュー画面が表示されます。

2 **［全画面表示］を選ぶ。**

3 **［転送］を選ぶ。**

転送用のメール作成画面が表示されます。元のメールの受信情報とメールの文面が自動的に入力されます。題名の文頭には転送を表す「FW:」が自動的に付きます。文章を付け加えて転送したい場合は、キーボードで文章を入力します。

4 **宛先を入力し、［送信］を選ぶ。**

［To 選択］、［Cc 選択］または［Bcc 選択］を選ぶと、アドレス帳画面が表示され、登録されている宛先からメールアドレスを選べます。「アドレス帳から登録した送り先を選ぶ［To 選択］」（☞ 75 ページ）をご覧ください。



送信

メールを使うときの便利な機能

アドレス帳を使う

あらかじめメールアドレスをアドレス帳に登録しておけば、メール作成時にアドレス帳から選んで自動的に入力できるので、簡単で正確です。

アドレス帳に宛先を登録する[登録]

1 受信箱または送信箱を表示する。

2 アドレス帳に登録したいメールアドレスの入っている送信済みメール、または受信メールを選ぶ。

3 [全画面表示]を選ぶ。

4 [アドレス登録]を選ぶ。



アドレス登録

アドレスの登録画面が表示され、メールアドレス入力欄にメールアドレスが入力されます。

ちょっと一言

受信メールを表示しているときは、差出人のメールアドレスが登録されます。
送信済みメールを表示しているときは、「To」と「Cc」、「Bcc」に表示されているメールアドレスがすべてアドレス帳に登録されます。グループをまとめて登録したいときに便利です。

5 ニックネーム入力欄にメールアドレスのニックネームを入力し、[OK]を選ぶ。



OK

ちょっと一言

- 文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。
- アドレス帳のリストは、追加した順に並びます。またソートボタンで、並べ替えできます。

ニックネームのつけかた

例えば、hanako@aa2.so-net.ne.jp というメールアドレスのニックネームを「はなこ」にすると、アドレス帳に「はなこ」と表示されます。相手が受け取ったメールにはニックネームは表示されませんので、本名でもニックネーム（あだ名）でも、あなたが識別しやすい名前にしましょう。

手順 4 で表示したメールの画面に戻ります。

メールアドレスを直接アドレス帳に入力して登録するには

1 メール作成画面を表示し、[アドレス帳]を選ぶ。
アドレス帳画面が表示されます。

2 [新規]を選ぶ。
アドレスの登録画面が表示されます。

3 「ニックネーム」欄に、メールアドレスのニックネームを入力する。

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91ページ）をご覧ください。

4 メールアドレス入力欄にメールアドレスを入力し、[OK]を選ぶ。
同じニックネームに複数のメールアドレスを登録するときは、メールアドレスとメールアドレスの間にコンマ（,）を入れて区切ります。

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91ページ）をご覧ください。

アドレス帳を変更するには

1 アドレス帳画面を表示し、内容を変更したいメールアドレスをチェックし、[編集]を選ぶ。
アドレスの編集画面が表示されます。

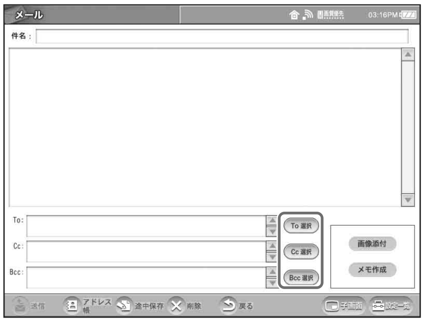
2 変更したい項目を入力し直し、[OK]を選ぶ。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

アドレス帳画面を表示し、削除したいメールアドレスをチェックし、［削除］を選びます。

アドレス帳から登録した送り先を選ぶ [To 選択]

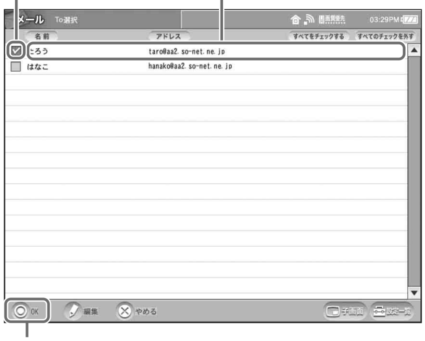
1 メールの新規作成画面を表示し、宛先入力欄の右側にある[To 選択]、[Cc 選択]、[Bcc 選択]を選ぶ。



To 選択画面（または Cc 選択画面や Bcc 選択画面）が表示されます。

2 メールアドレスをチェックし、[OK]を選ぶ。または、直接メールアドレスを選ぶ。

ここをチェックします
または直接ここを選びます



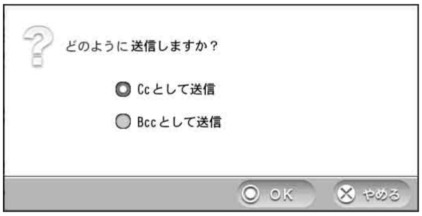
OK

メール作成画面のアドレス入力欄にメールアドレスが入力されます。

ちょっと一言

- アドレス帳画面を表示し、送り先のメールアドレスをチェックして、［To］または［Cc/Bcc］を選んでもメールアドレスが入力されたメール作成画面を表示できます。

• [Cc/Bcc] を選んだ場合、「どのように送信しますか？」というメッセージが表示されます。どちらかを選び、[OK] を選んでください。



メールを整理する[整理箱]

保存されているメールを“メモリースティック”の「整理箱」に移動してメールを分類できます。

1 “メモリースティック”を挿入する。

メール画面に整理箱タブが表示されます。

2 受信箱または送信箱を表示する。

3 整理箱に移動したいメールをチェックし、[チェックを移動] を選ぶ。



チェックを移動

メッセージが表示されます。

4 移動先を選ぶ。



選択したメールが“メモリースティック”の整理箱に移動します。

ご注意

メールの移動中に“メモリースティック”を抜いたり、本体の電源を切ったりしないでください。

整理箱に名前をつけるには

1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。
「設定一覧」画面が表示されます。

2 [メール]を選ぶ。
「メール」画面が表示されます。

3 [整理箱]を選ぶ。
「整理箱」画面が表示されます。
＊“メモリースティック”が本機に挿入されていないときは、選べません。

4 名前を付けたい整理箱の欄を選んで名前を変更し、[OK]を選ぶ。
「メール」画面に戻ります。

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」(☞ 91 ページ) をご覧ください。

5 [設定一覧]を選ぶ。
「設定一覧」画面に戻ります。

6 [設定終了]を選ぶ。

ちょっと一言

整理箱内のメールをパソコンで確認するときは、“メモリースティック”の中の「LFXmailx」(x は任意の数字) というフォルダを検索してください。

パソコンで“メモリースティック”内のメールデータを編集すると、“メモリースティック”を本機に挿入したとき、そのメールが消去される場合がありますので、ご注意ください。

メールを検索する

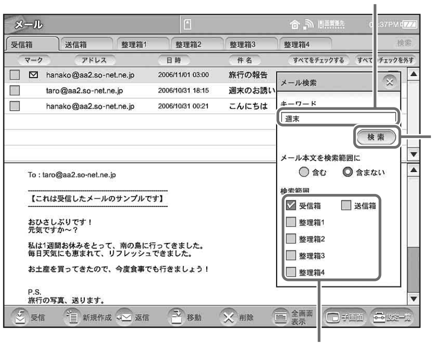
受信箱や送信箱、整理箱のメールを検索できます。メールの内容を探したり、移動や削除したいメールをまとめて検索したいときなどに便利です。なお、検索結果から移動や削除を行うと、そのメールは元の受信箱や送信箱、整理箱からも移動・削除されます。

1　受信箱または送信箱、整理箱を表示しているときに、[検索]を選ぶ。

「メール検索」パネルが表示されます。

2　[キーワード]欄に検索したい文字列を入力し、検索条件を選んで、[検索]を選ぶ。

ここに検索したい文字列を入力します



検索

検索範囲を選びます

ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

検索が終了すると、新たに検索結果タブが追加され、検索されたメールの一覧が表示されます。

署名をつける

送信元（自分）の名前やメールアドレスなどの情報を「署名」として保存し、自動的にメールの文末に入れて送信できます。署名を登録しておくと、自分の名前や住所などをそのつど入力しなくてもすむので便利です。

1　画面右下の[設定一覧]を選ぶ。

「設定一覧」画面が表示されます。

2　[メール]を選ぶ。

「メール」画面が表示されます。

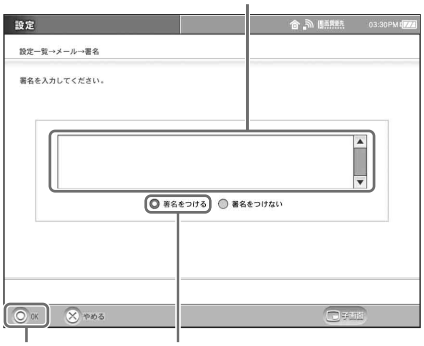
3　[署名]を選ぶ。

「署名」画面が表示されます。

4　署名を入力し、[署名をつける]を選んで、[OK]を選ぶ。

署名には、自分の名前の他、住所や電話番号、顔文字なども入力できます。
「メール」画面に戻ります。

署名を入力します



OK　　ここを選びます

5 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

以降、送信するメールには自動的に署名がつきます。

メール画面を表示するためのパスワードを設定する（セキュリティパスワード）

本機のメール画面を他人に見られないように、パスワード（暗証番号）を設定します。
ここでは例として、はじめてパスワードを設定するときの手順を説明しますが、パスワードを変更するときも同様の手順で行えます。

ご注意

入力したパスワードは忘れないでください。
パスワードを忘れると、メールを初期化する（☞ 142 ページ）必要があります。メールを初期化すると、すべてのメールデータが消去されますので、ご注意ください。

1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。

「設定一覧」画面が表示されます。

2 [メール]を選ぶ。

「メール」画面が表示されます。

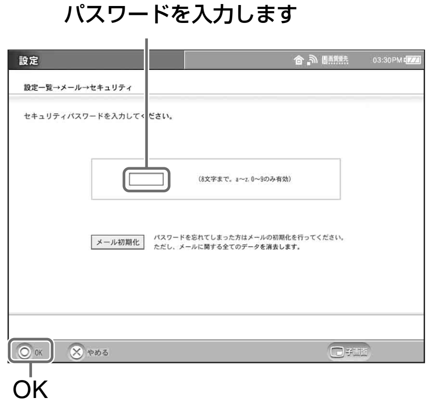
3 [セキュリティ]を選ぶ。

「セキュリティ」画面が表示されます。

4 パスワードを入力し、[OK]を選ぶ。

本機の工場出荷時のパスワードは「0000」です。

はじめてパスワードを設定するときは、「0000」と入力します。



「セキュリティパスワード設定」画面が表示されます。

5 [セキュリティパスワードの変更]を選ぶ。

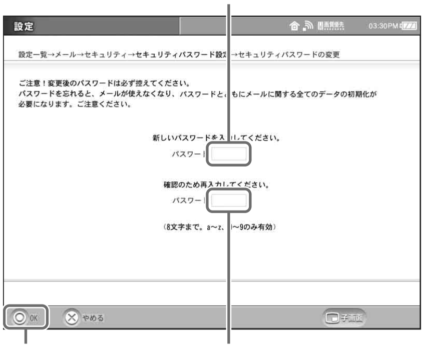


「セキュリティパスワードの変更」画面が表示されます。

6 新しいパスワードを8文字以内の半角数字（0 ～ 9）、半角英小文字（a ～ z）で入力し、[OK]を選ぶ。

確認のため、同じパスワードをもう一度入力してください。

パスワードを入力します



OK　同じパスワードを入力します

手順５の「パスワード設定」画面に戻ります。

7 ［セキュリティパスワードの有効 / 無効］を選ぶ。

「セキュリティパスワードの有効 / 無効」画面が表示されます。

8 ［有効にする］を選び、［OK］を選ぶ。

「パスワード設定」画面に戻ります。

9 ［戻る］を選ぶ。

「メール」画面に戻ります。

10 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

設定後は、メール画面を開くときにパスワードの入力が必要になります。
一度パスワードを入力すると、電源を切るまで再度入力する必要はありません。

メールの送受信設定を変更する

初期設定で設定したメールの送受信設定を変更したり、定期受信やメールの文字の大きさを変更したりできます。

ちょっと一言

本機に設定できるメールアドレスは１つだけです。複数のメールアドレスは設定できません。

1 画面右下の［設定一覧］を選ぶ。

画面右下に［設定一覧］が表示されていないときは、画面に軽く触れると表示されます。
「設定一覧」画面が表示されます。

2 ［メール］を選ぶ。

「メール」画面が表示されます。

3 ［送受信設定］を選ぶ。

「送受信設定」画面が表示されます。

4 各項目を入力し、［OK］を選ぶ。



① **名前を入力する。**
ご自分が送るメールの差出人の欄に、ここに入力した名前が表示されます。
通常はご自分の名前を入力します。

② **メールアドレスを入力する。**
受取人がメールを開いたときに、メールの差出人のアドレスとして表示されます。

③ **メールアカウント*を入力する。**
メールの送信者が利用者本人であることを確認するための設定です。

④ **プロバイダから指定されたメール用パスワード*を入力する。**
メールの送信者が利用者本人であることを確認するための設定です。
入力した文字は、秘密保持のため「*」で表示されます。

⑤ **POP3 サーバー*を入力する。**
メール受信用のサーバーを指定します。

⑥ **SMTP サーバー*を入力する。**
メール送信用のサーバーを指定します。

⑦ **受信メールをサーバーに残すか、残さないかを選ぶ。**
通常は「残さない」を選びます。
同じメールを他の機器（パソコンなど）でも受信したい場合は、「残す」を選びます。
「残す」に設定すると、同じメールが何回も受信されることがあります。
お買い上げ時は「残さない」に設定されています。

⑧ **新着メールを確認する場合は、何分おきに確認するかを 0 〜 999 分の範囲で入力する（定期受信）。**
0 分に設定するとメールの確認は行いません。

⑨ **画面に表示するメールの文字の大きさを選択する。**

⑩ **［OK］を選ぶ。**

ちょっと一言

- 文字入力のしかたについて詳しくは「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。
- 設定した内容は、画面をキャプチャー（画面保存）して、残しておくこともできます。（☞ 49 ページ）

それぞれの用語は次のように呼ばれることがあります。詳しくは、お使いのプロバイダからの資料などをご覧ください。

* **「メールアカウント」の別の呼びかた**
「ユーザー名」、「POP アカウント」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POP サーバーアカウント」、「POP サーバーログイン名」

* **「メール用パスワード」の別の呼びかた**
「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」

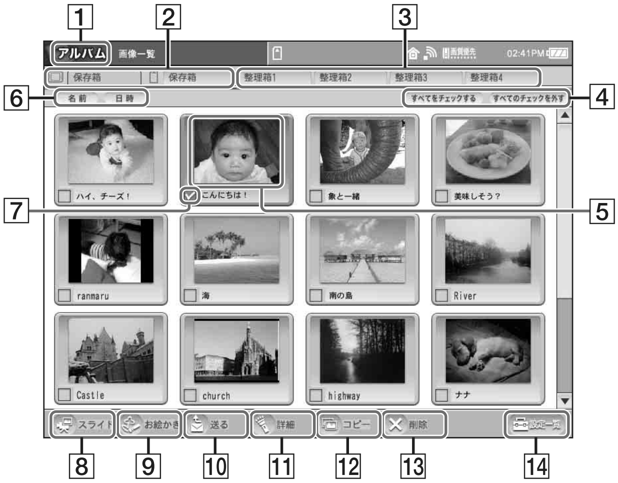
* **「POP3 サーバー」の別の呼びかた**
「POP サーバー」、「メール受信サーバー」

* **「SMTP サーバー」の別の呼びかた**
「メール送信サーバー」

「メール」画面に戻ります。

5 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

アルバムの基本画面



1 **アルバム表示**

2 **保存箱タブ**
本機に保存されている画像の一覧を表示します。

3 **保存箱タブ、整理箱タブ**
“メモリースティック”を挿入したときに表示されます。保存されている画像を整理できます。

4 **すべてをチェックする/すべてのチェックを外す**
［すべてをチェックする］を選ぶと、表示されているタブ内のすべての画像がチェックされ、［すべてのチェックを外す］を選ぶと、チェックがすべてはずれます。

5 **画像**
選ぶと画像が拡大表示されます。動画の場合は、再生されます。

6 **ソートボタン**
名前順または更新日時順に画像を並べ替えできます。ソートボタンをタッチするたびに、昇順降順に並べ替えできます。

7 **チェックボックス**
選ぶたびにチェックマークがついたり、はずれたりします。

8 **スライド**（☞ 83 ページ）
アルバム内の全画像、またはチェックした画像を自動的に次々と表示します。

9 **お絵かき**（☞ 85 ページ）
絵や文字を手描きします。

10 **送る**（☞ 88 ページ）
チェックした画像をメールに添付します。

11 **詳細**（☞ 90 ページ）
チェックした画像の名前を変更したり、拡大表示（動画表示）や回転ができます。また、画像のファイルサイズや、撮影日時、更新日時などを表示します。

12 **コピー**（☞ 89 ページ）
チェックした画像を本体、または“メモリースティック”へコピーします。

13 **削除**
チェックした画像を削除します。

14 **設定一覧**
各種設定をするための「設定一覧」画面を表示します。
「設定一覧」画面にある［アルバム］を選ぶと、整理箱の名前の変更などができます。

アルバムの画像を見る

画像の一覧を表示する

アルバムで本体および“メモリースティック”に保存した画像の一覧を表示できます。

ご注意

アルバム画面内では子画面は使えません。

インデックス画面を表示し、[アルバム]を選ぶ。



「画像一覧」画面が表示されます。



“メモリースティック”に保存した画像を表示するには

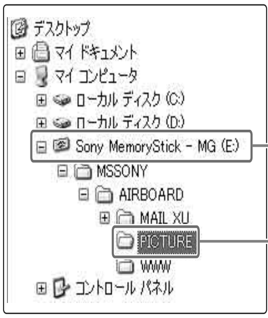
“メモリースティック”をモニターに入れると、本体の［保存箱］タブの右側に“メモリースティック”のタブが表示されます。

“メモリースティック”のタブ



ちょっと一言

- パソコンで作成した画像を本機のアルバムで表示する場合、画像を“メモリースティック”内の次のフォルダにコピーしてください。
  パソコンのフォルダ例：



- “メモリースティック”内に上記フォルダが存在しないときは、パソコンでフォルダを作成するか、本機に“メモリースティック”を挿入してください。アルバム画像一覧を表示したときにフォルダが作成されます。
- 本機のアルバムの画像を“メモリースティック”に保存してパソコンで確認するときも、上記フォルダを参照してください。

ご注意

- デジタルスチルカメラ DSC-T1/P10 などの E メールモードで撮影した画像を本機のアルバムで表示すると、同じ画像が 2 つ表示されますが、これらの画像を拡大表示すると異なった大きさで表示されます。このとき、大きい画像を削除すると、“メモリースティック”をデジタルスチルカメラに戻したときに画像が表示されなくなりますので注意してください。
- 本体の容量がいっぱいになったときは、画像の一覧で動画の 1 コマ目の画像が表示されず、 マークが画像の一覧で表示されることがあります。

- ファイル名に全角の文字が使われている画像をパソコンから“メモリースティック”にコピーした場合、その画像は本機のアルバムでは表示できないことがあります。
- パソコンで初期化した“メモリースティック”に保存されている画像は、本機で表示できないことがあります。“メモリースティック”は、本機で初期化してください。（☞ 107 ページ）
- 本機では（社）日本電子工業振興協会の規格（DCF：Design rule for Camera File system）で記録された画像を表示できますが、この規格に対応していないデジタルビデオカメラレコーダーDCR-TRV900 やデジタルスチルカメラ DCF-D700/D770 などで記録された画像は表示できないことがあります。
- デジタルスチルカメラなどで撮影した画像で、本機で手を加えていないオリジナルの画像（元画像）には マークが画像の右側に表示されます。

拡大画像を見る

1 拡大したい画像を選ぶ。

画像を選びます（□は選ばない）



画像が拡大表示されます。

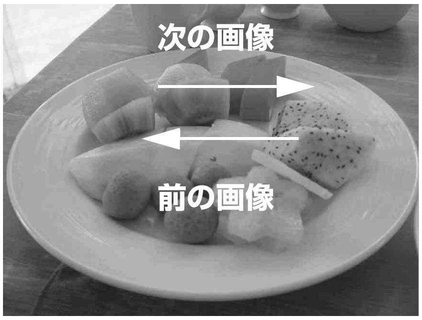
ご注意

画像によっては拡大表示に数十秒ほどかかることがありますが、この間、他の操作はできません。

ちょっと一言

画像をチェックしてから［詳細］を選び、表示される「画像詳細」画面で［拡大表示］を選んでも拡大表示できます。この場合、拡大された画像に軽く触れると「画像詳細」画面に戻ります。

左から右へなぞると次の画像に、右から左へなぞると１つ前の画像に切り換わります。



2 拡大表示をやめるには、画像に軽く触れる。

「画像一覧」画面に戻ります。

ちょっと一言

［INDEX］ボタンを押しても、「画像一覧」画面に戻ります。

拡大画像を順番に見る［スライドショー］

アルバム内の画像を次々に自動的に切り換えて見ることができます。この機能をスライドショーと言います。

1 「画像一覧」画面を表示し、画像のチェックをすべてはずして、［スライド］を選ぶ。



スライド

アルバム用の画像すべての拡大画像が次々と自動的に切り換わって表示されます。（スライドショー）

2 **スライドショーをやめるには、拡大画像に触れる。**
「画像一覧」画面に戻ります。

ご注意
サイズの大きい（高画質）画像など、拡大表示できない画像がスライドショーに含まれているときは、その画像をとばして次の画像を表示します。アルバムの中のすべての画像が拡大表示できない場合は、スライドショーが開始されません。

好きな画像を好きな順番で表示するには

スライドショーで表示したい順番にチェックし、［スライド］を選びます。
チェックした画像だけが選んだ順番に次々と表示されます。

ご注意
1 枚だけをチェックして［スライド］を選ぶと、同じ画像が表示されつづけます。

画面が切り換わる時間を変えるには

設定画面で変更します。

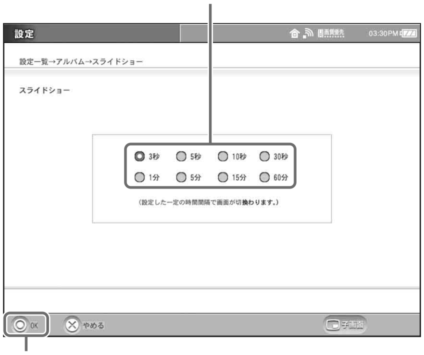
1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。
「設定一覧」画面が表示されます。

2 [アルバム]を選ぶ。

3 [スライドショー]を選ぶ。
「スライドショー」画面が表示されます。

4 画面が切り換わる時間を選び、[OK]を選ぶ。

時間を選びます



OK

ご注意
- サイズの大きな画像が含まれている場合、次の画像へ切り換わるのに、選んだ時間より長くかかることがあります。
- アルバム内の動画や GIF アニメーション形式の画像は、1コマ目だけをスライドショーで表示します。

画面に絵を描く［お絵かき］

アルバムに保存されている画像や白い画面に絵や文字を描いて、アルバムに保存できます。

1 **「画像一覧」画面を表示し、お絵かきしたい画像を1つだけチェックして、［お絵かき］を選ぶ。**

「アルバム お絵かき」画面に選択した画像が拡大表示されます。
白い画面にお絵かきしたいときは、すべての画像のチェックをはずしてください。

ご注意
複数の画像にチェックがついているときは、［お絵かき］が選べません。

ちょっと一言
次の場合は、画像のまわりに余白ができます。
- 縦横比が4：3以外の画像
- 画像の元サイズがお絵かき画面のサイズ（512 × 384ドット）より小さい画像

2 **画面右側のお絵かきパレットを使って、絵や文字を描く。**



お絵かきパレット

お絵かきパレットの使いかたについて詳しくは、「お絵かきパレットの使いかた」（☞ 86ページ）をご覧ください。

3 **お絵かきが完成したら［保存］を選ぶ。**

「画像一覧」画面に戻ります。
お絵かきした画像は、元の画像とは別の画像として、JPEG形式でアルバムの先頭に保存されます。

お絵かき中の画像を一時的に保存するには

「お絵かき」画面下部の［仮決め］を選びます。あとで仮決め保存した状態に戻すには、画面下部の［仮決めに戻る］を選びます。

お絵かきを最初からやり直すには

「お絵かき」画面下部の［最初から］を選びます。お絵かきする前の画像の状態に戻ります。

あなたが撮影、制作した画像以外は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

お絵かきパレットの使いかた

[ペン]パネル

絵や文字をペンで描くには

［ペン］パネルで絵や文字が描けます

1 ペンの種類を選ぶ。

: ペン

: 竹ペン

: パステル

: 万年筆

2［ペン幅］で、使いたいペンの太さを選ぶ。

3 カラーパレットを選んで、［選択色］ボックスに使いたい色を表示する。

4 画面上に絵や文字を描く。

画像全体に効果をつけるには

お絵かきした画像全体に効果をつけられます。

［ネガポジ］：タッチするたびに画像全体の色が反転します。

［セピア］：タッチすると画像全体がセピア色（茶色っぽい色）になります。

［モザイク］：タッチするたびに画像全体がモザイク状になります。1 ～ 10 回目まではタッチするたびにモザイクが大きくなります。11 回目にタッチするとモザイクなしに戻ります。

［明るく］：タッチするたびに画像全体の色が明るくなります。

［暗く］：タッチするたびに画像全体の色が暗くなります。

ひとつ前の画像の状態に戻すには

［一つ前に戻す］を選ぶ。

お絵かきした画像が最後の操作の前の状態に戻ります。



画像をぼかすには

［ぼかし］を選び、タッチペンでぼかしたい部分をこする。

こすった部分にぼかし効果が入ります。

描いた線や文字を消すには

1［戻し］を選ぶ。

2［ペン幅］で消す幅の太さを選ぶ。

3 タッチペンで消したい部分をこする。

消しゴムのように、描いた線や文字を消すことができます。

画像の中の色と同じ色を使うには（色拾い）

1［色拾い］を選ぶ。

2 画像の中の使いたい色にタッチする。［選択色］ボックスにタッチした色が表示され、画像の中の色に一番近い色で描けます。

描いた図形全体に色を塗るには

円や多角形など、閉じた図形の全体に色をつけることができます。

1 ペンで色を流し込みたい図形を描く。

2［流込み］を選ぶ。

3 図形の内側を選ぶ。

図形全体に色が塗られます。

ご注意

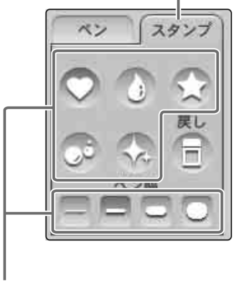
次のような場合は、図形でなく画面全体に色が塗られますのでご注意ください。

- 図形が閉じていないとき
- 閉じた図形を描いたあとで流し込む色を変えたとき
- スタンプやパステルで図形を描いたとき

[スタンプ]パネル

5 種類のマークをスタンプのように 1 つずつ押したり、連続模様として描いたりできます。
［スタンプ］タブを選ぶと「スタンプ」パネルが表示されます。

[スタンプ]タブ



スタンプを使うには

1 使いたいスタンプの種類を選ぶ
2 ［ペン幅］でスタンプの大きさを選ぶ。
3 カラーパレットを選んで、［選択色］ボックスに使いたい色を表示する。
4 タッチペンで画面にタッチする、または画面上でタッチペンを動かす。
選んだスタンプが描けます。

動画を見る[動画再生]

アルバムに保存した動画を再生します。
本機では、MPEG1 を再生できます。

ご注意

- 本機では、「mpg」以外の拡張子がついた MPEG1 方式の動画は再生できません。
- 本機では横 640 ドット、縦 480 ドットを超える大きさの動画は再生できません。パソコンで作成した動画は再生できないことがあります。
- 本機では、動画はそれぞれファイルのサイズどおりに表示されます。横 640 ドット、縦 480 ドット以下の動画の場合は、動画のまわりに余白が表示されます。
- GIF アニメーション形式の画像の表示方法は、静止画と同じです。

1 「画像一覧」画面を表示し、再生したい動画を選ぶ。

動画は、画像名の右側に が表示されています。
「動画再生」画面が表示され、自動的に再生が始まります。



［一時停止］： 再生を一時停止します。もう一度選ぶと再生が再開します。
［再生］： 再生を始めます。
［停止］： 再生を止めます。
［早戻し］： 動画を早戻しします。
［早送り］： 動画を早送りします。

［戻る］を選ぶと、「画像一覧」画面に戻ります。

ちょっと一言

- 再生バー表示は、現在再生中の位置の目安となります。再生中または一時停止中は、再生バーをつかんで、再生位置を動かすことができます。
- 動画のサイズが大きいときは、本来の再生速度よりゆっくりと再生されることがあります。
- 動画の最後まで「再生」または「早戻し」、「早送り」が行われると、再生画面は真っ黒になります。
- 画像をチェックしてから［詳細］を選び、表示される［画像詳細］画面で［動画再生］を選んでも動画の再生ができます。
- 音声のない MPEG1 方式の動画を再生するときは、「早戻し」や「早送り」の操作を行ったり、再生バーをつかんで再生位置を動かしたりすることはできません。

アルバムを使うときの便利な機能

メールで画像を送る

アルバムから画像を選び、メールに添付して送れます。

1 「画像一覧」画面を表示し、メールに添付したい画像をチェックして、［送る］を選ぶ。

2 枚以上の画像を添付するときは、それぞれをチェックします。



ここをチェックします

「メールの作成」画面が表示されます。

ご注意

画像のファイルサイズは、「画像詳細」画面（ 90 ページ）で確認できます。
画像のファイルサイズが 4MB を超える場合は、画像名の右側に  マークがつきます。
なお、画像のファイルサイズが合計 4MB を超える場合は［送る］を選んだ際にエラーメッセージが表示されますので、画像の枚数を減らしてください。

複数の画像を添付するときは、最初にチェックした画像が「メールの作成」画面に表示されます。



ちょっと一言

２番目以降の画像を確認するときは、「メールの作成」画面にある青枠で囲まれた画像を選んで「添付画像一覧」画面を表示します。

2 **メールを書いて送る。（☞ 66 ページ）**

アルバムを整理する

本体の「保存箱」にある画像を“メモリースティック”の「保存箱」または「整理箱」にコピーして整理できます。

1 **本機に“メモリースティック”を挿入する。**

2 **整理したい画像が保存されている「画像一覧」画面を表示する。**

3 **整理したい画像をチェックし、[コピー]を選ぶ。**

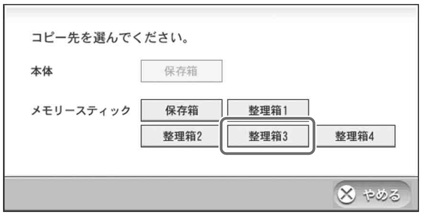


コピー

「コピー先を選んでください。」というメッセージが表示されます。

4 **コピーしたい場所を選ぶ。**

例：“メモリースティック”の「整理箱 3」にコピーするときは、［整理箱 3］を選ぶ。



選択した画像がコピーされます。
コピー先の「画像一覧」画面を表示すると、コピーされたことを確認できます。

“メモリースティック”の整理箱に名前をつけるには

1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。
「設定一覧」画面が表示されます。

2 [アルバム]を選ぶ。
「アルバム」画面が表示されます。

3 [整理箱]を選ぶ。

アルバム

「整理箱」画面が表示されます。

＊“メモリースティック”が本機に挿入されていないときは、選べません。

4 名前を付けたい整理箱の右側の入力欄を選んで名前を変更し、[OK]を選ぶ。

「設定一覧」画面に戻ります。

5 [設定終了]を選ぶ。

画像の詳細を表示する

画像の名前やファイル名、ファイルサイズ、撮影日時、更新日時などを表示できます。

1 **「画像一覧」画面を表示し、詳細を表示したい画像を1つだけチェックして、[詳細]を選ぶ。**

ご注意

複数の画像がチェックされていると、[詳細]を選べません。他の画像のチェックをはずしてください。

「画像詳細」画面が表示されます。



ちょっと一言

- [名前]欄を選ぶと、画像の名前を変更できます。画像の名前を変えても、「ファイル名」は変更されません。
- 撮影日時はデジタルカメラで撮影した画像のみ表示されます。
- アドレスはホームページの画面全体をキャプチャーした画像のみ表示されます。
- [コメント]欄に、各画像の情報を入力できます。（最大文字数全角280字）入力したコメントは、本機でのみ見ることができます。

2 **[OK]を選ぶ。**

「画像一覧」画面に戻ります。

ちょっと一言

- 動画やGIF形式の画像は回転できません。
- 回転させた画像を他の機器で表示しても、回転した向きでは表示されません。また、回転させた画像をメールに添付すると、回転は解除されます。

文字を入力する

本機では、メールを書いたり、各種設定をするときなどに入力欄を選ぶと、自動的に文字入力用のソフトウェアキーボードが表示されます。文字の入力は、ソフトウェアキーボードのキーをタッチペンで選んで行います。

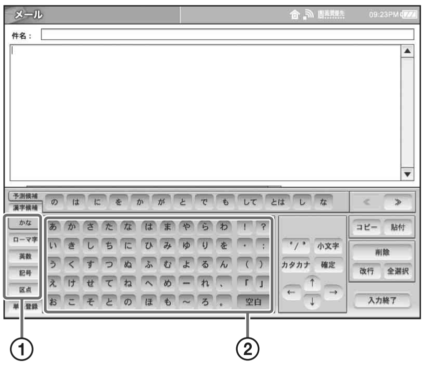
ここでは例として、「メールの作成」画面を使って説明しますが、その他の画面の場合も同様の操作で文字入力できます。

1 メール作成画面を表示し（☞ 66 ページ）、文字入力欄を選ぶ。

キーボード入力画面が表示されます。

2 タッチペンを使って、キーボードの種類を選び、入力したい文字を選ぶ。

選択に応じて、キーボードが切り換わります。



① キーボードの種類を選びます。
② 入力したい文字を選びます。
入力欄に選んだ文字が青字で表示されます。

文字入力のしかたについて詳しくは、「ソフトウェアキーボードを使って文字を入力する」（☞ 96 ページ）をご覧ください。

キーボードの種類と各キーの使いかたについて詳しくは、「キーボードの各部の名前」（☞ 92 ページ）をご覧ください。

3 文字入力が終わったら、[入力終了]を選ぶ。

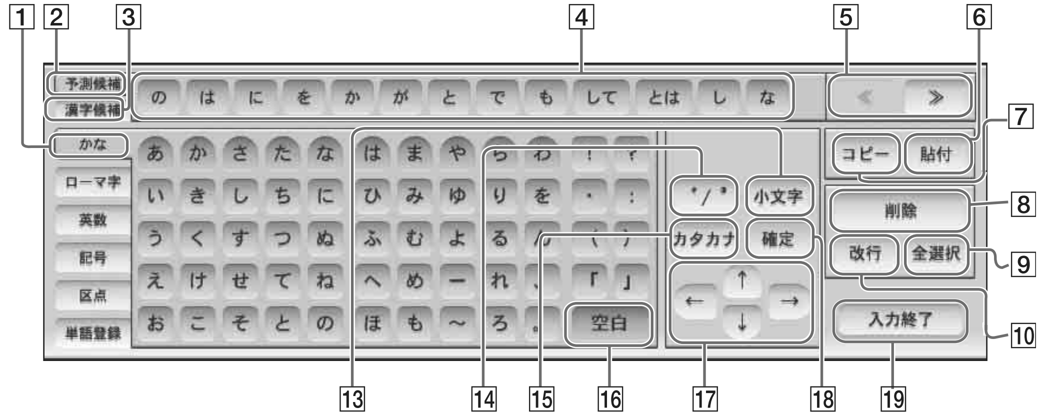
キーボードが消え、元の画面に戻ります。

ちょっと一言

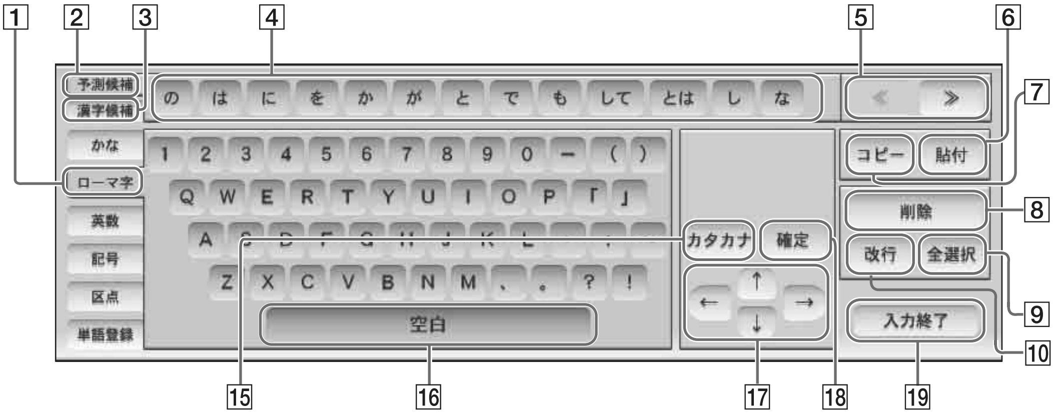
- 本機のキーボードには、予測入力（POBox）機能があります。予測入力機能とは、入力した文字から予測される単語を一覧表示したり、一覧表示から選んだ単語から文脈を予測していく機能です。さらに、よく使う単語を学習しますので、使うほどにキーボードを打つ回数が減って便利になります。
- 市販のキーボードをつなげて使うこともできます。（☞ 104 ページ）

キーボードの各部の名前

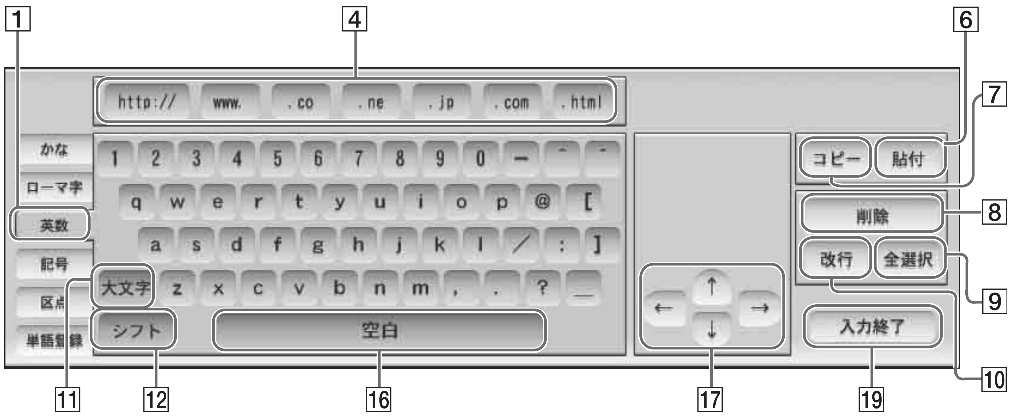
かなキーボード



ローマ字キーボード



英数キーボード



1 **かな / ローマ字 / 英数（☞ 96、98 ページ）**
かなキーボードまたはローマ字キーボード、英数キーボードを切り換えます。

2 **予測候補**
予測候補一覧を表示します。

3 **漢字候補**
読みと一致した単語や漢字などを表示します。

4 **予測候補一覧**
入力した文字から予測される単語の候補を一覧表示します。
英数キーボードのときは、候補の単語の代わりに次の単語を表示します。
http://、**www.**
ホームページのアドレスを入力するときに使います。
.co、**.ne**、**.jp**、**.com**
ホームページのアドレスやメールアドレスを入力するときに使います。
.html
ホームページのアドレスを入力するときに使います。

5 **<< / >>**
＜＜：前の候補一覧を表示します。
＞＞：次の候補一覧を表示します。

6 **貼付（☞ 101 ページ）**
コピーした文字を貼り付けます。

7 **コピー（☞ 101 ページ）**
反転された文字をコピーします。

8 **削除（☞ 98 ページ）**
「｜」（カーソル）の前の文字、または反転された文字を削除します。

9 **全選択**
文字入力欄のすべての文字を選びます。

10 **改行**
改行します。

11 **大文字**
大文字キーボードを表示します。

12 **シフト**
大文字と記号（!、"、#、$）キーボードを表示し、1 文字選んだ後は、小文字キーボードを表示します。

13 **小文字**
入力した文字を「ゃ」、「ゅ」、「ょ」などの小文字に変換します。

14 **"/°**
入力した文字に濁点・半濁点を付けます。

15 **カタカナ**
入力した文字をカタカナに変換します。

16 **空白**
全角スペース（かな、ローマ字キーボード時）や半角スペース（英数キーボード時）を挿入します。

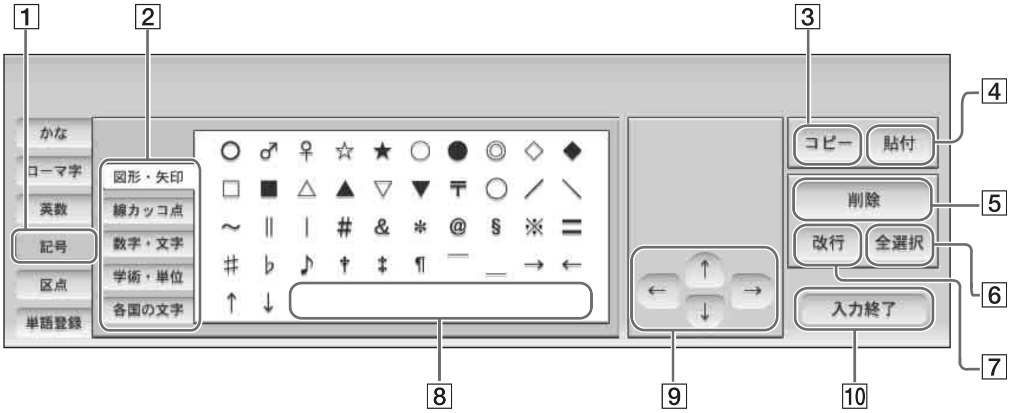
17 **← / ↑ / → / ↓**
入力位置を移動します。

18 **確定**
予測候補や漢字候補から選ばずに、ひらがなやカタカナの確定、小文字や濁点・半濁点への変換の確定をするときに選びます。

19 **入力終了**
キーボードを消し、元の画面に戻ります。

ご注意
- ［カタカナ］や［小文字］、["/°］は、入力した文字の変換を確定する前（文字の色が青のとき）にのみ働きます。
- ［←］/［→］は入力した文字の変換を確定する前でも働きますが、［↑］/［↓］は変換を確定した後にのみ働きます。
- メールアドレスなど半角の英数字（記号や空白などを含む）を入力したい場合は、［英数］を選び、キーボードを切り換えてから入力してください。
- 全角の英字を入力したい場合は、［記号］を選び、［各国の文字］を選んで入力してください。

記号キーボード



1 **記号（☞ 98 ページ）**
記号キーボードを表示します。

2 **記号種類切り換え**

3 **コピー（☞ 101 ページ）**
反転された文字をコピーします。

4 **貼付（☞ 101 ページ）**
コピーした文字を貼り付けます。

5 **削除（☞ 98 ページ）**
「｜」（カーソル）の前の文字、または反転された文字を削除します。

6 **全選択**
文字入力欄のすべての文字を選びます。

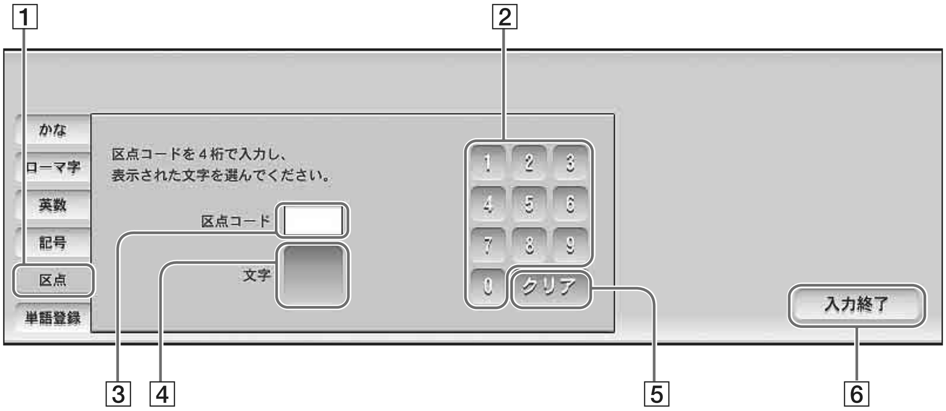
7 **改行**
改行します。

8 **スペース**
全角スペースを入力します。

9 **←/↑/→/↓**
入力位置を移動します。

10 **入力終了**
キーボードを消し、元の画面に戻ります。

区点キーボード



1 **区点**
区点キーボードを表示します。

2 **数字ボタン**
区点コード番号を選びます。

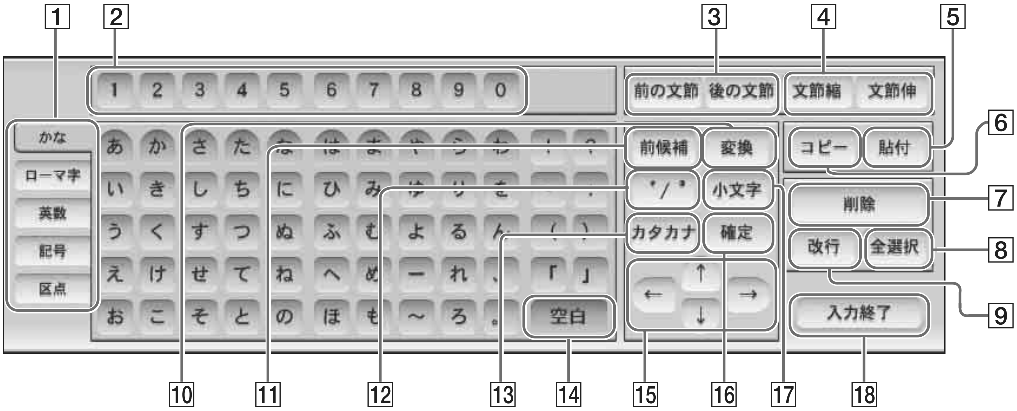
3 **区点コード**
入力した区点コードが表示されます。

4 **文字**
入力した区点コードに対応した文字が表示されます。

5 **クリア**
区点コードが消去（クリア）されます。

6 **入力終了**
キーボードを消し、元の画面に戻ります。

連文節キーボード(かなキーボードの例)



1 **キーボード選択**
キーボードを選びます。

2 **数字ボタン**
全角の数字を入力します。

3 **前の文節 / 後の文節**(☞ 100 ページ)
前の文節 / 次の文節に移動します。

4 **文節縮 / 文節伸**(☞ 100 ページ)
文節を短く / 長くします。

5 **貼付**(☞ 101 ページ)
コピーした文字を貼り付けます。

6 **コピー**(☞ 101 ページ)
反転された文字をコピーします。

7 **削除**(☞ 98 ページ)
「|」(カーソル)の前の文字、または反転された文字を削除します。

8 **全選択**
文字入力欄のすべての文字を選びます。

9 **改行**
改行します。

10 **変換**
入力した文字を漢字に変換します。

11 **前候補**
前の変換候補を表示します。

12 **"/°**
入力した文字に濁点・半濁点を付けます。

13 **カタカナ**
入力した文字をカタカナに変換します。

14 **空白**
全角スペースを挿入します。

15 **← / ↑ / → / ↓**
入力位置を移動します。

16 **確定**
漢字に変換せずにひらがなのまま入力したり、変換した文字を確定するときに使います。

17 **小文字**
入力した文字を「ゃ」、「ゅ」、「ょ」などの小文字に変換します。

18 **入力終了**
キーボードを消し、元の画面に戻ります。

ソフトウェアキーボードを使って文字を入力する

予測入力機能を使って文字を入力してみましょう。

かな / ローマ字入力の切り換え

日本語の入力方法には、かな入力とローマ字入力があります。使いやすいほうで入力してください。

かな入力とローマ字入力を切り換えるには

キーボードの［かな］または［ローマ字］を選ぶと、かなキーボード / ローマ字キーボードに切り換わります。



入力してみよう

予測入力機能を使って文字を入力してみましょう。
ここでは例として、「メールの作成」画面で「プレゼントをありがとう」とかな入力する手順を説明しますが、予測入力機能の使いかたなどはローマ字入力のときも同様です。

ちょっと一言

ローマ字入力は、子音＋母音（[A]［I］［U］［E］［O]）を組み合わせて文字を入力します。

1 メール作成画面を表示し（☞ 66 ページ）、文字入力欄を選ぶ。

キーボードが表示されます。

2 [かな]を選ぶ。

かなキーボードが表示されます。

3 キーボード上部の予測候補一覧に「プレゼント」が表示されるまで、順に「ふ」、「れ」、「せ」、「ん」、「と」を選ぶ。

選んだ文字が入力欄に青字で表示され、
キーボード上部に予測候補が表示されます。

1 文字追加するごとに予測候補一覧に表示される単語が絞られます。キーボードのキーを選んでいく途中でも、予測候補一覧に目的の語が表示されたら、その語を選んで入力できます。

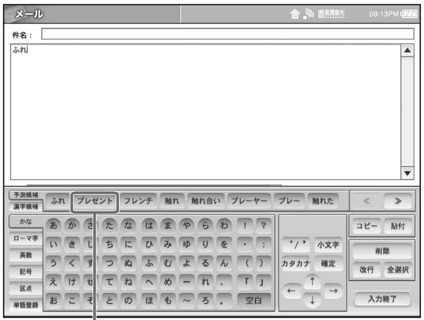
予測候補の絞り込み例

- 「ふ」を入力したときの予測候補例：
  「ふ」「富士山」「分」「振込」
- 「ふれ」を入力したときの予測候補例：
  「ふれ」「プレーヤー」「フレンチ」
- 「ふれせ」を入力したときの予測候補例：
  「ふれせ」「プレゼント」

ちょっと一言

［ふ］を選ぶと、予測候補には「ふ」のほか、「ぷ」、「ぶ」、「フ」、「プ」、「ブ」が表示されます。したがって、「ふ」を「プ」に変えなくても、「ふれせんと」と選んでいくと「プレゼント」という予測候補が表示されます。
もし予測候補に表示されなかった場合は、一度、濁点や小文字を正しく最後まで入力した後、予測候補から選んでください。一度選んだ単語は、次回から濁点、小文字を気にせずに入力しても予測候補に表示されます。

4 予測候補一覧から「プレゼント」を選ぶ。



プレゼント

黒字で「プレゼント」が入力されます。

5 予測候補一覧の中に、目的の「を」があれば選ぶ。

なければ、キーボードの［を］と［確定］を選びます。
黒字で「を」が入力されます。

ちょっと一言

助詞などは、キーボードから選ばなくても予測候補一覧に表示されます。
例：「の」「は」「に」「を」「が」

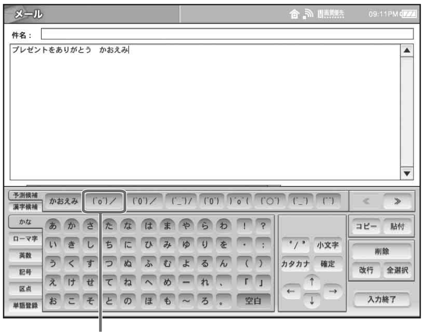
6 同様にして、予測候補の一覧に「ありがとう」が表示されたら選ぶ。

7 入力が終わったら、［入力終了］を選ぶ。

キーボードが消え、元の画面に戻ります。

顔文字を入力するには

メールなどでよく使われる顔文字も予測候補一覧から選べます。
たとえば、「かおえみ」とひらがなで入力すると、予測候補一覧に顔文字が表示されます。



顔文字

顔文字は「かおえみ」の他に次のようなものがあります。

顔文字辞書

- 「かおえみ」を入力したときの予測候補：「(^o^) ／」、「(^_^)」、「(^。^)」…
- 「かおこまり」を入力したときの予測候補：「(> __ <)」、「(・・:)」、「(^_^;)」…
- 「かおむひょうじょう」を入力したときの予測候補：「(-.-)」、「(°_°)」、「(・_・)」…
- 「かおおどろき」を入力したときの予測候補：「(・o・)」、「(° 0 °)」、「(@__@)」
- 「かおあいさつ」を入力したときの予測候補：「(＾．＾) ／ ~~~」、「m（_ _）m」、「<（_ _）>」…

ちょっと一言

顔文字は、ローマ字キーボードや英数キーボード（大文字 / 小文字）を使って、[(]、[^]、[>] などを選んでも入力できます。

文字入力

英数字 / 記号の入力

英数字の入力

英数字は、英数キーボードに切り換えて入力します。

大文字の入力について

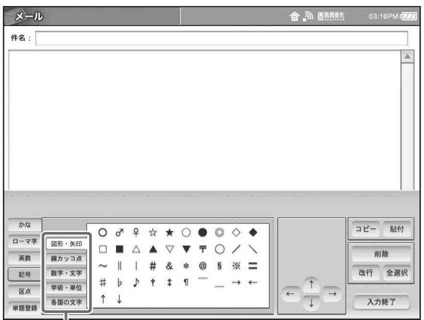
大文字の入力のしかたには 2 通りあります。

- **［シフト］を選んだ場合：**
  初めに「大文字キーボード」が表示され、1 文字選んだ後は「小文字キーボード」に戻ります。単語の冒頭の大文字を入力するときに便利です。
- **［大文字］を選んだ場合：**
  「大文字キーボード」が表示されます。大文字を 2 つ以上入力するときに使います。もう一度［大文字］を選ぶと「小文字キーボード」になります。

記号の入力

記号は、記号キーボードに切り換えて入力します。
記号は、すべて全角になります。
「記号キーボード」は 5 種類あります。

「図形・矢印」　（○、★、〒、△など）
「線・カッコ点」（[、]、；、”など）
「数字・文字」　（３、々など）
「学術・単位」　（%、℃、±、√など）
「各国の文字」　（Б、α、Ω、Ж など）

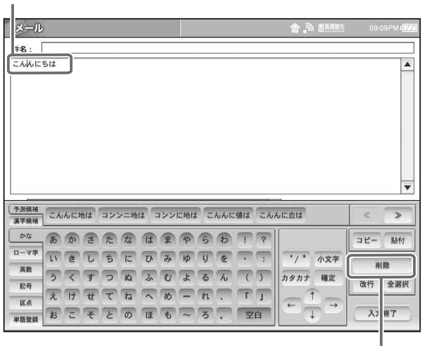


記号キーボードの種類

文字の削除、編集

←/→/↑/↓を使うか、直接画面に触れて、削除したい文字の右側に「｜」（カーソル）を置き、［削除］を選ぶ。

削除したい文字の右側を選びます



削除

文字が削除されます。

ちょっと一言
続けて文字を消したいときは［削除］を押し続けます。

一度に複数の文字を削除したいときは

削除したい文字をすべてタッチペンでなぞって反転させてから［削除］を選びます。
黒字で表示されているときのみ一度に複数の文字を削除できます。

一度にすべての文字を削除したいときは

［全選択］を選んで文字入力欄のすべての文字を反転させてから［削除］を選びます。

文字を削除すると同時に文字を入力するには

削除したい文字をすべて反転させてから、次に入力したい文字を入力します。

例：「今週末 **キャンプ** に行きます」を

「今週末 **山登り** に行きます」に変更する

→「キャンプ」を反転させてから「山登り」を入力する。
「キャンプ」が削除されると同時に「山登り」が入力されます。

入力した文字を漢字に変換するには

変換したい文字を入力したら［漢字候補］を選び、表示される漢字候補一覧から選びます。
選んだ漢字が黒字で入力されます。

入力した文字をカタカナに変換するには

変換したい文字を入力したら［カタカナ］を選び、［確定］を選びます。
入力した文字がカタカナに変換され、黒字で確定されます。

ひらがなに戻したいときは

カタカナへの変換を確定する前（青字で表示されているとき）に、［カタカナ］を選びます。もう一度［カタカナ］を選ぶとひらがなに戻ります。
一度カタカナに確定された文字（画面上で黒く表示される文字）は、もう一度［カタカナ］を選んでもひらがなに戻せません。

予測入力を使わずに文字を入力する

予測入力機能を使わないときは、連文節変換機能を使います。
連文節変換機能を使うには、文字入力の方法を「連文節変換」に切り換えます。

1 「設定一覧」画面を表示し、［その他］を選ぶ。

「その他」の設定画面が表示されます。

2 ［文字入力］を選ぶ。

「文字入力」画面が表示されます。

3 ［キーボード］を選ぶ。

「キーボード」画面が表示されます。

4 ［連文節変換］を選び、［OK］を選ぶ。

「文字入力」画面に戻ります。

5 ［戻る］を選ぶ。

「その他」の設定画面に戻ります。

6 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

これで、キーボードを選ぶと、連文節キーボードが表示されるようになりました。
入力のしかたは、次のページをご覧ください。

ひらがなのままにするには

ひらがなで入力して、［確定］を選びます。

漢字に変換するには

正しい漢字が表示されるまで［変換］をくり返し選んでから［確定］を選びます。
1つ前の変換候補を表示したいときは［前候補］を選びます。

ちょっと一言
このとき、［確定］を選ぶ前に［空白］を選ぶと、［変換］と同様に漢字に変換されます。

カタカナに変換するには

［カタカナ］を選んでから［確定］を選びます。
詳しくは、「入力した文字をカタカナに変換するには」（☞ 99ページ）をご覧ください。

小文字に変換するには

［小文字］を選んでから［確定］を選びます。

文節を変更するには

長い文章を一度に変換したとき、希望通りの文節で区切られない場合があります。このような場合、文節の区切りを変更できます。
例として「今朝は医者にいきました。」と変換された文章を「今朝歯医者に行きました。」に変更してみます。

1. ひらがなで「けさはいしゃにいきました。」と入力する。
2. ［変換］を選ぶ。
   「**今朝は** 医者にいきました。」が表示されます。
3. ［文節縮］を1回選ぶ。
   「**けさ** はいしゃにいきました。」が表示されます。
4. ［変換］を選ぶ。
   「**今朝** 歯医者にいきました。」が表示されます。
5. ［後文節］を2回選ぶ。
   「今朝歯医者に **いきました。**」が表示されます。
6. ［変換］を選ぶ。
   「今朝歯医者に **行きました。**」が表示されます。

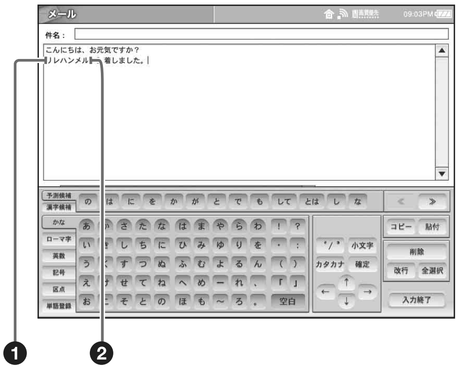
－［前文節］＝1つ前の文節に移動します。
－［後文節］＝1つ後の文節に移動します。
－［文節縮］＝文節を短くします。
－［文節伸］＝文節を長くします。

選んだ文章を他の場所にも使う[コピー/貼付]

文章をコピー（複写）して他の場所に貼り付けられます。似た文章や同じ文章をくり返し入力する必要がなく便利です。
単語だけでなく、文章ごとコピーして貼り付けられます。

1 コピーしたい単語または文章を、すべてタッチペンでなぞって反転する。

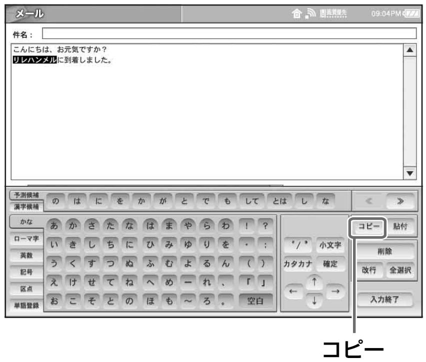
❶ から ❷ までをなぞります。



ちょっと一言

文字入力欄のすべての文字をコピーしたいときは［全選択］を選びます。すべての文字が反転します。

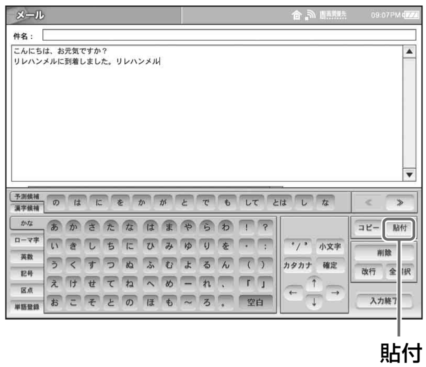
2 [コピー]を選ぶ。



3 貼り付けたい位置に「｜」(カーソル)を置く。

4 [貼付]を選ぶ。

単語または文章が貼り付けられます。



ご注意

コピーした文字列が貼り付け先の入力欄より長い場合、表示しきれず、文字列の最後しか表示されないときがあります。キーボードの［←］を押すと、貼り付けられた文字を確認できます。

ちょっと一言

- コピーした内容は、次にコピーするか、電源を切るまで「貼付」が有効です。
- インターネットのホームページでコピーした文章も同様に「貼付」できます。（☞ 60 ページ）

よく使う単語を登録する[ユーザー辞書]

あらかじめよく使う単語を予測入力機能の辞書に登録しておけば、早く予測候補に表示されるので便利です。

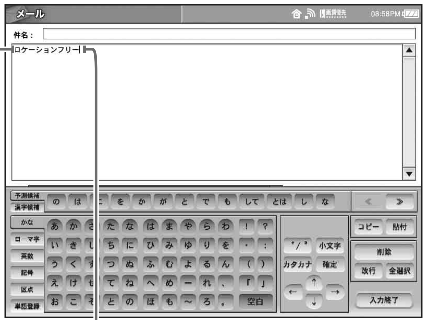
ご注意

- キーボードが「連文節変換」（☞ 99 ページ）に設定されているときは、キーボードからの単語登録はできません。
- ユーザー辞書は予測入力時のみ有効になるため、キーボードが「連文節変換」に設定されている場合、登録した単語は反映されません。

1 予測入力キーボードを表示する。

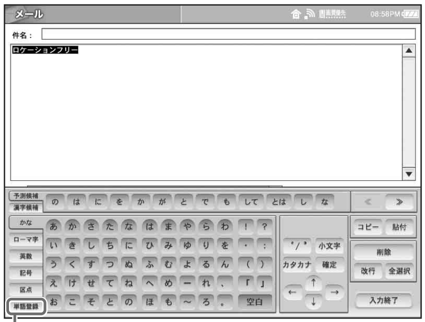
2 登録したい単語をすべてタッチペンでなぞって反転する。

❶ から ❷ までをなぞります。



3 [単語登録] を選ぶ。

キーボード上部に単語が表示されます。



4 登録する単語の読みを入力する。

キーボードを使って「よみ」の横の入力欄にひらがなで入力します。



「よみ」が入力されます。

5 ［登録する］を選ぶ。



登録する

単語が登録されます。

ご注意

- ［登録する］を選ぶ前にキーボード（かな、ローマ字、英数、記号）を切り換えると単語登録は中止されます。
- 登録したい単語を反転させてから［単語登録］を選ばないと登録できません。

設定画面で単語を登録するには

1 画面右下の［設定一覧］を選ぶ。
「設定一覧」画面が表示されます。

2 ［その他］を選ぶ。
「その他」の設定画面が表示されます。

3 ［文字入力］を選ぶ。
「文字入力」画面が表示されます。

4 ［単語登録］を選ぶ。
「単語登録」画面が表示されます。

5 ［新規］を選ぶ。
「単語登録編集」画面が表示されます。

6 ［よみ］欄に登録する単語の読みを、［単語］欄に登録する単語を入力し、［OK］を選ぶ。
「単語登録」画面に戻ります。

7 ［戻る］を選ぶ。
「文字入力」画面に戻ります。

8 ［戻る］を選ぶ。
「その他」の設定画面に戻ります。

9 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

登録した単語やその読みを変更するには

1 上記の「設定画面で単語を登録するには」の手順 1 ～ 4 を行う。

2 変更したい単語のリスト部分を選ぶか、チェックしてから［編集］を選ぶ。
「単語登録編集」画面が表示されます。

3 単語やその読みを変更し、［OK］を選ぶ。

登録した単語を消去するには

1 「設定画面で単語を登録するには」の手順 1 ～ 4 を行う。

2 消去したい単語をチェックし、［消去］を選ぶ。

市販のキーボードを使う

本機右側面にあるUSB端子に別売りのパソコンのキーボードをつないで使うことができます。別売りのキーボードをつないだときは、画面上のキーボードは表示されません。一部のキーボードでは機能が使えない場合があります。

1 キーボードをつなぐ。

モニター右側面にある［USB］端子に市販のキーボードをつなぎます。

USB端子の場所は、「各部の名前とはたらき」の「モニター右側」（☞ 22ページ）をご覧ください。

ご注意

- 別売りのキーボードを使う場合、本機の予測入力機能は使えません。
- PS/2端子を使って接続するキーボードは使えません。
- USBハブ付きのキーボードは使えません。

2 画面の文字入力欄をタッチペンで選んでから、別売りのキーボードを使って入力する。

入力欄を移動するときは、移動先の文字入力欄をタッチペンで選んでください。

ちょっと一言

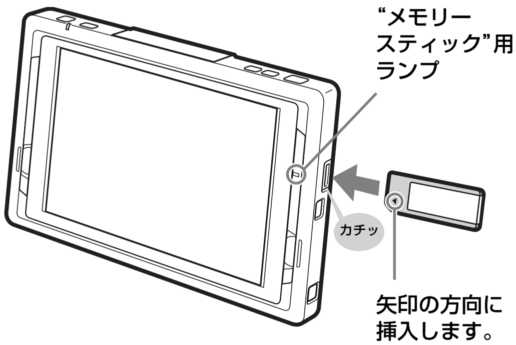
入力のしかたについて詳しくは、つないだキーボードの取扱説明書をご覧ください。

市販のキーボードのキー	キーの働き
Shift ＋無変換	全角英数と半角英数を切り換える。
英数	全角英数とかなを切り換える。
F1	かなを入力する。
F2	ローマ字を入力する。
F3	半角の英数字を入力する。
F4	全角の英数字を入力する。
F6	入力した確定前の文字をひらがなにする。
F7	入力した確定前の文字をカタカナにする。
Esc	入力終了
半角/全角	英数入力モードで全角と半角を切り換える。
Alt ＋ カタカナ ひらがな	かな入力とローマ字入力を切り換える。
Ctrl ＋ 半角/全角	英数入力とかな入力またはローマ字入力を切り換える。
Alt ＋ 半角/全角	英数入力とかな入力またはローマ字入力を切り換える。
Tab	入力欄を移動する
Ctrl + A	全選択
Ctrl + X	カット
Ctrl + C	コピー
Ctrl + V	ペースト
Shift ＋ ←/↑/→/↓	反転

“メモリースティック”を使う

“メモリースティック”を入れるには

モニター右側面にあるメモリースティックスロットに、カチッと音がするまで一気に挿入する。

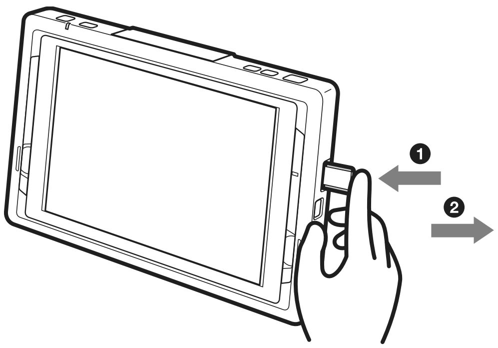


ちょっと一言

本機と“メモリースティック”の間で情報のやりとりがあるときは、“メモリースティック”用ランプがオレンジ色に点灯します。

“メモリースティック”を取り出すには

“メモリースティック”を軽くモニター側に押してから（❶）、指を添えたまま取り出す（❷）。



ご注意

- 次のような場合、“メモリースティック”を抜き挿ししたり、本機の電源を切るようなことは、絶対にしないでください。
  – “メモリースティック”用ランプがオレンジ色に点灯しているとき
  – メールなどのデータを“メモリースティック”に移動しているとき
  – 画像などのデータを“メモリースティック”にコピーしているとき
  – “メモリースティック”内のデータを消去しているとき
  – “メモリースティック”を初期化しているとき
  – “メモリースティック”内のメールなどのデータを印刷しているとき
- 次の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中（“メモリースティック”用ランプ点灯中）に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切ったり、AC アダプターを抜いたり、バッテリーがなくなって本機の電源が切れたりした場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

本機で使える記録メディア

本機では、次の記録メディアを使用できます。

“メモリースティック”の種類	本機での 記録／再生
メモリースティック メモリースティック （メモリーセレクト機能付） メモリースティック　デュオ	○
メモリースティック （マジックゲート／高速データ転送対応） メモリースティック　デュオ （マジックゲート／高速データ転送対応）	○*
マジックゲート　メモリースティック マジックゲート　メモリースティック　デュオ	○*
メモリースティック　PRO メモリースティック　PRO デュオ	○*
メモリースティック　PRO （高速データ転送対応） メモリースティック　PRO デュオ （高速データ転送対応）	○*

* マジックゲート機能が必要なデータの記録や再生はできません。

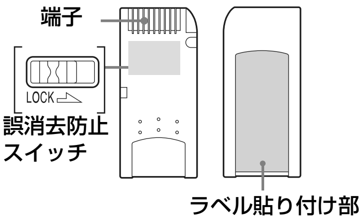
ご注意

- すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。
- 本機では、4GB までの”メモリースティック”で動作確認を行っています。これを超える容量の”メモリースティック PRO”での動作は保証しておりません。

“メモリースティック”についてのご注意

“メモリースティック”使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができません。



誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

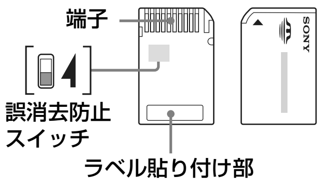
- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

データについて

- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると、画像やメールなどのデータの記録や編集、消去ができなくなります。本体のデータを“メモリースティック”へ移動やコピーをしたり、“メモリースティック”内のデータを消去する場合は、「LOCK」をはずしてください。
- 大切なデータは、パソコンなどを使って他の“メモリースティック”やハードディスクにコピーし、保存（バックアップ）しておくことをおすすめします。
- “メモリースティック”に保存したパソコンのメールソフトのデータは、本機のメールでは見られません。
- “メモリースティック”内の「MAIL_XU」フォルダ（MSSONY フォルダ中のAIRBOARD フォルダの中にあります。）にパソコンなどを使ってコピーされたデータは、“メモリースティック”を本機に挿入したとき、消去されます。
- パソコンなどを使って“メモリースティック”にある画像のファイル名を変更したり、整理箱名などの管理ファイルを変更した場合は、本機で正常に表示できなくなりますので、ご注意ください。

“メモリースティック　デュオ”使用上のご注意

- “メモリースティック　デュオ”の誤消去防止スイッチを動かすときは、先の細いもので動かしてください。
- “メモリースティック　デュオ”のメモエリアに書きこむときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック　デュオ”を本機でお使いになるときは、必ず“メモリースティック　デュオ”を専用のアダプターに取り付けてお使いください。



メモリーセレクト機能に関するご注意

- 各メモリーを同時に、また連続でご使用することはできません。
- 本機の“メモリースティック”スロットに挿入した状態で、メモリーセレクトスイッチを切り換えると、故障の原因になりますので、

決して行わないでください。万一上記の操作を行い故障した場合の保証は致しかねます。

- メモリーセレクトスイッチを切り換える際は、確実にスイッチを端まで移動させてください。切り換えが不十分な場合、故障、誤動作の原因となります。
- 本機の“メモリースティック”スロットに挿入する前に、ご使用になるメモリーが選択されていることをご確認ください。
- メモリーセレクト機能付“メモリースティック”では、“メモリースティック”内部のメモリーを切り換えスイッチにより選択してご使用いただけます。対応機器では、選択されているメモリーのみを認識しますので、下記のような場合にご注意ください。
  - フォーマット（初期化）処理は選択されたメモリーのみに行われます。
  - 残容量表示は選択されたメモリーのみの残容量です。
  - エラー表示は選択されたメモリーに対してのエラー表示です。
    それぞれ選択されていないメモリーとは独立で扱われます。

“メモリースティック”を初期化する

本機を使って“メモリースティック”を初期化するときは、次の操作にしたがってください。

ご注意

- 本機で初期化すると、記録されているデータはすべて消去されます。本機以外で記録したデータも消去されます。
- “メモリースティック”は必要なとき以外は初期化しないでください。

1 「設定一覧」画面を表示し、[その他]を選ぶ。

「その他」の設定画面が表示されます。

2 [初期化]を選ぶ。

「初期化」画面が表示されます。

3 [メモリースティック初期化]を選ぶ。



メモリースティック初期化

ご注意

初期化中は“メモリースティック”を絶対に抜かないでください。

「メモリースティック初期化」画面が表示されます。

4 [初期化する]を選び、[OK]を選ぶ。



ご注意

画面に表示される注意書きは必ず、よくお読みください。

初期化確認のメッセージが表示されます。

5 [OK]を選ぶ。

6 「メモリースティックの初期化が完了しました。」と表示されたら[OK]を選ぶ。

ご注意

- “メモリースティック”をパソコンなどで初期化すると、本機で使えなくなる場合があります。その場合は、“メモリースティック”に記録されているデータをパソコンなどでバックアップをとったうえで本機で初期化し直してください。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にしているときは、初期化できません。

モニターの接続タイプを切り換える

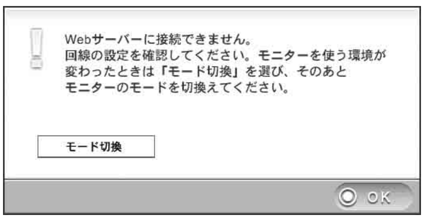
ここでは、モニターの接続タイプの切り換えかたについて説明します。
外出先にモニターを持ち出して使うときや、外出先から戻って自宅で使うときなど、接続タイプを変更するときも、以下の手順で切り換える必要があります。

家モードと外モードを切り換える

自宅でテレビやインターネットをワイヤレスで見るときは、［家モード］に切り換えます。また、ベースステーションの設定を変更するときも、［家モード］に切り換えてから行います。
街の公衆無線 LAN など、外出先でワイヤレスで使うときや、有線 LAN で使うときは、［外モード］に切り換えます。
詳しくは、「公衆無線 LAN で使う・ワイヤレスルーターに接続する」（☞ 115 ページ）、「赴任先などで有線 LAN に接続する」（☞ 123 ページ）をご覧ください。また、［NetAV 設定］については、「赴任先などでテレビを見る」（☞ 110 ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

お買い上げ時は、モニターの接続タイプが［家モード］になっています。
モニターの接続タイプの設定が違っていると、ネットワークに接続しようとしたとき次のエラーメッセージが表示され、ネットワーク接続ができません。この場合は、［モード切換］を選び、モニターの接続タイプを［家モード］または［外モード］に切り換えてください。



1 **「設定一覧」画面を表示し、［モニター設定］を選ぶ。**

「モニター設定」画面が表示されます。

2 **［家モード］または［外モード］を選ぶ。**

ここを選びます



接続タイプが変更されます。

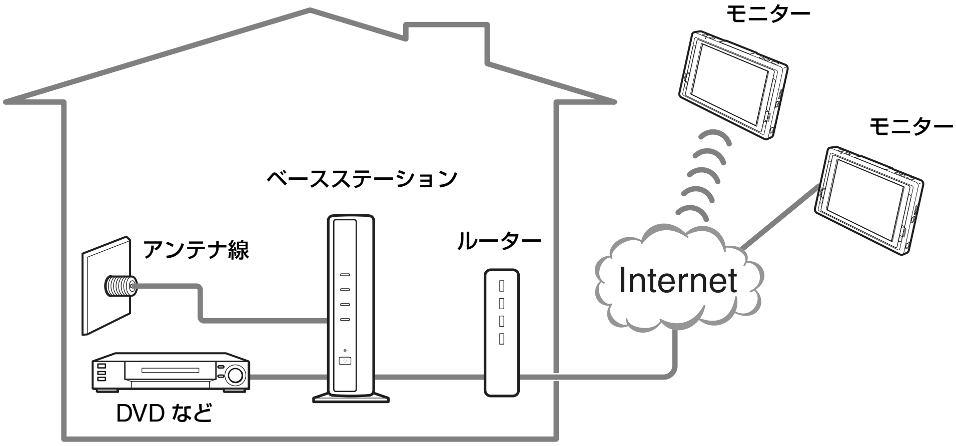
ちょっと一言

［ワイヤレス］と［有線 LAN］は、自動で切り換わります。（通常は［ワイヤレス］ですが、LAN ケーブルで通信がはじまると［有線 LAN］になります。）

3 **［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。**

赴任先などでテレビを見る

外出先（赴任先の LAN 回線など）からインターネットを経由して自宅のベースステーションに接続し、テレビや外部入力機器の映像を楽しむことができます。



セットアップの流れ

ここでは、赴任先などでテレビを見るために必要なセットアップの流れを説明します。

家での準備（初めて使うときのみ）

インターネットに接続する
↓
初期設定（ベースステーション設定）を行う

↓

赴任先での準備と操作

↓

テレビを見る

ちょっと一言

ベースステーション LF-PK20 のお使いの場合は、「初期設定（ベースステーション設定）を行う」は必要ありません。詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。
下記のホームページでも、最新の情報をご案内しています。
http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/

家での準備（初めて使うときのみ）インターネットに接続する

赴任先などでテレビを見るためには、まず、ベースステーションをインターネットに接続することが必要です。
「ベースステーションをインターネットにつなぐ」（☞ 32 ページ）にしたがって、インターネットに接続してください。

ちょっと一言

ネットワークに必要な環境について詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

家での準備（初めて使うときのみ）初期設定（ベースステーション設定）を行う（LF-PK1 のみ）

初期設定（ベースステーション設定）を行うには、ルーターが UPnP 対応であることが必要です。

ちょっと一言

- UPnP 対応ルーターであるかどうかは、ご使用になるルーターの説明書をご覧ください。
- UPnP 対応ルーターの中には、限定されたサービスやゲームにのみ対応しているものもあります。このようなルーターの場合には、ポートフォワーディング設定が必要になります。詳しくはルーターの説明書をご覧ください。

モニターの準備

本機で、「テレビ / ビデオを見るための接続と設定」、および「インターネットを利用するための接続」が終了していることを確認してください。
また、モニターの接続タイプは［家モード］にしてください。（☞ 109 ページ）

初期設定（ベースステーション設定）をする

ご注意

ベースステーション LF-PK20 をお使いの場合は、この設定は必要ありません。

1 画面右下の［設定一覧］を選ぶ。

「設定一覧」画面が表示されます。

2 ［初期設定］を選ぶ。

3 「ベースステーション設定」の[開始]を選ぶ。



ベースステーション設定画面が表示されます。

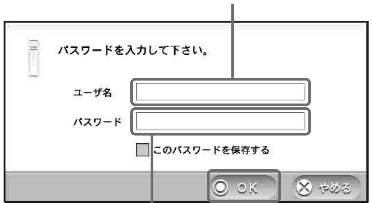
ちょっと一言

「設定一覧」画面で［ベースステーション設定］を選んでも、ベースステーション設定画面が表示されます。

4 [Enter]を選ぶ。



5 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]を選ぶ。



ユーザー名：lfx（エル・エフ・エックス）
パスワード：ベースステーション側面のシールに記載されている「WebPassword」

6 設定メニュー画面の[かんたん設定]を選ぶ。



以降は、画面にしたがって［次へ］を選び、NetAV テストまで行ってください。
「NetAV 設定」画面では、ベースステーションに付属の「ダイナミック DNS 利用に関するお知らせ」を読み、［同意する］を選んでください。

7 NetAV テスト画面で「成功しました」と表示されたら[設定終了]を選ぶ。

これで設定は終了です。

ちょっと一言

NetAV テスト画面で「成功しました」と表示されなかった場合は、NetAV テスト画面の説明をご覧になり、必要な設定を行ってください。

赴任先での準備と操作

ご注意

自宅にあるベースステーションの電源が入っていないと、ベースステーションに接続できません。必ずベースステーションやルーターなどの電源を入れておいてください。

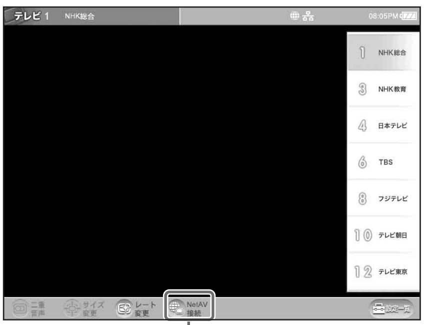
1 **外モードでモニターをインターネットに接続する。**

ワイヤレスで接続する場合は、「公衆無線LANで使う・ワイヤレスルーターに接続する」（☞ 115ページ）をご覧ください。
有線LANで接続する場合は、「赴任先などで有線LANに接続する」（☞ 123ページ）をご覧ください。

2 **ホームページを表示して、モニターのインターネット接続設定が正しく行われているか確認する。**

① モニター上部にある［INDEX］ボタンを押し、インデックス画面から［インターネット］を選ぶ。
② ホームで設定されているホームページなどが正しく表示できることを確認する。

3 **［INDEX］ボタンを押し、テレビまたはビデオ入力を選び、［NetAV接続］を選ぶ。**



NetAV 接続

モニターが自宅のベースステーションに接続できると、画面右上にNETAVが表示されます。NETAVが表示されてしばらくすると、映像が表示されます。
テレビやビデオの操作については、「テレビ/ビデオを見る」（☞ 44ページ）をご覧ください。

接続に失敗した場合は、「故障かな？と思ったら」（☞ 156ページ）をご覧ください。

NetAV機能でテレビ/ビデオを見る

家の中でテレビやビデオを見るときと同じように、チャンネルの切り換えや音量の調節ができます。詳しくは、「テレビ/ビデオを見る」（☞ 44ページ）をご覧ください。
また、付属のAVマウスを接続すると、ビデオチャンネルで画面上のリモコンから家の外部入力機器を操作できます。

ちょっと一言

- 著作権保護されているコンテンツによっては、視聴できないことがあります。
- NetAV利用中は、チャンネルを変えてから番組が映るまで、しばらくかかることがあります。

テレビの画面サイズを変えるには

［サイズ変更］を選ぶと、テレビ画面のサイズを変更できます。選ぶたびに、画面サイズが3段階に切り換わります。お買い上げ時の設定では、画面いっぱいに映像が表示されます。



サイズ変更

💡 ちょっと一言

回線の速度によっては、画面いっぱいに映像を表示すると画像が粗くなります。画面サイズを小さくすると画像が見やすくなります。

レートを切り替えるには

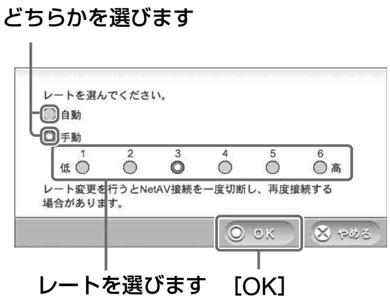
NetAV 機能を利用中に、ネットワーク状態に応じて、レートを設定できます。
普通は［自動］に設定します。［手動］で選択する場合、レートの段階が高いほど高画質となりますが、ネットワーク状態によっては映像がとぎれたりすることがあります。

1 ［レート変更］を選ぶ。

レートを設定する画面が表示されます。

2 ［自動］または［手動］を選ぶ。

［自動］では、ネットワーク状態に応じて自動的に適正なレートが選ばれます。
［手動］を選んだときは、6 段階の中からレートを選んでください。



3 ［OK］を選ぶ。

NetAV 機能を終了するには

画面下の［NetAV 切断］を選びます。

モニターを海外で使う際のご注意

■ モニター部を海外へ持ち運ぶ前に

無線に関する規制は国や地域によって異なります。海外へ持ち運ぶ場合は、お出かけ前に、必ずワイヤレス OFF に設定してください。
（☞ 138 ページ）

■ 電源について

付属の AC アダプターは、どの国や地域の電源（AC100 V ～ 240 V・50/60 Hz）でもお使いになれます。
また、バッテリーの充電もできます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国や地域では、電源コンセントに合った変換プラグアダプターが必要です。
変換プラグアダプターについては、あらかじめ旅行代理店などでご確認のうえ、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

■ インターネット接続環境について

300 Kbps 以上のネットワークの環境下でご利用ください。
ソニー株式会社は、本製品を海外で使用する際のプロバイダとの接続環境については保証しません。日本以外でのインターネットへの接続に関しては、お客様ご自身でプロバイダまでご確認ください。
なお、本機を有線 LAN で使用する場合、LAN 回線（PPPoE）への直接の接続には対応しておりません。ルーターをご利用のうえ、DHCP で設定してください。

※本機は日本国内向けの仕様になっております。
本機を海外でご使用いただいた際の故障・不具合などは、製品保証の範囲に含まれませんのであらかじめご了承ください。

※渡航の際には貨物申告を必要とする場合があります。
詳しくは税関のホームページ、大使館・領事館などでご確認ください。

公衆無線 LAN で使う・ワイヤレスルーターに接続する

モニターを家のワイヤレスルーターに接続する場合や、赴任先などからワイヤレスで接続する場合は、外モードでモニターを使用します。

ご注意

- 本機では、主要な公衆無線 LAN サービスとの接続性を確認していますが、すべての公衆無線 LAN サービスとの接続性を保証するものではありません。
- 本機は、2.4 GHz 帯の 1 ～ 11 ch、5 GHz 帯の 36、40、44、48、52、56、60、64 ch の周波数に対応しています。これ以外の周波数で動作する公衆無線 LAN サービスとは接続できません。

ちょっと一言

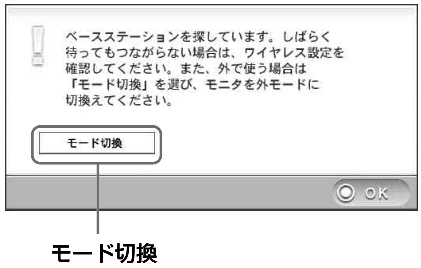
事業者によっては、サービス加入時に本機の MAC アドレスが必要になる場合があります。本機のモニターのワイヤレス LAN で使用される MAC アドレスは、「ワイヤレスの回線設定－ DHCP/ アドレス手動設定」画面（☞121 ページの手順 3）で確認できます。

アクセスポイントを探して接続する

1 モニターの電源を入れる。

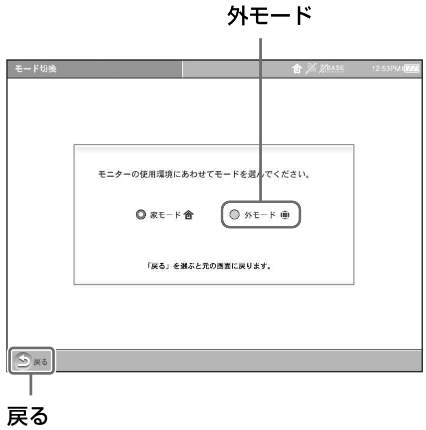
モニターの接続タイプが家モードのままでワイヤレスルーターなどのアクセスポイントに接続しようとすると、接続タイプを変更するメッセージが表示されます。

2 [モード切換] を選ぶ。



「モード切換」画面が表示されます。

3 [外モード] を選び、[戻る] を選ぶ。



4 ネットワークへの接続に必要な操作を行う。

テレビやビデオを見るときは、インデックス画面を表示し、見たいチャンネルやビデオ入力を選びます。
インターネットに接続するときは、インデックス画面を表示し、[インターネット] を選びます。

5 メッセージが表示されたら [OK] を選ぶ。

「公衆無線 LAN アクセスポイント一覧」画面が表示されます。

6 接続したいアクセスポイントを選び、[接続]を選ぶ。



ちょっと一言

- アイコン付きのネットワークを選んだ場合は、「公衆無線 LAN 接続情報設定」画面の「セキュリティ設定」に WEP の暗号鍵または WPA-PSK with TKIP の事前共有鍵を入力する必要があります。詳しくは「あらかじめアクセスポイントを設定する」（☞ 117 ページ）をご覧ください。
- 「設定一覧」画面の「公衆無線 LAN」からアクセスポイントを選んで接続することもできます。詳しくは「設定済みのアクセスポイントに接続する」（☞ 119 ページ）をご覧ください。

ワイヤレス LAN ネットワーク一覧に表示されるアイコン

Auto	モニターが起動したとき、または起動後に外モード（ワイヤレス）を選んだときに自動的に接続されるワイヤレスネットワーク
	現在接続可能なワイヤレスネットワーク
	通信を暗号化しないネットワークで、本機で未設定のもの
	暗号鍵（WEP）または事前共有鍵（WPA-PSK with TKIP）によるセキュリティが有効なネットワークで、本機で未設定のもの
	通信を暗号化しないネットワークで、本機で設定済みのもの
	暗号鍵（WEP）または事前共有鍵（WPA-PSK with TKIP）によるセキュリティが有効なネットワークで、本機で設定済みのもの
	信号が検出できないネットワークで、本機で設定済みのもの

ちょっと一言

ステルス設定されたアクセスポイントは信号が検出されません。
ステルスとはアクセスポイントの SSID を隠す機能です。

7 「次回からこのワイヤレスアクセスポイントに自動的に接続しますか？」と表示されたら、[OK]または[やめる]を選ぶ。

モニターが起動するたびに、手順 6 で選んだワイヤレスネットワーク（SSID）に自動的に接続したいときは［OK］を選びます。

ちょっと一言

選択できるワイヤレスネットワーク（SSID）は 1 つだけです。したがって、自動接続ネットワークがすでに設定されているときはこのメッセージは表示されません。

8 ネットワークに接続されたことを確認する。

画面上部にネットワーク接続が確立したアイコンが表示されるのを待ちます。

	ネットワークに接続不可
	ネットワーク接続が確立 DHCP サーバーから IP アドレスを取得中は が点滅します。 は信号レベルにより 3 段階の表示をします。

ご注意

しばらく待っても アイコンが表示されない、または アイコンの点滅が止まらない場合

は、手順４～８を繰り返してください。暗号鍵などセキュリティが有効なアクセスポイントの場合は、「セキュリティ設定」の内容を確認してください。また、事業者の指示にしたがってアクセスポイントの設定を確認してください。

9 **インデックス画面を表示し、[インターネット]を選ぶ。**

任意のホームページが表示できれば設定は完了です。事業者によっては、利用する公衆無線 LAN サービスの認証画面が自動的に表示されます。画面の指示にしたがって、ID とパスワードを入力してください。詳しくは、利用する事業者のホームページなどで確認してください。

ちょっと一言

手順８で アイコンが表示される前にインターネット画面を表示すると、「Web サーバーに接続できません。」というエラーメッセージが表示されます。その場合は、 アイコンの点滅が止まってから、「ホーム」や「マーク」などからページを選んでください。

ご注意

事業者によっては公衆無線 LAN サービスの認証後、ログアウトするまでの時間で課金する場合があります。詳しくは、利用する事業者のホームページなどで確認してください。

アクセスポイントに手動で接続する

WEP や WPA-PSK with TKIP などの暗号化されたワイヤレスネットワークの場合は、接続の前に次の設定を行ってください。

あらかじめアクセスポイントを設定する

あらかじめ接続する公衆無線 LAN 事業者のアクセスポイントの接続情報を設定しておくと、アクセスポイントですぐに接続できて便利です。接続に必要な設定情報は、各事業者にお問い合わせください。

1 **「設定一覧」画面を表示し、[公衆無線 LAN]を選ぶ。**

「公衆無線 LAN」画面が表示されます。

ご注意

モニターの接続タイプが［家モード］になっていると、［公衆無線 LAN］を選べません。その場合は、「設定一覧」画面で［モニター］を選び、［外モード］を選びます。その後、外モード（ワイヤレス）の［設定］を選び、［公衆無線 LAN］を選んでください。

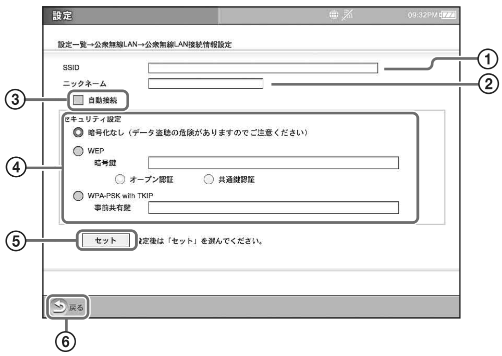
2 **[新規]を選ぶ、または利用したいネットワークを選び、[編集]を選ぶ。**



新規

「公衆無線 LAN 接続情報設定」画面が表示されます。

3 **事業者の設定情報を見ながら、必要な項目を設定する。**



① **接続する公衆無線 LAN 事業者に指定された SSID ＊を入力する。**

＊「SSID」の別の呼びかた：「ESS-ID」、「ESSID」、「ネットワーク名」、「サービスセット識別子」

② **ニックネーム（全角 8 文字、半角 16 文字以内）を入力する。**

事業者によって SSID が覚えにくいときは、自分でわかりやすいニックネームをつけておくと便利です。

③ **モニターを［外モード］で起動したときにここで設定したワイヤレスネットワーク（SSID）へ自動的に接続したいとき、チェックする。**

④ **事業者に指定されたセキュリティ設定の形式を選ぶ。**

暗号化されていない場合は、［暗号化なし］を選びます。

［WEP］の場合は、事業者に指定された暗号鍵を入力し、事業者に指定された認証形式を選びます。

［WPA-PSK with TKIP］の場合は、事業者に指定された事前共有鍵を入力します。

ちょっと一言

- 多くの事業者では認証形式として［オープン認証］を使用しています。
- ［WEP］や［WPA-PSK with TKIP］を選んだ場合に、暗号鍵や事前共有鍵として入力可能な文字や文字数は以下のとおりです。

WEP の場合：

暗号鍵を、文字または 16 進数で入力します。

暗号鍵には、任意の文字列を設定できますが、暗号鍵の長さによって必要文字数が異なります。暗号鍵の必要文字数と使用できる文字は次のとおりです。

暗号鍵長	64bit	128bit
文字入力	5 文字（半角英数字、記号）	13 文字（半角英数字、記号）
16 進数入力	10 文字（0 ～ 9、A ～ F、a ～ f）	26 文字（0 ～ 9、A ～ F、a ～ f）

WPA-PSK with TKIP の場合：

事前共有鍵を、8 文字以上 64 文字以内で入力します。

64 文字で入力した場合にのみ、使用できる文字は、0 ～ 9、a ～ f、A ～ F になります。

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

⑤ **各項目を設定したら、［セット］を選ぶ。**

⑥ **［戻る］を選ぶ。**

「公衆無線 LAN」画面に戻ります。

4 ［ワイヤレス LAN ネットワーク一覧］に、手順 3 で設定した SSID とニックネームが表示されていることを確認する。

5 ［戻る］を選ぶ。

「設定一覧」画面に戻ります。

6 ワイヤレスの回線設定を行う。

事業者の設定にしたがって、「LAN 回線（DHCP）を使って接続する」（☞ 120 ページ）、「LAN 回線（アドレス手動）を使って接続する」（☞ 121 ページ）、「LAN 回線（PPPoE）を使って接続する」（☞ 121 ページ）のうち、いずれかの設定を行います。

ちょっと一言

多くの事業者では、「LAN 回線（DHCP）」を使用しています。

7 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

本機のワイヤレス LAN セキュリティ機能について

ワイヤレス LAN ではセキュリティの設定をすることが非常に重要です。(3 ページ「安全のために」の「本機のワイヤレス通信について」をご覧ください)。
本機で対応しているワイヤレス LAN セキュリティ機能の特長を以下に説明します。

暗号化なし
設定が容易な反面、特別なツールを使わずに誰でも通信内容の傍受やワイヤレス LAN への侵入が可能です。不正アクセスやデータ盗聴などの危険がありますのでご注意ください。

WEP
IEEE802.11 で規格化されているワイヤレス LAN のセキュリティ技術で、通信を暗号化することで第三者による通信内容の傍受やワイヤレス LAN への侵入を防止します。64bit または 128bit 長の暗号鍵を設定する必要があり、128bit 鍵を設定する方が暗号が強固になります。従来から多くのワイヤレス LAN 機器が WEP に対応しているので互換性が高いという特長をもちますが、解読技術が存在しますので同じ暗号鍵を長期間使いつづけるのは避けてください。

TKIP
WEP の欠点を改善する目的で開発されたセキュリティ技術で、WEP と比較して強固なセキュリティが実現されます。

接続するワイヤレス LAN のセキュリティに応じて本機を設定する必要があります。より強固なセキュリティを実現するため、WPA-PSK with TKIP を使用することをお勧めします。また、暗号鍵や事前共有鍵は、人から推測されにくい文字列を設定してください。

設定済みのアクセスポイントに接続する

1 「設定一覧」画面を表示し、[公衆無線 LAN]を選ぶ。
「公衆無線 LAN」画面が表示されます。

ご注意
モニターの接続タイプが［家モード］になっていると、［公衆無線 LAN］を選べません。その場合は、「設定一覧」画面で［モニター］を選び、［外モード］を選びます。その後外モード（ワイヤレス）の［設定］を選び、［公衆無線 LAN］を選んでください。

2 [ワイヤレス LAN ネットワーク一覧] から設定済みのアクセスポイントを選び、[接続] を選ぶ。



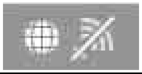
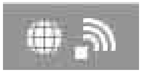
接続　設定済みのアクセスポイントを選びます

アクセスポイントに接続すると、［現在の接続］に SSID や受信状態などが表示されます。

ご注意
- 事業者によっては、無線接続が可能でも「電波」欄に が表示されないアクセスポイントもあります。その場合は、アクセスポイントが正しく設定されていれば接続できます。
- しばらく待っても［現在の接続］に「SSID：....（接続先の SSID）を検索しています」が表示し続ける場合は、もう 1 回［接続］を選んでください。暗号鍵などセキュリティが有効なアクセスポイントの場合は、「セキュリティ設定」の内容を確認してください。
- 暗号化されていないアクセスポイントに接続すると、インターネットやメールなどを利用したときに、第三者に傍受される可能性があります。

3 ネットワークに接続されたことを確認する。

画面上部にネットワーク接続が確立したアイコンが表示されるのを待ちます。

	ネットワークに接続不可
	ネットワーク接続が確立 DHCP サーバーから IP アドレスを取得中は が点滅します。 は信号レベルにより 3 段階の表示をします。

ご注意
しばらく待っても アイコンが表示されない、または点滅が止まらない場合は「セキュリティ設定」の内容を確認してください。また、事業者の指示にしたがってアクセスポイントの設定を確認してください。

ご注意
ほとんどの事業者は LAN 回線（DHCP）を使って接続しますが、一部の事業者では LAN 回線（PPPoE）を使って接続します。使用する事業者の回線設定を確認してください。また複数の事業者を使用している場合は、接続先の事業者によって、回線設定の切り換えが必要になる場合があります。

4 インデックス画面を表示し、[インターネット]を選ぶ。

任意のホームページが表示できれば設定は完了です。事業者によっては、利用する公衆無線 LAN サービスの認証画面が自動的に表示されます。画面の指示にしたがって、ID とパスワードを入力してください。詳しくは、利用する事業者のホームページなどで確認してください。

ちょっと一言
手順 3 で アイコンが表示される前にインターネット画面を表示すると、「Web サーバーに接続できません。」というエラーメッセージが表示されます。その場合は、 アイコンの点滅が止まってから、「ホーム」や「マーク」などからページを選んでください。

ご注意
事業者によっては公衆無線 LAN サービスの認証後、ログアウトするまでの時間で課金する場合があります。詳しくは、利用する事業者のホームページなどで確認してください。

外モード（ワイヤレス）の回線設定をする

LAN 回線（DHCP）を使って接続する

インターネットに接続することにより、DHCP サーバーから「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」が自動的に割り当てられます。DHCP サーバーによっては「DNS」も自動的に割り当てられます。

1 画面右下の[設定一覧]を選ぶ。

「設定一覧」画面が表示されます。

2 [モニター設定]を選ぶ。

「モニター設定」画面が表示されます。

3 [外モード]を選ぶ。

接続タイプが「外モード」に変更されます。

4 [外モード（ワイヤレス）]の[設定]を選ぶ。

「外モード（ワイヤレス）」画面が表示されます。

5 [ワイヤレスの回線設定]を選ぶ。

「ワイヤレスの回線設定」画面が表示されます。

6 [LAN回線(DHCP/アドレス手動)]の右横にある[設定]を選ぶ。



「DHCP/アドレス手動設定」画面が表示されます。
IPアドレスなどの値が割り当てられているか、確認してください。

7 [戻る]を選ぶ。

「ワイヤレスの回線設定」画面に戻ります。

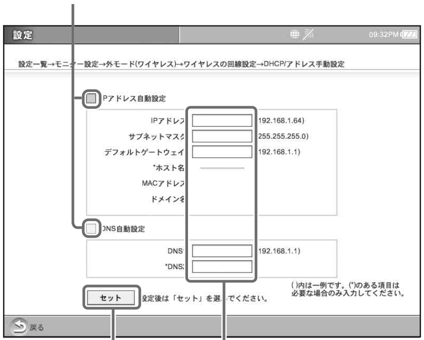
LAN回線(アドレス手動)を使って接続する

1 「LAN回線(DHCP)を使って接続する」(☞ 120ページ)の手順1～5を行い、「ワイヤレスの回線設定」画面を表示する。

2 [LAN回線(DHCP/アドレス手動)]の右横にある[設定]を選ぶ。

「DHCP/アドレス手動設定」画面が表示されます。

3 [IPアドレス自動設定]、[DNS自動設定]のチェックをはずし、公衆無線LANサービス事業者の資料を参照しながら「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」、「ホスト名」、「DNS1」、「DNS2」を入力し、[セット]を選ぶ。



ちょっと一言

- 設定した内容は、画面をキャプチャー（画面保存）して、残しておくこともできます。（☞ 49ページ）
- 文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91ページ）をご覧ください。

4 [戻る]を選ぶ。

「ワイヤレスの回線設定」画面に戻ります。

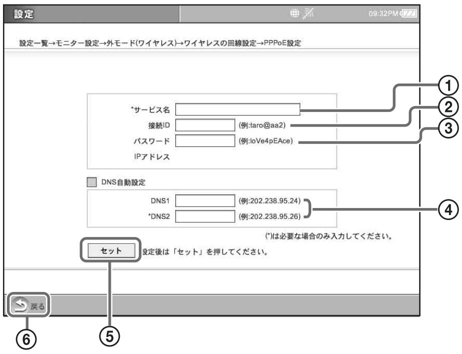
LAN回線(PPPoE)を使って接続する

1 「LAN回線(DHCP)を使って接続する」(☞ 120ページ)の手順1～5を行い、「ワイヤレスの回線設定」画面を表示する。

2 [LAN 回線(PPPoE)] の右側にある [設定] を選ぶ。

「PPPoE 設定」画面が表示されます。

3 公衆無線 LAN サービス事業者の資料を参照しながら各項目を入力し、[セット] を選んで [戻る] を選ぶ。



① **公衆無線 LAN サービス事業者のサービス名を入力する。**
公衆無線 LAN サービス事業者を識別する名称です。
公衆無線 LAN サービス事業者によって入力が不要な場合もあります。公衆無線 LAN サービス事業者からの指示があるときのみ入力してください。

② **接続 ID ＊1 を入力する。**
インターネットに接続するとき利用者本人であることを確認するための設定です。

③ **インターネット接続用パスワード＊2を入力する。**
利用者本人であることを確認するための設定です。
入力した文字は、「＊」で表示されます。

④ **DNS1 ＊3、DNS2 ＊3 を入力する。**
公衆無線 LAN サービス事業者から指定された IP アドレスを入力する場合は、［DNS 自動設定］のチェックをはずしてください。
［DNS 自動設定］をチェックしたままの場合は、自動的に値を取得します。
＊公衆無線 LAN サービス事業者によっては自動取得できない場合があります。

⑤ **［セット］を選ぶ。**

⑥ **［戻る］を選ぶ。**

それぞれの用語は次のように呼ばれることがあります。詳しくは、公衆無線 LAN サービス事業者からの資料などをご覧ください。

＊ 1 **「接続 ID」の別の呼びかた**
「ユーザー名」、「ユーザー ID」、「PPP ログイン名」、「ネットワーク ID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」、「ログイン ID」、「接続アカウント」

＊ 2 **「パスワード」の別の呼びかた**
「PPP パスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」、「ログインパスワード」

＊ 3 **「DNS1」、「DNS2」の別の呼びかた**
DNS1：「ネームサーバー」、「プライマリ DNS サーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」
DNS2：「ネームサーバー」、「セカンダリ DNS サーバー」、「セカンダリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」

ちょっと一言

- 設定した内容は、画面をキャプチャー（画面保存）して、残しておくこともできます。（☞ 49 ページ）
- 文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

「ワイヤレスの回線設定」画面に戻ります。

4 [LAN 回線(PPPoE)] を選ぶ。

LAN 回線（PPPoE）



ご注意

すべての公衆無線 LAN サービス事業者の PPPoE 接続を保証するものではありません。

確認の画面が表示されます。

5 [OK]を選ぶ。

「LAN 回線（PPPoE）」に設定されます。

6 [戻る]を選ぶ。

「外モード（ワイヤレス）」画面に戻ります。

赴任先などで有線 LAN に接続する

赴任先など、有線 LAN でインターネットに接続できる環境がある場所では、モニターを LAN ケーブル（別売り）でつないでホームページを見たり、メールをチェックしたりすることができます。
なお、設定情報や接続料金は、利用する接続環境によって異なります。詳しくは、利用する接続環境の資料をご覧ください。

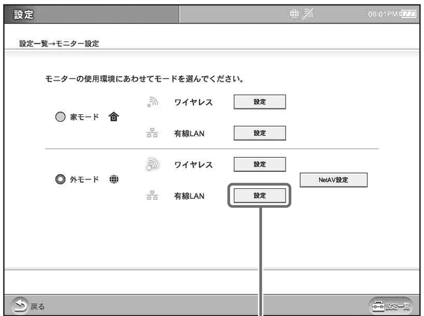
赴任先などでテレビを見たい場合は、あらかじめ「赴任先などでテレビを見る」（☞ 110 ページ）を参照し、必要な設定を行ってください。

1 「設定一覧」画面を表示し、[モニター設定]を選ぶ。

「モニター設定」画面が表示されます。

2 [外モード]を選ぶ。

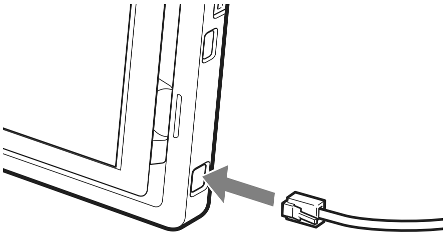
3 外モードの[有線 LAN]の[設定]を選ぶ。



ここを選びます

「有線モニター回線設定」画面が表示されます。

4 LANケーブル(別売り)を使って、モニターのイーサネット端子と接続先のイーサネット端子をつなぐ。



5 インターネット接続環境に合わせて各項目を入力し、[セット]を選んで[戻る]を選ぶ。

各項目については、「LAN回線(アドレス手動)を使って接続する」の手順3
(☞ 121ページ)を参照してください。

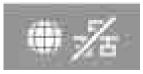
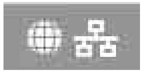
ちょっと一言

多くの事業者では、IPアドレスが自動設定されるため、手順5で各項目を入力する必要ありません。

ご注意

間違った値を入力すると、モニターをインターネットに接続できなくなります。

有線LANのネットワークに正しく接続されると、画面上部にネットワークに接続が確立したことを示す アイコンが表示されます。 アイコンの点滅が止まるまで、しばらくお待ちください。

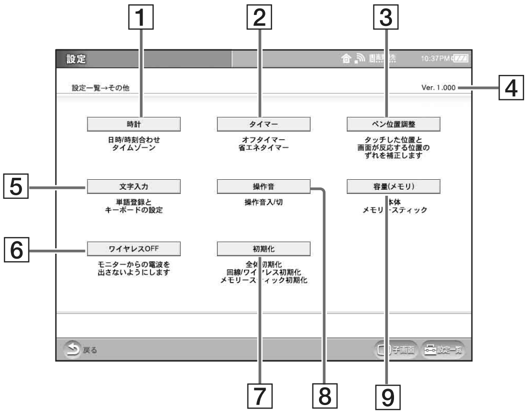
	ネットワークに接続不可
	ネットワーク接続が確立 DHCPサーバーからIPアドレスを取得中は が点滅します。

6 インデックス画面を表示し、[インターネット]を選ぶ。

接続環境によっては、利用する接続サービスの認証画面が自動的に表示されます。その場合は、必要な手続きを行ってください。手続きの方法は、利用する場所や施設で確認してください。

その他の設定画面

「設定」画面を開き、［その他］を選択すると、「その他」の設定画面が表示されます。「その他」の設定画面で各項目を選ぶと、以下の設定が行えます。



1 時計
日付と時刻の設定やタイムゾーンの設定が行えます。
時計の設定が違うと、インターネットのホームページが正しく表示されなかったりします。また、タイムゾーンを変更し、［OK］を選ぶと、モニターが再起動します。

ご注意
タイムゾーンから［都市名（標準）］で夏時間を採用している都市を選択しても、自動的には夏時間に設定されません。夏時間に設定したいときは、［都市名（夏時間）］を選んでください。

2 タイマー
オフタイマーや省エネタイマーの設定が行えます。
オフタイマー：
自動的にモニターの電源を切るように設定できます。本機をつけたまま外出したり、寝てしまっても設定した時間（30 分、60 分または 90 分）が過ぎると、自動的に電源が切れます（ベースステーションの電源は切れません）。
テレビやビデオ以外の機能を使用しているときでもオフタイマーは働きます。
省エネタイマー：
モニターの電源をつけたまま一定時間何も操作しなかったときに、省エネタイマーが働いて本機の消費電力を少なくするように設定できます。省エネタイマーが働くと、バックライトが消えて、画面は暗くなります。

- 省エネタイマーは、テレビ・ビデオを表示しているときや、モニターを AC アダプターで接続しているときは実行されません。

3 ペン位置調整
タッチペンで触れた位置と画面上で反応した位置がずれている場合、ずれをなくすように調整できます。

ご注意
タッチペン以外は使わないでください。画面が傷ついたり割れたりする原因になります。

4 ソフトウェアのバージョン表示
本機のソフトウェアバージョンを表示します。

5 文字入力
よく使う単語を予測入力機能の辞書に登録したり（☞ 102 ページ）、文字入力の方法を「予測変換」または「連文節変換」に切り換えたりできます（☞ 99 ページ）。

6 ワイヤレス OFF（☞ 138 ページ）
本機からのワイヤレス信号の発信を停止します。

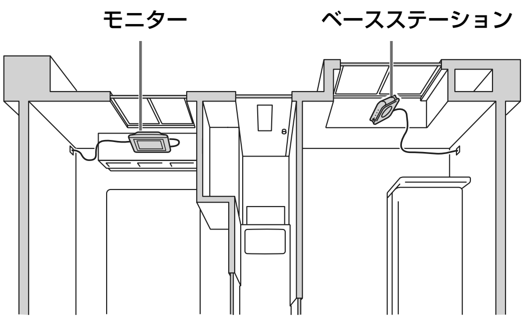
7 初期化（☞ 141 ページ）
本機のすべての設定やネットワーク / ワイヤレスの設定をお買い上げ時の状態に戻したり、“メモリースティック”を初期化したりできます。

8 操作音
本機を操作しているときの操作音をオン / オフできます

9 容量（メモリ）（☞ 142 ページ）
本体メモリや“メモリースティック”の残りの容量を確認できます。

モニターを家庭内 LAN に接続する

本機では、モニターをベースステーションが接続されている家庭内 LAN に有線で接続して、テレビやインターネットを楽しむことができます。
家庭内 LAN で使う場合は、LAN ケーブル（別売り）で直接モニターを壁やルーターなどのイーサネット端子につないで使うことができます。
ワイヤレスではテレビの映りがよくない場合や画面上部にひんぱんに BASE と表示される場合に便利です。
家庭内 LAN に接続するには、以下の手順で必要な設定を行ってください。



モニターの設定をする

お買い上げ時の設定では、自動的にモニターの IP アドレスが取得されるようになっています。通常はこのまま使用できますが、手動で IP アドレスを設定したいときは、以下の手順を行ってください。

1 **「設定一覧」画面を表示し、[モニター設定] を選ぶ。**

「モニター設定」画面が表示されます。

2 **[家モード] を選ぶ。**

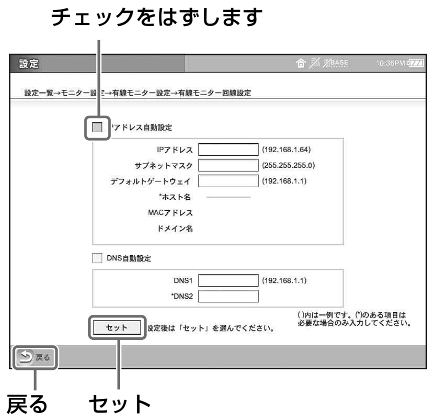
3 **[家モード(有線LAN)] の [設定] を選ぶ。**

「有線モニター設定」画面が表示されます。

4 **[モニターの有線(回線)設定] を選ぶ。**

「有線モニター回線設定」画面が表示されます。

5 **[IP アドレス自動設定] のチェックをはずし、家庭内 LAN の設定やプロバイダの設定に合わせて各項目を入力し、[セット] を選んで [戻る] を選ぶ。**



ご注意

- ルーターやプロバイダなどの設定資料を参照し、正しく設定してください。間違った値を設定すると、モニターをインターネットに接続できなくなります。
- ベースステーションと同じ IP アドレスを設定しないでください。モニターとベースステーションが通信できなくなり、インターネットに接続できなくなったり、テレビやビデオが見られなくなります。

「有線モニター設定」画面が表示されます。

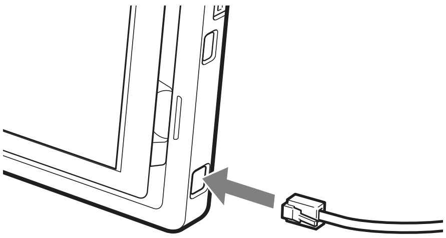
6 ［戻る］を選ぶ。

「モニター設定」画面に戻ります。

7 ［設定一覧］を選び、［設定終了］を選ぶ。

モニターを有線 LAN で接続する

家庭内 LAN で使うための設定が終了したら、LAN ケーブル（別売り）を使って、モニターの LAN 端子と壁やルーターなどのイーサネット端子をつなぎます。



ちょっと一言

LAN ケーブルは、ストレートケーブルをお使いください。

ご注意

家庭内 LAN でテレビやビデオを楽しむとき、使用しているルーターまたはハブの性能によっては、正常に通信できない場合や他のインターネット機器の接続に影響が出る可能性があります。有線 LAN 接続では、10/100Base-T のハブ、ルーターであることを確認してください。

再びモニターをワイヤレスで使うには

モニターから LAN ケーブルを抜いてください。LAN ケーブルを抜くと、モニターは自動的に家モード（ワイヤレス）に設定されます。

家モード(ワイヤレス)のセキュリティ設定を変更する

ベースステーションのワイヤレス設定から WEP の暗号鍵を変更したり、暗号化の設定を WEP から WPA-PSK TKIP に変更した場合は、モニターの家モード（ワイヤレス）のワイヤレス設定を、ベースステーションに合わせて変更してください。

ちょっと一言

ベースステーションのワイヤレス設定でワイヤレスチャンネルを変更した場合は、本機の設定変更は不要です。

1 「設定一覧」画面を表示し、［モニター設定］を選ぶ。

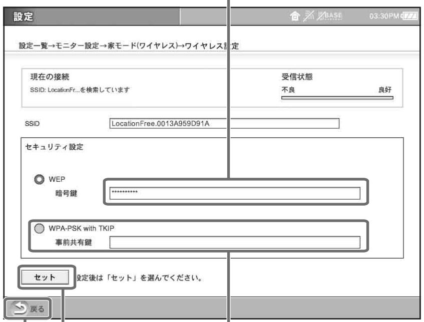
「モニター設定」画面が表示されます。

2 ［家モード］を選ぶ。

3 ［家モード（ワイヤレス）］の［設定］を選ぶ。

「ワイヤレス設定」画面が表示されます。

4 ベースステーションのワイヤレス設定に合わせて、セキュリティ設定のWEP の暗号鍵または WPA-PSK with TKIP の事前共有鍵を設定し、[セット]を選んで[戻る]を選ぶ。



ご注意

本機は WPA2-PSK AES には対応していません。ベースステーション LF-PK20 で WEP 以外の暗号化に変更する場合は、WPA-PSK TKIP をご使用ください。

「モニター設定」画面が表示されます。

5 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

画面の明るさを調整する

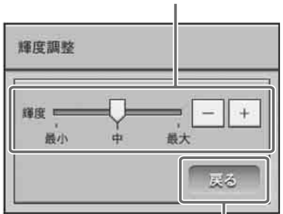
画面の明るさを調整します。この操作を行うと、すべての画面の明るさが同時に調整されます。

1 「設定一覧」画面を表示し、[輝度調整]を選ぶ。

「輝度調整」画面が表示されます。

2 輝度を調整し、[戻る]を選ぶ。

スライダーを動かすか、[－] または [＋] を選んで調整します。



設定項目	[－] を選ぶと	[＋] を選ぶと
輝度	暗くなる	明るくなる

「設定一覧」画面に戻ります。

3 [設定終了]を選ぶ。

画質・音質を調整する

テレビとビデオ入力の画質や音質を調整します。この操作を行うと、テレビとビデオ入力の画質や音質が同時に調整されます。

1 「設定一覧」画面を表示し、[テレビ・ビデオ]を選ぶ。

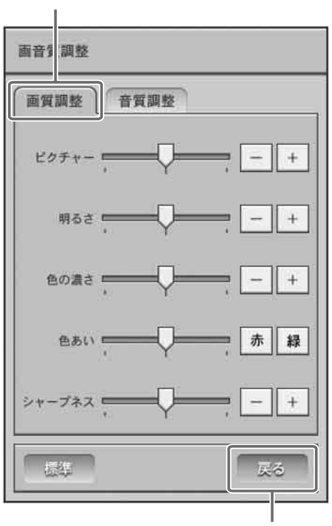
「テレビ・ビデオ」画面が表示されます。

2 [画質・音質調整]を選ぶ。

「画音質調整」画面が表示されます。

3 [画質調整]タブを選び、各項目を調整して、[戻る]を選ぶ。

スライダーを動かすか、[－]、[＋]または[赤]、[緑]を選んで調整します。
[標準]を選ぶと、すべての項目が標準の設定になります。

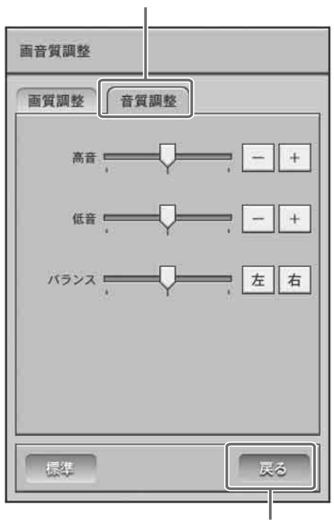


設定項目	[－]を選ぶと	[＋]を選ぶと
ピクチャー	明暗の差が弱くなる	明暗の差が強くなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	淡くなる	濃くなる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

設定項目	[赤]を選ぶと	[緑]を選ぶと
色あい	赤みがかる	緑がかる

4 [音質調整]タブを選び、各項目を調整して、[戻る]を選ぶ。

スライダーを動かすか、[－]、[＋]または[左]、[右]を選んで調整します。
[標準]を選ぶと、すべての項目が標準の設定になります。



設定項目	[－]を選ぶと	[＋]を選ぶと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる

設定項目	[左]を選ぶと	[右]を選ぶと
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる

「テレビ・ビデオ」画面に戻ります。

5 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

テレビチャンネルを手動で設定する

テレビチャンネルを手動で設定する

モニターで受信するテレビチャンネルを手動で設定できます。
また、初期設定でテレビチャンネルを自動設定した後に、チャンネルを追加・取り消したり、チャンネルの名前を変更できます。

本機で受信可能なチャンネル

VHF 放送： 1 ～ 12 チャンネル
UHF 放送： 13 ～ 62 チャンネル
ケーブルテレビ： C13 ～ C63 チャンネル

1 「設定一覧」画面を表示し、[テレビ・ビデオ]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面が表示されます。

2 [チャンネル設定変更]を選ぶ。

「チャンネル設定変更」画面が表示されます。

3 変更したいテレビチャンネルのリスト部分を選ぶか、チェックしてから、[編集]を選ぶ。



「チャンネル設定」画面が表示されます。

4 「チャンネル表示」と「受信チャンネル」を変更し、「放送局名表示」の中から設定したい放送局名を選ぶ。



［−］または［+］を使って数字を変更します。
受信チャンネルを変更すると、選んだチャンネルが映ります。

「チャンネル表示」とは

テレビの画面上部やインデックス画面に表示するテレビチャンネルの番号です。

「受信チャンネル」とは

新聞のテレビ欄などに記載されているチャンネルです。



ちょっと一言

- ケーブルテレビのときは、チャンネル番号の前に「C」の付いた番号を選びます。
- 「受信チャンネル」に「--」（C63 の次）を表示すると、テレビチャンネルを受信しなくなります。
- 追加したい放送局名が「放送局名表示」の中にないときは「放送局名を編集する」（☞ 132 ページ）を行います。

5 [OK]を選ぶ。

変更された「チャンネル設定変更」画面に戻ります。

6 [戻る]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面に戻ります。

7 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

見ないチャンネルを消去する

設定したテレビチャンネルの中から、見ないテレビチャンネルを消去します。

ご注意

消去したチャンネルをもう一度受信するには、自動で設定し直すか（☞ 37 ページ）、「テレビチャンネルを手動で設定する」（☞ 130 ページ）にしたがって設定し直してください。

1 「チャンネル設定変更」画面を表示し（☞ 130 ページ）、消去したいテレビチャンネルをチェックして、[表示取消] を選ぶ。

一度に複数のテレビチャンネルを選べます。



そのチャンネルが消去され、「放送局名」が「受信しない」に変わります。

2 [戻る] を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面に戻ります。

3 [設定一覧] を選び、[設定終了] を選ぶ。

放送局名を編集する

テレビチャンネルを設定するとき、「放送局名表示」の中に追加したい放送局名がないときは、好みの放送局名を入力して、インデックス画面に表示できます。

1 「放送局名表示」画面を表示し（☞ 130 ページ）、[リストにない放送局] を選ぶ。



「局名編集」画面が表示されます。

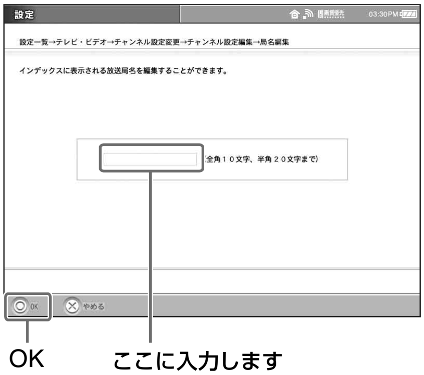
2 [局名編集] を選ぶ。

「局名編集」画面が表示されます。

ちょっと一言

受信チャンネルが「--」のときは、[+] / [−] で受信チャンネルを設定してから [局名編集] を選んでください。

3 インデックス画面に表示したい放送局名を入力し、[OK]を選ぶ。



ちょっと一言

文字入力のしかたについて詳しくは、「文字入力」（☞ 91 ページ）をご覧ください。

「チャンネル設定」画面に戻り、新しく入力した放送局名が［局名編集］の下に表示されます。

4 [OK]を選ぶ。

変更された「チャンネル設定変更」画面に戻ります。

5 [戻る]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面に戻ります。

6 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

画面上のリモコンを設定する

ベースステーションにつないだ機器に AV マウスを取り付けて、モニター画面上のリモコンで操作するための設定を行います。
初期設定時に設定したリモコンを変更したり、新しい機器を追加したときにこの設定を行ってください。

ちょっと一言

設定の前に、AV マウスのリモコン発光部がつないだ機器のリモコン受光部の真上（または真下）に向くように設置します。このとき、AV マウス裏面のシールはまだはがさないでください。シールは、以下の設定が終わった後ではがし、AV マウスを機器に固定してください。
AV マウスの設置について詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

1 「設定一覧」画面を表示し、[テレビ・ビデオ]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面が表示されます。

2 [リモコン設定]を選ぶ。

「リモコン設定」画面が表示されます。

3 [ビデオ入力 1]または[ビデオ入力 2]を選ぶ。

機器をつないだ方のビデオチャンネルを選んでください。
「ビデオ入力 1」または「ビデオ入力 2」画面が表示されます。

4 上段に表示されている一覧から、つないだ機器のメーカー名と機種を選び、[電源]を選ぶ。

メーカー名を選ぶと、機種が表示されます。



正しく設定されていると、[電源] を触るたびに、つないだ機器の電源が入 / 切されます。電源入 / 切の動作は、子画面で確認できます。
[電源] を何回か触ってもつないだ機器の電源が入／切されない場合は、メーカーまたは機種が正しく選ばれているか確認してください。

1 つの端子に外部入力機器を 2 台つなぐときは

本機に直接接続した機器を 1 台目として設定してください。

ちょっと一言

アイワ製の DVD プレーヤー、DVD+VHS（一体型）、ビデオデッキの一部の機種については、メーカー名をソニーまたはその他に設定するものもあります。

5 [戻る]を選ぶ。

「リモコン設定」画面に戻ります。

6 [戻る]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面に戻ります。

7 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

インデックス画面を表示すると［ビデオ入力 1］または［ビデオ入力 2］が設定したリモコンの機種名に置き換わって表示されます。

2 台以上の機器の設定をするには

設定する前に、機器を接続しておいてください。

1 上記の手順1～4（☞ 133ページ）を行い、1台目の機器を設置する。

2 続けて下段の「メーカー」リストから 2 台目の機器（1 台目の機器を経由してつないだ機器）のメーカーと機種名を選び、電源入 / 切の動作を確認する。

3 AV マウスを、それぞれの機器の取り付け予定位置に固定する。

ご注意

- つないだ機器に付属のリモコンと同じ使いかたをしてください。ただし、画面上のリモコンに表示されているボタンでも、つないだ機器にない機能については操作できません。
- つないだ機器に付属のリモコンのボタン名と画面リモコンのボタン名が異なることがあります。
- 一体型機器のリモコンをお使いの場合、［デッキ切換］ボタンを押すと、一体型機器に入っている 2 つのデッキの映像とリモコンを同時に切り換えますが、［デッキ切換］ボタンを押して表示されるデッキの映像と画面上のリモコンが一致しないときは ボタンを押すと映像が切り換わります。
- 1 つのビデオ入力に対し、2 つのリモコンを設定したときは、 ボタンを押すと表示されるリモコンが切り換わります。

学習リモコンを設定する

ベースステーションにつないだビデオ機器が「リモコン設定」画面（☞ 133 ページ）のリストにない場合でも、画面上のリモコンがビデオ機器に付属のリモコンと同じ動作をするように、リモコンの機能を学習させることができます。

類似のリモコンを選んで編集する

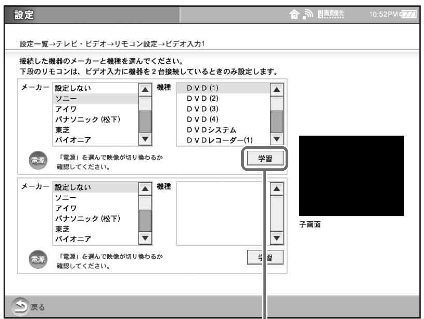
1 「設定一覧」画面を表示し、[テレビ・ビデオ]を選ぶ。

「テレビ・ビデオ」画面が表示されます。

2 「リモコン設定」を選び、[ビデオ入力 1]または[ビデオ入力 2]を選ぶ。

「ビデオ入力 1」または「ビデオ入力 2」画面が表示されます。

3 [メーカー]と[機種]からお手持ちの機器に近そうなものを選び、[学習]を選ぶ。



学習画面とリモコンパネルが表示されます。

ちょっと一言

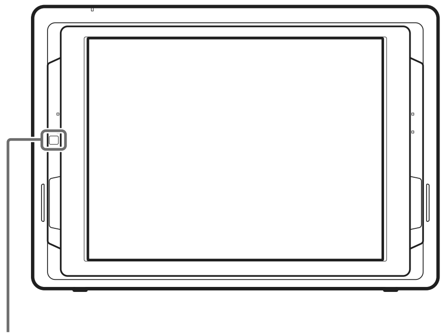
まったく新しいリモコンを作りたいときは、「新しいリモコンを作る」（☞ 136 ページ）をご覧ください。

4 画面上のリモコンパネルから、学習させたいボタンを選ぶ。



リモコン信号の待ち受けメッセージが表示されます。

5 ビデオ機器のリモコンを本機の学習リモコン用受光部に向け、学習させたいボタンを押し続ける。



学習できるとメッセージが消えます。メッセージが消えたら、リモコンのボタンから手を離します。リモコンパネルのボタンには学習済みの枠が表示されます。

ちょっと一言

- リモコンは、学習リモコン用受光部から 2.5 ～ 5 cm まで近づけてください。
- リモコンのボタンは学習中のメッセージが消えるまで押し続けてください。また、リモコンは動かさないでください。
- 学習前にリモコンの電池を新しいものに換えることをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所や、照明器具の下などは避けて学習してください。ノイズが入る原因となります。

6 学習させたいボタンごとに手順4、5を繰り返す。

7 画面下部の[OK]を選ぶ。

学習した内容が保存され、「ビデオ入力 1」または「ビデオ入力 2」画面に戻ります。また、学習した機種名に「＋」マークが表示されます。

学習が終わったら

インデックス画面を表示し、「ビデオ入力 1」または「ビデオ入力 2」を選んで画面上のリモコンが、学習したとおり正しく動作するか確認してください。

ご注意

- 学習がうまくできないときは、学習リモコン用受光部へのリモコンの向け方を変更してやり直してください。リモコンの発光部とモニターの受光部が正面に向き合っていないと学習できないことがあります。
- 本機はすべての機器のリモコン信号を学習できるわけではありません。何回試しても学習できないときは、本機がそのリモコン信号の学習に対応していない場合があります。
- 学習した内容は「ビデオ入力 1」と「ビデオ入力 2」に共通となります。たとえば「ビデオ入力 1」画面からソニー DVD (1) で学習を行った場合、「ビデオ入力 2」のソニー DVD (1) も同じ内容で動作します。
- 20 機種までのリモコンが学習できます。

学習内容をキャンセルするには

前ページの手順 4 で［リセット］を選びます。学習前の状態に戻ります。

新しいリモコンを作る

汎用リモコンパネルを使ってすべてのボタンを新しく学習させ、独自のリモコンを作ることができます。
学習のさせかたは「類似のリモコンを選んで編集する」（☞ 135 ページ）と同じです。

1 「設定一覧」画面を表示し、[テレビ・ビデオ]を選ぶ。

2 「リモコン設定」を選び、[ビデオ入力 1]または[ビデオ入力 2]を選ぶ。

3 [メーカー]リストから[学習リモコン]を選ぶ。

4 [機種]リストから[汎用]、[汎用 AV]または[汎用コンボ]のどれかを選び、[学習]を選ぶ。

学習画面とリモコンパネルが表示されます。

ちょっと一言

汎用機種は、手順 3 で［メーカー］リストから［学習リモコン］を選んだときだけ表示されます。

5 「リモコンの名前」の部分を選ぶ。



ボタンの名前編集画面が表示されます。

6 あとでインデックス画面に表示したい名前を入力し、[OK]を選ぶ。



7 リモコンパネルから学習させたいボタンを選び、ビデオ機器のリモコンを本機の学習リモコン用受光部に向け、学習させたいボタンを押して学習させる。

詳しくは、「類似のリモコンを選んで編集する」（☞ 135 ページ）の手順 4 ～ 6 をご覧ください。

ちょっと一言

（　）付きで表示されたボタンは、ボタン名の編集が可能です。編集可能なボタンを選ぶと、ボタン名の編集画面が表示されます。ボタン名を入力して［OK］を選ぶと、リモコン信号の待ち受けメッセージが表示されます。

8 学習させたいボタンごとに手順7を繰り返す。

9 画面下部の[OK]を選ぶ。

学習した内容が保存され、「ビデオ入力 1」または「ビデオ入力 2」画面に戻ります。また、入力したリモコンの名前が機種名に反映され、「＋」マークが表示されます。

ワイヤレス通信を停止する

本機は、LAN ケーブルで接続していないときはいつでも、ワイヤレス通信するように設定されています。ワイヤレス通信の信号が常に出されている状態になっているため、ワイヤレス通信が制限されている場所では、モニターのワイヤレス通信を停止してください。

ご注意
ベースステーションのワイヤレス通信は停止できません。

1 **「設定一覧」画面を表示し、[その他]を選ぶ。**
「その他」の設定画面が表示されます。

2 **[ワイヤレス OFF]を選ぶ。**
「ワイヤレス OFF」画面が表示されます。

3 **[ワイヤレス機能を OFF にする]のチェックボックスを選び、[OK]を選ぶ。**



確認メッセージが表示されます。

4 **[OK]を選ぶ。**
モニターが再起動します。

ご注意
ワイヤレス通信を停止すると、モニターはベースステーションや公衆無線 LAN に接続できなくなります。

再びワイヤレス通信を行うには

「ワイヤレス OFF」画面を表示し、[ワイヤレス機能を OFF にする]のチェックをはずし、[OK]を選びます。モニターが再起動し、ワイヤレス通信が始まります。

他のベースステーションに登録する

外モードでモニターを使用する場合は、家モードで接続するベースステーション（初期設定を行ったベースステーション）とは別のベースステーションに接続することができます。接続するには登録が必要です。
登録したいベースステーションのドメイン名または IP アドレス、ポート番号、登録パスワードの情報をご用意ください。詳しくはベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

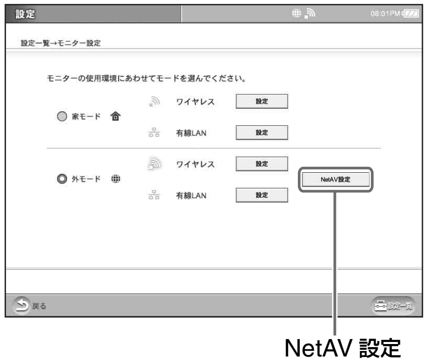
ご注意
家モードで接続するベースステーション（初期設定を行ったベースステーション）に、再び外モードで接続するには、登録に必要な情報を用意し、この設定をやり直してください。

1 「設定一覧」画面を表示し、[モニター設定]を選ぶ。

2 モニターの接続タイプを[外モード]にする。

ご注意
［外モード（ワイヤレス）］でご使用の場合は、手順 7 で［登録開始］を選ぶ前に、公衆無線 LAN に接続してください。公衆無線 LAN への接続のしかたは、「公衆無線 LAN で使う・ワイヤレスルーターに接続する」（☞ 115 ページ）をご覧ください。

3 [NetAV 設定]を選ぶ。



「NetAV 設定」画面が表示されます。

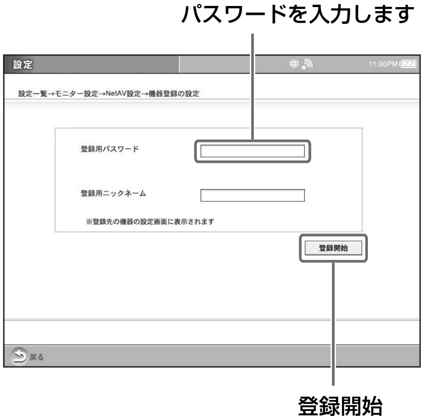
4 [NetAV 接続先の設定]を選ぶ。

5 登録したいベースステーションのドメイン名または IP アドレスとポート番号を入力し、[OK]を選ぶ。



6 [機器登録の設定]を選ぶ。
「機器登録」画面が表示されます。

7 登録したいベースステーションの登録パスワードを入力し、[登録開始]を選ぶ。



確認メッセージが表示されます。

8 [OK]を選ぶ。

登録が完了すると、「登録に成功しました。」と表示されます。

ご注意

「登録に失敗しました。」と表示された場合は、手順 5 で入力したベースステーションのドメイン名または IP アドレス、ポート番号が正しいかどうか確認してください。
他のメッセージが表示された場合は、画面にしたがってチェックを行ってください。

9 [戻る]を選ぶ。

「NetAV 設定」画面が表示されます。

10 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

ちょっとひと言

家モードで複数のベースステーションに接続したい場合は、接続先を変えるたびに初期設定（それぞれのベースステーションへの登録）を行ってください。

ベースステーションの詳細設定を行う

Web ブラウザを起動して、ベースステーション LF-PK20 または LF-PK1 の設定画面を開くことができます。
ベースステーションの設定画面では、ベースステーションの IP アドレスを設定したり、ワイヤレス LAN の暗号鍵を変更するなど、使用するネットワーク環境に合わせてベースステーションの詳細設定を行うことができます。

ベースステーション設定画面について詳しくは、お使いのベースステーションの取扱説明書をご覧ください。

設定を行う前に

- ベースステーションに電源が入っていることを確認してください。
- モニターの接続タイプを［家モード（ワイヤレス）］にしてください。ベースステーション設定は［家モード（ワイヤレス）］のときのみ選ぶことができます。

本機をお買い上げ時の設定に戻す

ご注意

- 初期化は、必ずモニターに AC パワーアダプターが接続されている状態で行ってください。
- 初期化の途中でモニターが再起動しますが、そのままお待ちください。

すべての設定を初期化する

初期化することにより、お買い上げ時の設定に戻すことができます。
初期化すると、モニターに保存されたデータはすべて消去されます。

ご注意

初期化を行うと、受信したメールやアルバムに保存されている画像、保存しておいたホームページやブックマークなど、お客様のデータが消去されます。

1 **「設定一覧」画面を表示し、[その他]を選ぶ。**

「その他」の設定画面が表示されます。

2 **[初期化]を選ぶ。**

「初期化」画面が表示されます。

3 **[全体初期化]を選ぶ。**

「全体初期化」画面が表示されます。

4 **画面に表示されている注意事項をよく読み、[OK]を選ぶ。**

すべての設定が初期化され、自動的にモニターが再起動します。

ネットワーク / ワイヤレスを初期化する

ネットワーク / ワイヤレスを初期化することにより、モニターのネットワーク、ワイヤレスの設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。

1 **「設定一覧」画面を表示し、[その他]を選ぶ。**

「その他」の設定画面が表示されます。

2 **[初期化]を選ぶ。**

「初期化」画面が表示されます。

3 **[ネットワーク / ワイヤレス初期化]を選ぶ。**

「ネットワーク / ワイヤレス初期化」画面が表示されます。

4 **画面に表示されている注意事項をよく読み、[OK]を選ぶ。**

ネットワーク、ワイヤレスの設定が初期化され、自動的にモニターが再起動します。

メールを初期化する

送受信したメールのデータやメールの設定など、メールに関するすべてのデータや設定を初期化できます。
また、メール画面に設定していたセキュリティパスワードを忘れたときも、次の手順でメールの初期化を行ってください。

ご注意

メールを初期化すると、送受信した添付画像も消去されます。（アルバムにコピーした画像や“メモリースティック”に保存したメールは消去されません。）

1 「設定一覧」画面を表示し、[メール]を選ぶ。

「メール」画面が表示されます。

2 [セキュリティ]を選ぶ。

「セキュリティ」画面が表示されます。

3 [メール初期化]を選ぶ。

「メール初期化」画面が表示されます。

4 画面に表示されている注意事項をよく読み、[OK]を選ぶ。



メールが初期化されます。

メモリの残量を確認する

本体メモリや“メモリースティック”の残りの容量を確認できます。

ご注意

- “メモリースティック”や表面に記載されている容量と実際に使用できる容量は異なります。画面上の「全容量」に表示された容量分のみ使用できます。
- 本体メモリや“メモリースティック”の中には、設定データなどお客様自身で消去できないデータも含まれています。

1 「設定一覧」画面を表示し、[その他]を選ぶ。

「その他」の設定画面が表示されます。

2 [容量(メモリ)]を選ぶ。

「容量（メモリ）」画面が表示されます。
「容量（メモリ）」画面で、メモリの残量を確認できます。

3 [戻る]を選ぶ。

「その他」の設定画面に戻ります。

4 [設定一覧]を選び、[設定終了]を選ぶ。

メモリの残量を増やすには

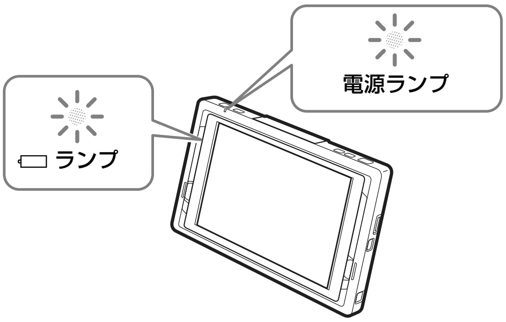
本体メモリの「残り」が少なくなったときは、次の方法で不要なデータを削除するとメモリの残量が増えます。

- キャッシュの消去（☞ 61 ページ、「その他の設定をする」）
- メールの削除（☞ 71 ページ、「受信したメールを削除するには」）
- アルバム画像の削除（☞ 81 ページ、「アルバムの基本画面」）

自己診断表示について

使用中に異常が起きたときは、電源を入れたときにモニター前面の電源ランプ、（充電）ランプが状態をお知らせします。次の表でランプの症状と対処のしかたを確認してください。症状が改善されない場合は、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（☞ 裏表紙）にお問い合わせください。

自己診断表示ランプ



電源ランプの症状	原因	対処のしかた
赤色で連続点滅 （赤）	ハードウェアまたは設定ファイルの異常の可能性があります。	❶ モニターの電源の入 / 切を再度行う。 ❷ ネットワーク / ワイヤレスを初期化する。（☞ 141 ページ） ❸ 症状が変わらなければ、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（☞ 裏表紙）へお問い合わせください。

ランプの症状	原因	対処のしかた
充電時間が経過しても、赤色で点灯 （赤）	バッテリーの異常の可能性があります。	❶ AC パワーアダプターを抜いて、バッテリーを入れ直す。 ❷ 症状が変わらなければ、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（☞ 裏表紙）へお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検をしてください。それでも正常に動作しないときは、ロケーションフリーカスタマーサポートセンター（☞ 裏表紙）にご相談ください。

本機共通

症状	対処のしかた
モニターの電源が入らない。	• AC パワーアダプターをつないでください。（☞ 27 ページ） • バッテリーは入っていますか？
モニターの電源が突然切れた。 いつの間にか切れていた。	• オフタイマーを設定していませんか？（☞ 125 ページ） • バッテリーの寿命ではありませんか？バッテリーの寿命は、充電放電 300 回程度です。バッテリーを交換してください。
BASE * 表示が出ている。 * このアイコンは、家モード（ワイヤレス）のときにのみ表示されます。	• ベースステーションの電源は入っていますか？ • ベースステーションの SETUP MODE ランプがオレンジ色に点滅または点灯（点灯は LF-PK1 のみ）しているときは、セットアップモードが終了するまで待つか、ベースステーションの電源を入れ直してください。 • 通信状態 が表示されるところに移動するか、ベースステーションの高さや向きを変えてください。 • ワイヤレス通信が電波の干渉を受けてます。ベースステーションのワイヤレスチャンネルを変更するか、電波の干渉のない場所へ移動してください。 • 2.4 GHz 使用時： 　– 近くで電子レンジを使ってませんか？電子レンジ使用中は本機のワイヤレス通信が電波の干渉を受けますが、使用をやめると干渉はなくなります。 　– 近くで 2.4 GHz のコードレスホンを使っていませんか？その場合は、ベースステーションのワイヤレスチャンネルを変更してください。 • ベースステーションおよびモニターのワイヤレス設定を確認してください。（☞ 127 ページ）
画面が突然暗くなった。	インターネット / メール / アルバム / 設定画面のときに、省エネタイマーが働き、画面のバックライトが消えています。画面に触れるか、いずれかのボタンを押すと画面が明るくなります。省エネタイマーを解除することもできます。（☞ 125 ページ）
画面が暗い。	設定画面から輝度を調整してください。（☞ 128 ページ）
画面内のボタンが反応しない。	• インデックス画面やメッセージダイアログが出ているときはインデックス画面やメッセージダイアログ内のボタン以外は選べません。 • 薄く表示されているボタンは選べません。ボタンによっては、チェックすると選べるようになります。
選んだものと違うボタンが反応する。	画面で触れた位置と画面の位置がずれています。タッチペンの位置を調整してください。（☞ 125 ページ）
何の操作も受けつけない。	電源を切って、もう一度電源を入れ直してください。
パスワードがエラーになってしまう。	アルファベットの大文字、小文字は合っていますか？大文字、小文字は区別されます。

症状	対処のしかた
バッテリーがすぐになくなる。	バッテリーの故障または寿命かもしれません。バッテリーは充放電を繰り返すことで容量が次第に減っていく特性があります。また高温下では寿命がさらに短くなります。新しいバッテリーをお買い求めください。（☞ 28 ページ）
（充電）ランプが点灯しない。	● バッテリーは入っていますか？ ● バッテリーの寿命です。
充電時間が経過しても、充電ランプが点灯し続けている。	● バッテリーの異常です。AC パワーアダプターを抜いてバッテリーを入れ直してください。 症状が改善しない場合は、ロケーションフリーカスタマーサポートセンターへお電話ください。 ● 気温が 0 ～ 35 ℃以外のときは充電されません。
ネットワークにつながらない。	● モニター設定（[設定一覧] → [モニター設定]）にある接続タイプを正しく選択していますか？ **■家モード（ワイヤレス）** ● ワイヤレス通信が途切れていませんか？ 画面上部に が表示されるところまでベースステーションに近づくか、ベースステーションの電源が入っているかを確認してください。 ● モデムやルーターの電源が入っていますか？ 入っている場合は、いったん電源を切り、しばらくたってから再度電源を入れ直してください。 ● ベースステーション LF-PK20 をクライアントモードで使用していませんか？ ベースステーションのワイヤレスモード切り換えスイッチが CLIENT になっているときは、モニターを家モードで使用できません。外モードに切り換えてください。 ● ベースステーションおよびモニターのワイヤレス設定を確認してください。（☞ 127 ページ） ● ベースステーションの回線ランプは点灯していますか？ **点灯していない場合：** － LAN ケーブルの接続を確認してください。 － 正しい LAN ケーブル（ストレートケーブルまたはクロスケーブル）を使っていますか？ ケーブルの種類については接続機器の取扱説明書、または回線事業者にお問い合わせください。 － 同時に 1 つの端末しかインターネットに接続できない契約の場合、先に他の機器を接続しているときは接続できません。 **（ADSL で接続している場合）** ● スプリッターの DSL ポートと TEL（TELEPHONE）ポートを間違えていませんか？ ● 機器の取扱説明書を参照し、ADSL モデムのランプが正しく点灯していることを確認してください。 **点灯している場合：** － インターネット設定のプロキシの設定（[設定一覧] → [インターネット] → [プロキシ]）、メールの送受信設定（[設定一覧] → [メール] → [送受信設定]）を確認してください。 － ルーターや ADSL モデムの設定は正しいですか？ － ルーターは正しく設定されていますか？

症状	対処のしかた
ネットワークにつながらない。(つづき)	■家モード(有線 LAN) • 画面上部に が表示されていますか？ 表示されてない場合は、以下のことを確認をしてください。 – モニター側に LAN ケーブルが正しく接続されていますか？ – 家モード(有線 LAN)の設定([設定一覧] → [モニター設定] → [有線モニター設定] → [有線モニター回線設定])は正しいですか？ • PPPoE を使用する LAN 回線の場合はご利用になれません。 ■外モード(ワイヤレス) •「公衆無線 LAN に接続できない」を参照してください。(☞ 155 ページ) ■外モード(有線 LAN) • 画面上部に が表示されていますか？ 表示されてない場合は、以下のことを確認をしてください。 – モニター側に LAN ケーブルが正しく接続されていますか？ – 外モード(有線 LAN)の設定([設定一覧] → [モニター設定] → [有線モニター回線設定])は正しいですか？ • PPPoE を使用する LAN 回線の場合はご利用になれません。
DHCP サーバーから IP アドレスなどの値が自動的に割り当てられない(値が表示されない)。	• LAN ケーブルの接続を確認してください。 • ご利用の回線事業者と契約上の問題があるか、回線事業者のサーバーに障害が発生している可能性があります。ご利用の回線事業者へお問い合わせください。 •「LAN 回線(DHCP)を使って接続する」(☞ 120 ページ)をご覧になり、[IP アドレス自動設定] のチェックをはずし、手動で回線の設定を入力してから [セット] を選択してください。
ネットワークに接続していたのに突然切断された。	• モデムやルーターの電源を確認してください。 • ルーターを使用している場合は、ルーターの自動回線切断機能が働いていませんか？

文字入力

症状	対処のしかた
キーボードが切り換えられない。	半角英数しか入力できない欄を入力するときは、キーボードの切り換えができません。

テレビ/ビデオ共通

症状	対処のしかた
色がつかない、おかしい。	• 画質を調整してください。 • ベースステーションに AV ケーブルおよび、アンテナ線が正しく接続されているか確認してください。
画像は出るが音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • ヘッドホンがつながっていませんか？

症状	対処のしかた
画像が映らない。	● ベースステーションの電源が入ってるか確認してください。 ● モニター設定（[設定一覧] → [モニター設定]）にある接続タイプを正しく選択していますか？ ● ベースステーション LF-PK20 をクライアントモードで使用していませんか？ ベースステーションのワイヤレスモード切り換えスイッチが CLIENT になっているときは、モニターを家モードで使用できません。外モードに切り換えてください。 ■家モード（ワイヤレス） ● ワイヤレス通信が途切れていませんか？ 画面上部に が表示されるところまでベースステーションに近づくか、ベースステーションの電源が入っているかを確認してください。 ● 近くでワイヤレス LAN のアクセスポイントなど、本機のワイヤレスチャンネルと同じ周波数（2.4 GHz/5 GHz 帯）の機器を使用していませんか？ ● ベースステーションおよびモニターのワイヤレス設定を確認してください。（☞ 127 ページ） ■家モード（有線 LAN） ● 画面上部に が表示されていますか？ 表示されていない場合は、以下のことを確認してください。 － モニター側に LAN ケーブルが正しく接続されていますか？ － 家モード（有線 LAN）の設定（[設定一覧] → [モニター設定] → [有線モニター設定] → [有線モニター回線設定]）は正しいですか？ ● PPPoE を使用する LAN 回線の場合は利用できません。 PPPoE 対応のルーターを介して接続してください。 ■外モード（ワイヤレス） 「NetAV」の「ベースステーションに接続できない。」の項をご覧ください。（☞ 156 ページ） ■外モード（有線 LAN） ● モニターに LAN ケーブルが接続されていますか？ ● テレビ / ビデオ画面下部にある [NetAV 接続] を選択しましたか？ ● 画面上部に が表示されていますか？ 表示されていない場合は、「ネットワークにつながらない」の外モード（有線 LAN）の対処のしかた（☞ 147 ページ）をご覧ください。 ● 画面上部に が表示されている場合は、「NetAV」の「ベースステーションに接続できない。」の項をご覧ください。（☞ 156 ページ） ● PPPoE を使用する LAN 回線の場合は利用できません。 PPPoE 対応のルーターを介して接続してください。

症状	対処のしかた
画像がひんぱんに止まってしまう。	■家モード（ワイヤレス） ● ワイヤレス通信が途切れている可能性があります。ベースステーションに近づいてください。 ● 近くに本機が使用しているワイヤレス通信と同じ周波数の機器があると、画像が停止することがあります。本機が使用する周波数帯の設定を変更するか、電波を出している機器から離れたところで使用してください。 ■家モード（有線 LAN） ● 家庭内 LAN で使用している場合は、10Base-T のルーターまたはハブを使用していませんか？ 10/100Base-T のルーターまたはハブを使用してください。 ■外モード（ワイヤレス）/ 外モード（有線 LAN） ● NetAV 機能を利用しているときは、インターネットの通信状態によっては、画像が止まることがあります。
ブロック状に見えることがある。	● 画像処理によるもので、故障ではありません。

テレビ

画像が出ない

症状	対処のしかた
テレビのチャンネルが 1 つも映らない（真っ黒な画面が表示される）。	● ベースステーションの電源は入ってますか？
テレビのチャンネルが 1 つも映らない（砂嵐のような画面が表示される）。	● アンテナ接続ケーブルをベースステーションにしっかりつないでください。（☞ 30 ページ） ● 自動 CH 設定で近隣の違う地域を選び直してみてください。（☞ 37 ページ） ●「チャンネル設定変更」画面で受信チャンネルを変更してください。（☞ 130 ページ）
特定のチャンネルだけが映らない。	「チャンネル設定変更」画面で受信チャンネルを変更してください。（☞ 130 ページ）
ケーブルテレビのチャンネルが正しく映らない。	本機では、C13 ～ C63 チャンネルに対応しています。それ以外のチャンネルやスクランブルがかかっているチャンネルをご覧になりたいときは、ホームターミナルを本機のビデオ入力端子に接続してください。

きれいに写らない

症状	対処のしかた
画像が二重三重になる。	● アンテナ接続ケーブルをベースステーションにしっかりつないでください。（☞ 30 ページ） ● アンテナの位置、方向、角度を調節してください。
雪が降るような画面、薄い画面。	● アンテナがこわれていたり曲がったりしていないか確認してください。 ● ベースステーションがアンテナケーブルでアンテナに正しく接続されているか確認してください。 ● 現在放送中のチャンネルを選んでいるか確認してください。
縞状のノイズが多い / 雑音が多い。	● テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。（☞ 30 ページ） ● アンテナ接続ケーブルは他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。

ビデオ

症状	対処のしかた
つないだ機器の画像が出ない。	● ベースステーションとビデオ機器が正しく接続されているか確認してください。
画面上のリモコンで操作できない。	● AV マウスをベースステーションの AV マウス端子に正しくつないでください。（☞ 30 ページ） ● AV マウスがリモコン受光部に向けて正しく設置されているか確認してください。 ● リモコン受光部の近くに蛍光灯や太陽光などの強い照明があたっているときは離して置いてください。 ● 電波状態が悪いとき、正しく動作しないことがあります。 ● 本機で、リモコンの設定をやり直してください。（☞ 133 ページ）（画面上のリモコンで操作できない機種や一部機能が操作できない機種もあります。）動作確認済み機種については、ロケーションフリーのホームページの「Q&A」（http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/）をご覧ください。 ●「リモコン設定」画面で「ビデオ入力 1」と「ビデオ入力 2」のリモコンが正しく設定されていますか？ ● つないだ機器本体のボタンを使って操作できるか確認してみてください。（画面上のリモコンで操作できない機種や一部機能が操作できない機種もあります。）動作確認済み機種については、ロケーションフリーのホームページの「Q&A」（http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/）をご覧ください。

インターネット

症状	対処のしかた
「Web サーバーに接続できません。」というエラーが表示されて接続できない。	● モニターの接続タイプが家モード（ワイヤレス）のとき、ベースステーションとモニターが通信できていますか？ ● LAN ケーブルの接続を確認してください。 ● モニターの接続タイプが家モードのときは、ベースステーションの回線設定を確認してください。詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。 ● プロキシサーバーの設定は正しいですか？（☞ 61 ページ）ご利用の回線事業者またはプロバイダにお問い合わせください。 ● ご利用の回線事業者と契約上の問題があるか、回線事業者のサーバーに障害が発生している可能性があります。ご利用の回線事業者へお問い合わせください。
ホームページの文字が正しく表示されない。	●［更新］を選んで再読込してください。 ●［戻る］、［進む］などを選んで、いったん違う画面を表示した後、もう一度そのホームページへ戻ってみてください。それでも正しく表示されない場合は、電源を切ってから入れ直してください。 ●［設定一覧］→［インターネット］→［ホームページ］を選び、文字コードの設定を確認してください。文字コードを変更した場合は、モニターを再起動してください。（☞ 62 ページ） ● インターネットで対応していない言語（対応している言語は日本語、西ヨーロッパ言語）のホームページを表示している場合は、文字が正しく表示されません。
リンクを選んでもページが表示されない。	● 本機に対応していない形式のファイルは表示できません。また、対応していないプラグインを使用しているホームページは表示できません。なお、本機で対応している Flash や PDF ファイルでも、ホームページによっては表示されないことがあります。 ● Flash を使っているホームページを表示する場合、「ホームページ」設定画面で「Flash コンテンツを有効にする」をチェックてください。（☞ 61 ページ） ● JavaScript を使っているホームページを表示する場合、正しく表示されなかったり、何度も読み込みを繰り返したりすることがあります。「ホームページ」設定画面で「JavaScript を有効にする」のチェックをはずして無効にすると正しく表示されることがあります。（通常は「JavaScript を有効にする」にチェックをつけ、有効にしておいてください。）（☞ 61 ページ） ● JavaScript で作られたホームページの一部は本機で表示できないことがあります。 ● 電波の受信状態、あるいは回線状態が悪いと、ホームページが表示されなかったり、表示されるまでに時間がかかる場合があります。

症状	対処のしかた
ホームページの一部の画像が表示されない。	● ［更新］を選んで再読み込みしてください。 ● は読み込みに失敗したファイル、または本機では表示できないファイルです。 ● ファイルサイズが大きい画像は表示できないことがあります。 ● 画面表示の一部が欠けてしまうことがあります。［更新］を選んで再読込をしてください。 ● 画像ファイルのリンクが切れている場合は、画像が正しく表示されません。 ● インターネットでは、JPEG、GIF、PNG 以外の画像ファイルを表示できません。 ● インターネットでは MPEG1 の動画ファイルは表示できません。 ● 回線が混んでいて転送に時間がかかる場合があります。そのまま待つか、しばらくたってから［更新］を選んで再読み込みしてください。 ● 電波の受信状態、あるいは回線状態が悪いと、ホームページが表示されなかったり、表示されるまでに時間がかかる場合があります。
回線接続しているのにホームページが表示されない。	● Web サーバーが混んでいる場合があります。少し時間を置いてもう一度接続し直してください。 ● Flash を使っているホームページを表示する場合、「ホームページ」設定画面で「Flash コンテンツを有効にする」にチェックをつけてください。（☞ 61 ページ） ● アドレスを確認してください。 ● プロキシの設定を確認してください。 ● Flash を使っているホームページや、重い負荷のかかるホームページを表示しようとしている場合、そのページを表示できるだけのメモリが不足していることがあります（その場合、画面上部に「サイズオーバーです」と表示されます）。他のタブを開いている場合は閉じてください。 ● JavaScript を使っているホームページを表示する場合、正しく表示されなかったり、何度も読み込みを繰り返したりすることがあります。「ホームページ」設定画面で「JavaScript を有効にする」のチェックをはずして無効にすると正しく表示されることがあります（通常は「JavaScript を有効にする」にチェックをつけ、有効にしておいてください）。（☞ 61 ページ） ● JavaScript で作られたホームページの一部は本機で表示できないことがあります。 ● 電波の受信状態、あるいは回線状態が悪いと、ホームページが表示されなかったり、表示されるまでに時間がかかる場合があります。
マークに登録したいホームページが登録できない。	フレームに対応したホームページでは、フレームの中身が追加時と異なる場合があります（アドレス欄に表示されているアドレスが追加されます）。

症状	対処のしかた
ボタンが押せない。	• ホームページの読み込み中はボタンが反応しにくくなることがあります。ホームページの読み込みが完了してからボタンを選んでください。 • ホームページの読み込みが完了しないうちは、「マーク」リストのパネル画面の［追加］や、「履歴」リストのパネル画面の［編集］、「保存」リストのパネル画面の［追加］ボタンがうすく表示されて選べないことがあります。ホームページの読み込みが完了してからやり直してください。
「入会」や「登録」などができないページがある。	ホームページによっては本機では操作できないものがあります。
［ホーム］を選んでも何も表示されない。	「ホーム」が設定されていません。ホームにしたいホームページのアドレスを設定してください。（☞ 61 ページ）
「このホームページは読込みできませんでした。」というメッセージダイアログが表示される。 「マーク」リスト、「履歴」リスト、「保存」リストから表示したいタイトルを選んでも、画面が反応しない。 ボタンを選んでもページが表示されない。	次のいずれかの可能性があります。 • 本機で対応していない形式のファイルや JavaScript を使用したホームページである。 • Web サーバーに接続できなかった。 Web サーバーに接続できなかった場合は、時間をおいて再度接続してみてください。
「サイズオーバーです」と表示される。	• 複数のタブを表示しているときは、タブを閉じてください。 • ページサイズの大きいホームページは表示できない場合があります。 • モニターの電源を入れ直してください。 • ファイルサイズの大きいファイルは表示できない場合があります。
ホームページで、「ブラウザをインストールしてください」や「バージョンアップしてください」などと表示されるが実行できない。	本機はパソコンではないので、Internet Explorer などのブラウザや、プラグイン機能などのインストール、バージョンアップには対応していません。

メール

症状	対処のしかた
メールの送受信ができない。	• メールの設定が間違っていませんか？プロバイダからの情報を確認してください。 • 複数の相手に送るときは、送り先のメールアドレスをコンマで区切ってください。 • 大量のメールアドレスにメールを送るときは、メールを何回かに分けて送ってください。 • ネットワークの設定は正しいですか？ご利用の回線事業者またはプロバイダにお問い合わせください。 • 本機はプロトコルとして POP3 と SMTP に対応しています。プロバイダに確認してください。 • 本機は SMTP 認証には対応していません。 • サーバーに障害が発生している可能性があります。時間をおいてから再度試すか、ご利用になってる回線事業者またはプロバイダーにお問い合わせください。

症状	対処のしかた
セキュリティのパスワードを忘れてしまった。	いったんセキュリティパスワードを設定すると変更にもそのパスワードの入力が必要です。メールを初期化してください。(☞ 142 ページ)
画像添付時の「画像一覧」画面で、あるはずの画像が表示されない。	• 画像を保存してある場所は合っていますか？タブを切り換えて正しい整理箱を選んでください。また、“メモリースティック”内にあるはずの画像が表示されない場合は、正しいフォルダに画像を保存したかどうか確認してください。(☞ 82 ページ) • パソコンで初期化した“メモリースティック”の場合、本体では表示できないことがあります。本機で初期化してください。
受信メールの文字が正しく表示されない。	• 文字コードは、US-ASCII、ISO-8859-1、UTF-8、ISO-2022-JP、SHIFT_JIS、EUC-JP に対応しています。それ以外の文字コードには対応していません。 •「ホームページ」画面にある［文字コード］で、メール画面で表示できる文字コードを変更できます。文字コードを変更してみてください。(☞ 62 ページ) • 受信したメールに特殊な文字が使用されていると正しく表示できません。また特殊なメールも正しく表示できません。差出人に確認してください。
HTML メールの画像が表示されない。	HTML メールによっては、画像が表示されないものがあります。
メールに添付された画像に「？」が表示される。	• 画像のサイズが大きい場合は、正しく表示できないことがあります。 • 画像が壊れています。
「サイズオーバーです」と表示される。	• インターネット画面で複数のタブを表示しているときは、タブを閉じてください。 • モニターの電源を入れ直してください。

アルバム

症状	対処のしかた
画面に「？」が表示される。	• 画像のサイズが大きい場合は、正しく表示できないことがあります。 • サムネイルまたは画像が壊れている可能性があります。
保存した画像が表示されない。	• 画像を保存してある場所は合っていますか？タブを切り換えてください。 • パソコンから“メモリースティック”に保存した画像のときは、正しいフォルダに保存したか確認してください。(☞ 82 ページ)
保存した画像が画像一覧の左上に表示されない。	日時の設定を確認してください。(☞ 125 ページ)
スライドショーができない。	1 枚の画像だけにチェックがついていませんか？チェックを外すか、2 枚以上の画像をチェックしてください。
「「ネガポジ」はメモリ不足のためできません。」などのメッセージが表示される。	• インターネット画面で複数のタブを開いているときは、タブを閉じてください。 • モニターの電源を入れ直してください。
お絵かきしている画像が見えなくなった。	［明るく］や［暗く］をくり返し押すと、元の画像が見えなくなることがあります。［最初から］または［仮決めに戻る］を選んでください。

公衆無線 LAN

症状	対処のしかた
接続できない。 （「公衆無線 LAN」画面の［現在の接続］に「SSID：....（接続先の SSID）を検索しています」と表示されたまま接続できない場合）	● 初めて利用する事業者のアクセスポイントに接続するときは、設定が必要です。 ● SSID とセキュリティは正しく設定されていますか？鍵を入力し直してください。 ●「公衆無線 LAN」画面で、［ワイヤレス LAN ネットワーク一覧］の［検索・更新］を選んでから、再度［接続］を選んでください。 ● 公衆無線 LAN 事業者の設定情報を確認してください。 ● 電波環境が悪い可能性があります。アクセスポイントに近づいてください。 ● アクセスポイントが混み合っているか、サービスが使えない時間帯またはサービスを中止している可能性があります。 ● 他の登録済みネットワークに接続してみてください。
「公衆無線 LAN」画面の［現在の接続］に SSID やチャンネルが表示されているのに、接続できない。 （画面上部のネットワークアイコンが  のまま  にならない場合）	● 正しく設定されているか確認してください。 ●「モニター設定」画面の外モード（ワイヤレス）のワイヤレス回線設定が正しいか確認してください。通常のサービス事業者は LAN 回線（DHCP/ アドレス手動）ですが、一部のサービス事業者は LAN 回線（PPPoE）となります。 ● 電波環境によっては接続できない場合があります。アクセスポイントに近づいてください。 ● 事業者によっては MAC アドレスで機器認証している場合があります。この場合は、事業者に登録した機器以外の機器からは接続できません。詳細は事業者に確認してください。
［ワイヤレス LAN ネットワーク一覧］に表示されない。	● SSID ステルス（SSID の隠蔽）機能を使用するネットワークは［ワイヤレス LAN ネットワーク一覧］に表示されない場合があります。この場合は、［新規］を選び、適切な設定を行うと［ワイヤレス LAN ネットワーク一覧］に表示されます。その一覧から接続したいネットワークを選んでから、［接続］を選んでください。 ● 電波環境が悪い可能性があります。アクセスポイントに近づいてください。
突然インターネットができなくなった。	● 同じ SSID を持つ複数の異なるアクセスポイントの電波を受信できる環境では、混信することがあります。「公衆無線 LAN」画面で、再度［接続］を選んでください。

NetAV

症状	対処のしかた
ベースステーションに接続できない。	**一度も成功したことがない：** ● ベースステーションおよびベースステーションが接続されている回線環境、ルーターなどを確認ください。 － NetAV が利用できる環境であるか確認してください。 －「赴任先などでテレビを見る」（☞ 110 ページ）をご覧ください。 ● ベースステーションの電源は入っていますか？ ● ベースステーションがインターネットに常時接続されていますか？ ● NetAV テストは成功していますか？ 詳しくは、ベースステーションの取扱説明書をご覧ください。 **今まで使えていたが、突然できなくなった：** ● モニターの接続タイプが外モード（ワイヤレス）で PPPoE で接続している場合、しばらく待ってから再接続すると接続できることがあります。 ● モニターがインターネットに接続されていますか？ インターネット画面でホームページが表示できることを確認してください。 ● ベースステーションの電源が入っているか確認してください。 **その他：** ● モニターの回線設定が正しくないか、他の機器と IP アドレスが重複している可能性があります。再度設定を確認してください。 ● モニターの回線設定で、IP アドレス自動設定を使用している場合は、IP アドレスが自動的に取得されるまで、しばらくお待ちください。また、設定を変更したときに［セット］を選んだかどうか確認してください。
画像が映らない	● テレビ / ビデオ画面下部にある［NetAV 接続］を選択しましたか？ ● 画面上部に が表示されていますか？ 表示されていない場合は、「公衆無線 LAN」の「接続できない」の項（☞ 155 ページ）をご覧ください。 ● 画面上部に が表示されているのにネットワークにつながらない場合は、「NetAV」の「ベースステーションに接続できない。」の項をご覧ください。（☞ 156 ページ） ● 公衆無線 LAN で利用していて、ネットワークにつながらない場合は、「公衆無線 LAN」の「接続できない」の項（☞ 155 ページ）をご覧ください。
画像が止まったり、コマ落ちしたりする。	● NetAV はインターネットを利用して通信を行いますので、回線が混み具合によっては、映像をスムーズに送受信できない場合があります。 ● レートの低いほうに変更して試してください。

機器登録

症状	対処のしかた
モニターを登録できない。	• モニターの接続タイプが、外モード（ワイヤレス）、または外モード（有線 LAN）のいずれかに設定されていることを確認してください。 • モニター設定の NetAV 設定にある「NetAV 接続先の設定」画面に、登録したいベースステーションの IP アドレスやドメイン名が正しく入力されていますか？ • モニター設定の NetAV 設定にある「機器登録の設定」画面に、正しい登録用パスワードを入力していますか？

学習リモコン

症状	対処のしかた
学習ができない。	• 学習させたいリモコンでビデオ機器が正しく動作しますか？ビデオ機器が正しく動作することを確認してから、学習を行ってください。 • 学習させたいリモコンの電池が消耗していませんか？新しい電池に交換してから、学習を行ってください。 • 直射日光のあたる場所や、照明器具の下などで学習を行っていませんか？このような場所では、ノイズが入って学習できないことがあります。
学習したリモコンが正しく動作しない。	何回か学習してみてください。何回試しても学習できないときは、本機がそのリモコン信号の学習に対応していないことがあります。

その他

症状	対処のしかた
ワイヤレス LAN 使用中にテレビやビデオの画像が乱れる。	モニターでテレビやビデオを見ているときに、パソコンがワイヤレス LAN を使用してデータを送受信すると、画像や音声が乱れることがあります。
画像が映るまで時間がかかる。	ベースステーションとモニターが接続されている場所や回線の混み具合によっては、通信に時間がかかることがあります。

- インターネットの接続についてのご質問は、ご利用の回線事業者やプロバイダにお問い合わせください。
- よくある質問についてのページ　**http://www.sony.co.jp/locationfree/QA/**

保証書とアフターサービス

本機の保証書およびアフターサービスは日本国内においてのみ有効です。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合の悪いときはロケーションフリーカスタマーサポートセンターへ

ロケーションフリー カスタマーサポートセンター（☞ 裏表紙）にご相談ください。
インターネットの接続については、ご利用の回線事業者またはプロバイダにお問い合わせください。

修理について

当社では、当社指定業者がお客様宅にうかがい、モニターと AC パワーアダプターを合わせて引取修理します。
修理完了後に、再度お届けします。詳しくは、本取扱説明書裏表紙の「ご案内」をご覧ください。
なお、修理の際にユーザー情報、各種設定の他、すべてのデータが消えてしまう可能性がありますので、必要な情報は控えておいてください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により日本国内にて有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ロケーションフリーカスタマーサポートセンターにご相談ください。

部品の交換について

この商品は、修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意を頂いた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

型名：　LF-12MT1
製造番号：　モニター裏面または保証書に記載されています
故障の状態：できるだけ詳しく
購入年月日：

お買い上げ店
TEL.

Warranty and customer support are provided for customers in Japan only. This product is designed for Japanese broadcasting standards and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

ビデオ信号方式	NTSC 方式
画面寸法	12.1 型、24.9 × 18.7 cm （幅 × 高さ）
表示方式	透過型 TN 液晶パネル
駆動方式	TFT（薄膜トランジスタ）アクティブマトリックス駆動方式
有効画素率	99.99 %
有効画素数	水平　800 ドット 垂直　600 ライン
使用スピーカー	2.8 × 4 cm　楕円 × 2
音声出力	実用最大 0.8 W × 2（JEITA）、8 Ω

Web ブラウザ

HTML	HTML 4.01、XHTML Basic 1.0、フレーム対応、JavaScript、SSL（V2/3）、TLS 1.0、JavaApplet（PJAE 1.2 対応）
イメージファイル	GIF、JPEG、PNG
文字コード	US-ASCII、ISO-8859-1、UTF-8、ISO-2022-JP、SHIFT_JIS、EUC-JP
Flash	Ver. 6
PDF	Adobe Reader LE V1.0

電子メール

送信プロトコル	SMTP
受信プロトコル	POP3

アルバム

アルバム対ファイル	GIF、JPEG、PNG、BMP、MPEG1 ムービー（MPG）

入出力端子

DC IN 端子	DC（16 V）
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック 負荷インピーダンス 16Ω 以上
LAN 端子	RJ45 コネクター（1）
メモリースティックスロット（1）	
USB 端子	USB 1.1（1）
AV IN 端子	ミニジャック（1）
学習リモコン用受光部（1）	

その他

消費電力	約 55 W（テレビ視聴時、バッテリー充電時） 約 24 W（テレビ視聴時、バッテリー使用時） 約 43 W（電源オフ、バッテリー充電時）
動作温度	0 °C ～ 35 °C
保存温度	－ 10 °C ～＋ 45 °C
最大外形寸法	約 34.1 × 23.7 × 5.3（cm） （幅×高さ×奥行き）（突起部含まず）
質量	約 2.3Kg（バッテリー BP-LX11A 装着時）
通信距離	屋内約 30 m（ただし周辺環境の条件によって変わります）
準拠規格	IEEE802.11 a/b/g
使用周波数帯	2.4 GHz 帯：1 ～ 11ch 5GHz 帯：36、40、44、48、52、56、60、64ch (W52/W53)
変調方式	DS-SS/OFDM
電源	AC パワーアダプター使用時：100 V、50/60 Hz バッテリー使用時：4,400 mAh
バッテリー使用可能時間	
	約 4 時間 （バックライトの明るさ、最小時） 約 3 時間 （バックライトの明るさ、標準時） 約 2 時間 （バックライトの明るさ、最大時）

バッテリー充電時間

	約 3 時間（モニター電源 ON のとき）
	約 2 時間（モニター電源 OFF のとき）

AC パワーアダプター AC-LX1M

電源	AC100 V ～ 240 V、50/60 Hz、70 VA
定格出力	DC OUT：DC16 V、3.75 A
動作温度	0 °C ～ 35 °C
保存温度	－ 10 °C ～＋ 60 °C
最大外形寸法	約 125 × 30 × 60 mm（幅×高さ×奥行き、最大突起部含まず）
質量	約 300 g

バッテリー　BP-LX11A

公称電圧	DC10.8 V
容量	4,400 mAh
種類	リチウムイオン蓄電池
最大外形寸法	約 123.6 × 88.0 × 20.5 mm（幅×高さ×奥行き、最大突起部含まず）
質量	約 320 g
動作温度	0 °C ～ 35 °C
保存温度	－ 10 °C ～＋ 35 °C

付属品

バッテリー BP-LX11A（1）
タッチペン（1）
AC パワーアダプター AC-LX1M（1）
電源コード（1）
取扱説明書（1）
かんたん準備ガイド（1）
「使用上のご注意」シール（1）
保証書（1）

別売りアクセサリー

AC パワーアダプター AC-LX1M
バッテリーパック　BP-LX11A
お風呂ジャケット LFA-F2
クレードル LFA-C1/B
“メモリースティック”
AV ケーブル VMC-20FF、VMC-20FR

2006 年 10 月現在の別売りアクセサリーです。万一、品切れや生産完了のときはご容赦ください。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

と

に

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

も

ゆ

よ

り

ろ

わ

商標などについて

- 本製品はインターネット機能として 株式会社ACCESS の NetFront® を搭載しています。
- NetFront® は 株式会社ACCESS の日本国およびその他の国における登録商標または商標です。
- “LocationFree（ロケーションフリー）” はソニー株式会社の登録商標です。
- “ メモリースティック ”、POBox はソニー株式会社の登録商標です。
- “ メモリースティック デュオ ” はソニー株式会社の商標です。
- So-net は、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本ソフトウェアの一部分に、Independent JPEG Group が開発したモジュールが含まれています。
- 本製品は Adobe Systems Inc. の Adobe Reader を搭載しています。

  Adobe, Adobe ロゴおよび AdobeReader は、Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。
- Ethernet は米国 XEROX 社の登録商標です。イーサネットは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- ATOK は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- 本機は、Adobe® Flash® Player 技術を使用しています。Flash は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- powered with intent、Intent は Tao Group Limited. の登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems,Inc. の商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では ™、® マークは明記していません。

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

この度は弊社製ロケーションフリー液晶モニター LF-12MT1（以下「本製品」とします）をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品のご使用を開始される前に必ず、本製品に含まれるソフトウェアに関するこのお知らせをお読みください。
お客様による本製品の使用開始をもって、このお知らせの内容をご確認の上、ご同意いただけたものとさせていただきます。

ソフトウェア使用許諾契約書

本製品に含まれるソフトウェア（以下「許諾ソフトウェア」とします）につきまして、下記のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

なお、本製品には GNU Lesser General Public License の適用を受けるソフトウェアが含まれていますが、かかるソフトウェアは「許諾ソフトウェア」には含まれず、下記ソフトウェア使用許諾契約書の対象とはなりませんのでご注意ください。GNU LGPL 適用ソフトウェアの使用許諾条件については、「GNU LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ」をご覧ください。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、お客様（以下「使用者」とします）と弊社（以下「ソニー」とします）との間での許諾ソフトウェアの使用権の許諾に関して合意するものです。

第１条（総則）
ソニーは、許諾ソフトウェアの日本国内における非独占的かつ譲渡不能な使用権を使用者に許諾します。

第２条（使用権）
1. 本契約によって生ずる許諾ソフトウェアの使用権とは、本製品上においてのみ、使用者が許諾ソフトウェアを使用する権利をいいます。
   使用者は、かかる許諾ソフトウェアの使用に必要な範囲において、本製品の取扱説明書の許諾ソフトウェアに関連する部分を使用できるものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類の一部もしくは全部を複製、複写もしくは修正、追加等の改変をすることができません。
3. 許諾ソフトウェアの使用は私的範囲に限定されるものとし、許諾ソフトウェアを営利目的を含むいかなる目的でも貸与または頒布する事はできません。
4. 使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書に記載の使用方法に沿って使用するものとします。

第３条（許諾条件）
1. 使用者は、前条に規定する使用権を第三者に譲渡することはできないものとします。
2. 使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類等を日本国外に輸出、移送をしてはならないものとします。
3. 使用者は、許諾ソフトウェアに関し逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。

第４条（許諾ソフトウェアの権利）
許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ソニーまたはソニーが許諾ソフトウェアの再許諾権を許諾された原権利者（以下原権利者とします）に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第５条（ソニーおよび原権利者の免責）
ソニーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアについて何等の保証を行うものではなく、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者もしくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。

第６条（第三者に対する責任）
使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、使用者自身が自らの費用で解決するものとし、ソニーおよび原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第７条（秘密保持）
使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報および本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ソニーの承諾を得ることなく第三者に開示または漏洩しないものとします。

第８条（契約の解除）
ソニーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、またはそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。
(1) 本契約に定める条項に違反したとき
(2) 差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第９条（許諾ソフトウェアの廃棄）
前条の規定により本契約が終了した場合、使用者は契約の終了した日から２週間以内に許諾ソフトウェア、関連書類およびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第10条（その他）
1. 本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2. 本契約に定めなき事項もしくは本契約の解釈に疑義を生じた場合には、ソニー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。

以　上

GNU LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下の GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付の LGPL の条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

パッケージリスト

LIVE.COM Streaming Media

これらのソースコードは、Web でご提供しております。
ダウンロードする際には、以下の URL にアクセスしてください。
http://www.sony.co.jp/locationfree/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.
To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same

job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/ Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/ or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

   (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a

patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

> <one line to give the library's name and an idea of what it does.>
> Copyright (C) <year> <name of author>
>
> This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.
>
> This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.
>
> You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

> Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

AES Encryption Library

LICENSE TERMS

The free distribution and use of this software in both source and binary form is allowed (with or without changes) provided that:

1. Distributions of this source code include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
2. Distributions in binary form include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other associated materials;
3. The copyright holder’s name is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

ALTERNATIVELY, provided that this notice is retained in full, this product may be distributed under the terms of the GNU General Public License (GPL), in which case the provisions of the GPL apply INSTEAD OF those given above.

DISCLAIMER

This software is provided ‘as is’ with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

MD5 - Message Digest

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "as is" without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

OpenSSL

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/).

OpenSSL License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Original SSLeay License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word "cryptographic" can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.